

---

---

男女共同参画に関する  
市民意識調査報告書

---

---



幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統

令和 4年 1月

都城市

コミュニティ文化課 男女参画・消費生活担当

---

---

## 目次

---

---

<b>1</b>	<b>調査の概要</b>	<b>1</b>
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象	1
(3)	調査方法	1
(4)	調査期間	1
(5)	回収結果	1
(6)	集計上の留意点	1
<b>2</b>	<b>調査結果の概要</b>	<b>2</b>
(1)	回答者の属性について	2
(2)	男女共同参画に関する意識について	2
(3)	仕事・子育て・教育について	3
(4)	男女共同参画の推進について	4
(5)	ハラスメント・暴力について	4
(6)	調査結果の考察	5
<b>3</b>	<b>調査結果</b>	<b>6</b>
(1)	回答者の属性について	6
(2)	男女共同参画社会づくりに関する取組についてのご意見	6 8
<b>4</b>	<b>調査表</b>	<b>8 3</b>

# 1 調査の概要

## (1) 調査目的

平成28年度の意識調査以降、男女共同参画社会に向けた取組が進む中、現在の市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握するとともに、令和4年度に行う「第4次都城市男女共同参画計画」策定作業の基礎資料とする。

## (2) 調査区域と対象者

区域：市内全域

対象者：18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）

※10代、20代・・・70代、80代以上と年代で按分した無作為抽出

## (3) 調査方法

①郵送による配布・回収及びインターネット上での回収

②広く意見を募るため市HPにて調査対象外の方でも回答できるフォームを作成し、回答を募集

※アンケート内容は、ほぼ同一であるが調査対象者と分けて集計する。

## (4) 調査期間

令和3年6月1日（火）～6月29日（火）

## (5) 回収結果

配布件数	有効回答数	有効回収率
3,000件	954件 (うち郵送：757件 インターネット：197件) 市HP調査対象外の方からの回答：12件	31.8%

## (6) 集計上の留意点

①グラフ中の「n＝」は、母数となるサンプル数（回答者数）を示す。

②集計結果は百分率で算出し、四捨五入（小数点第2位）の関係上、百分率の合計が100%にならない場合がある。

③今回の調査には、単数回答／複数回答など回答の選択数の違いにより、回答の合計数が総回答者数と合わないことがある。

④今回の調査結果には選択肢以外の回答の記載については集計に含まれていない。

⑤「その他」の意見欄で、特に類似している意見については代表として一つを記載する。

## 2 調査結果の概要

### (1) 回答者の属性について

(問1～5)

回答者の性別は、「女性（女性と自認している）」が60.7%、「男性（男性と自認している）」が38.7%、「その他」が0.4%となっています。回答者の年代別では、就労等に多くかかわっていると想定される「20～59歳」からの回答が50.6%となっています。（図表3-1-1、3-1-2）

職業については、「常勤の勤め」が37.4%、「非常勤の勤め」が17.3%となっており、全てまとめると、64%の方が就業しています。「男性（男性だと自認している）」と回答した中で就業している人の割合が68.1%となっており、「女性（女性だと自認している）」と回答した中で就業している人の割合が61.9%となっています。「結婚している」と回答した中で、就業している人は69.2%となっています。（図表3-1-3）

子どもの有無については、平成28年度市民意識調査（以下、「前回調査」という。）では「いる」と回答した割合が80.6%に対して、今回の調査では「いる」と回答した割合は70%でした。

(図表3-1-5)

### (2) 男女共同参画に関する意識について

(問6～8、17)

#### ① 各分野の男女の地位の平等について

「非常に平等」「平等」と回答した人が最も多い分野は、「学校教育の場」が63.7%となっています。対して、「全く平等でない」「平等でない」と回答した人が最も多い分野は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が68.4%となっています。（図表3-2-1）

性別でみると、「男性（男性だと自認している）」が「非常に平等」「平等」と最も多く回答した分野は「家庭生活」で75.8%、「全く平等でない」「平等でない」と最も多く回答した分野は「政治の場」で59.6%となっています。また、「女性（女性だと自認している）」が「非常に平等」「平等」と最も多く回答した分野は「学校教育の場」で59.9%、「全く平等でない」「平等でない」と最も多く回答した分野は「社会通念・慣習・しきたりなど」で75.1%となっています。

(図表3-2-2、3-2-4、3-2-6、3-2-8)

#### ② 家庭での夫婦の役割分担について

「妻と夫」と回答した人が最も多い項目は「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で49.1%となっています。「男性（男性だと自認している）」と回答した人の中で、「妻と夫」と回答した人が最も多い項目は「家庭内における最終的な判断」で50.9%、次いで「育児、子どものしつけなど」が49.1%となっています。また、「女性（女性だと自認している）」と回答した人の中で、「妻と夫」と回答した人が最も多い項目は「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で50.6%、次いで「家庭内における最終的な判断」で48.0%となっています。（図表3-2-10、3-2-11、3-2-13、3-1-17）

家庭での夫婦の役割分担【理想】についてはすべての項目で6割以上の方が「妻と夫」を回答しており、男性の家事・育児等参加への機運が増していることがうかがえます。（図表3-2-18）

### ③ 結婚・家庭・離婚について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「非常に反対」「反対」と回答した人は76.7%となっています。これは、第3次都城市男女共同参画計画策定の際の基準値【2015年度ふれあいアンケート】の34.1%を大きく上回っており、結婚・家庭・離婚に関して市民の意識が変化していることがうかがえます。また、若年層と高齢層では回答に非常に大きな差が生じる結果となりました。（図表 3-2-19）

## (3) 仕事・子育て・教育について

(問 10～16)

### ① 職場での男女の地位、待遇について

「仕事の内容や待遇面で、男性が女性に比べ優遇されていると思うもの」については、「賃金」が25.0%次いで「昇進・昇格」が20.1%、「幹部職員への登用」が12.5%となっています。対して「仕事の内容や待遇面で、女性が男性に比べ優遇されていると思うもの」については、「特になし・分からない」が46.8%、「結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量」が22.0%、「仕事の質や量」が11.8%となっています。前回調査でも「賃金に差別がある」が24.2%となっており、全体として「賃金」に関しては前回調査同様に差があると感じている人が多くいることが分かります。

(図表 3-2-26、3-2-27)

### ② 学校教育の場における男女の地位の平等意識の育成について

「ランドセルや学習用品の男女別の色分けを行うこと」が、男女の地位の平等意識の育成を「非常に妨げる」「妨げる」と回答した割合は57.5%、前回調査の「ランドセルや学習用品の男女別の色分けが男女平等意識醸成の阻害要因である。」に「少しそう思う（非常にそう思う）」と回答した割合が32.7%に比べ高くなっており、男女別の色分けに対するジェンダー意識が大きく変化したこと分かります。「教師の男女平等意識が足りないこと」についても、今回の調査で63.5%の人が「非常に妨げる」「妨げる」を回答していたのに対し、前回調査では「男女平等意識醸成の阻害要因だと少しそう思う（非常にそう思う）」と回答した人が36.1%となっており、学校教育に対しても男女平等の意識が拡大していることがうかがえます。

(図表 3-2-29)

### ③ 育児・介護休業制度について

「育児・介護休業制度を利用したことがある」「夫婦で育児介護休業制度を利用したことがある」と回答した人は10.8%となっています。性別でみると、「女性（女性と自認している）」と回答した人で利用したことがある方は15.9%、「男性（男性と自認している）」と回答した人で利用したことがある人は2.7%となっています。厚生労働省が発表した2020年度の男性の育児休業制度取得率が12.65%だったのに対し、本市ではまだまだ取得率が低い状況です。

「子どもがいる」と回答した人の中で「育児・介護休業制度は知っているが、利用したことがない」と回答した人は54.8%となっています。60歳以上の人の中には、「自分の時代にはその様な制度が無かった」との意見も多くみられました。（図表 3-2-39）

#### (4) 男女共同参画の推進について

(問18、19、25)

##### ① 都城市男女共同参画センターの認知度について

「啓発事業に参加した又は相談業務を利用したことがある」が0.7%、「知らない」が53.8%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が33.6%となっています。前回調査でも「知らない」「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が80.7%であったように、都城市男女共同参画センターについての認知度は依然として低いことがわかります。また、都城市男女共同参画センターに対し、一人ひとりの個性が活かせる社会づくりを推進していくための要望として、「学校教育における男女の地位の平等を育成する教育の推進」が25.1%となっており、学生から高齢者までの幅広い年代への効果的な周知・啓発のあり方について再度検討する必要があります。

(図表 3-2-41、3-2-42)

##### ② 男女共同参画の視点に立った避難所の運営について

「安全で行きやすい男女別及び多目的トイレが設置されている」が14.1%、次いで「授乳室(椅子、授乳用の枕やクッション、オムツ替えスペース)がある」が13.0%、「更衣室、休養スペースの場所が、男性用と女性用が離れている」が11.7%となっています。性別でみても男女共同参画の視点に立った避難所の運営で必要なことは、全体の総計とほとんど同様の推移でした。

(図表 3-2-48)

#### (5) ハラスメント・暴力について

(問20～24)

##### ① ハラスメントについて

職場や学校、地域でハラスメントを経験したという回答数は697となっております。項目別で見ると「モラル・ハラスメント」(316)、次いで「パワー・ハラスメント」(268)となっています。性別で見ると「女性(女性と自認している)」で回答した人の中で最も多かったのは「モラル・ハラスメント」で46.3%だったのに対し、「男性(男性と自認している)」で回答した人の中で最も多かったのは「パワー・ハラスメント」で48.9%となっております。また、就業している人の中で最も多く回答があったのは「モラル・ハラスメント」で45.3%となっています。

(図表 3-2-43)

##### ② 配偶者からの暴力について

全体として配偶者やパートナー間で暴力を受けたことがあるという回答数は244でした。いずれの項目でも、「女性(女性だと自認している)」からの回答が多いですが、「男性(男性だと自認している)」からも、配偶者やパートナー間で暴力を受けたことがあると回答があります。

DVを受けた際の相談については、「相談した」と回答した人に比べ、「相談できなかった」「相談したもの・できなかったものがある」「相談したくない」と回答した人が約2倍の回答数となっています。相談しなかった理由については、「自分さえ我慢すれば、なんとか生活できると思ったから」が最も多く、次いで「誰にも言いたくなかった」となっています。自分だけで悩まずに、気軽に相談できる環境づくりが必要だと考えられます。さらに、「どこに相談してよいかわからなかった」と回答した人も多く、相談しなかった・できなかったことでDVによる被害がエスカレートする可能性もあるため、さらなる相談窓口等の充実・周知が必要だと考えられます。

(図表 3-2-44、3-2-45、3-2-46)

## (6) 調査結果の考察

### ■ 調査結果から分かった第3次都城市男女共同参画計画の取組効果について

前回調査と比較して、回答の割合が大きく変化した項目の一つとして学校・教育に対する男女共同参画の意識があげられます。調査結果の通り学校教育における男女の地位の平等意識の育成の影響について、男女の性別により固定化した教育については、「妨げる」との回答が多くありました。第3次都城市男女共同参画計画（以下「計画」という。）において、学校における男女共同参画の推進については、基本目標Ⅰ「男女共同参画社会の実現に向けた意識の改革」の重点課題3「男女共同参画の視点に立った教育・学習の推進」に施策を示しています。計画期間中の取組みとして、道徳・学級活動で人権（セクシャリティの多様性やジェンダーの平等）をテーマとした教育等を令和元年度は市内54校で実施し、教職員が参加する人権研修会の参加の推進を行っています。また小・中学校の男女混合名簿の活用についても計画策定時（平成29年度3月）では、実施校が0校だったのに対し、令和2年度には54校が男女混合名簿の活用を導入しました。調査結果の変化からみても、本計画期間で行政が実施する本市の学校・教育において、男女共同参画が推進されたと考えられます。男女平等意識の形成は生まれた時からの育ってきた環境や受けてきた教育が大きく関わっていると言われていています。特に人格形成期にあたる児童・学生への教育は、男女平等の意識づくりに大きな影響を及ぼすことから、極めて重要な役割を担っています。次世代を担う児童・生徒たちが、性別等によってその可能性が狭められることなく、将来を見通した自己形成を図りながら健やかに育つように、学校・教育での男女共同参画の理解の推進をしていきます。

一方、計画の取組効果が表れていない項目として、都城市男女共同参画センターの認知度の低さがあげられます。計画における都城市男女共同参画センターの相談窓口の周知・広報については、基本目標Ⅱ「あらゆる分野における男女共同参画の推進」の重点課題6「働く場における男女共同参画の推進」、重点課題7「様々な分野における男女共同参画の推進」、基本目標Ⅲ「誰もが安全安心に暮らせる社会づくり」の重点課題9「配偶者に対するあらゆる暴力の根絶」、重点課題10「支援を必要とするすべての人が安心して暮らせる環境の整備」と幅広く施策が示されています。計画期間中の新型コロナウイルス感染症が拡大する以前は、男女共同参画に関する講演会等を実施し、周知に努めてまいりましたが、感染拡大後は中止を余儀なくされています。一方で感染症拡大後も放課後児童クラブへの出前講座、市庁舎内の女性用トイレに相談窓口カードの設置、広報都城への掲載などは継続していますが、調査結果の通り成果が現れていない状況です。

今回の調査結果を踏まえて現状の課題を洗い出し、すべての人が互いにその人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮することができる社会、また、性別にかかわらず誰もが対等に社会に参画し、その成果も責任も分かち合う豊かな男女共同参画社会の実現を目指すために都城市第4次男女共同参画計画の策定を行います。

#### 【参考】

- 第3次都城市男女共同参画計画 平成30年度実施状況報告
- 第3次都城市男女共同参画計画 令和元年度実施状況報告
- 第3次都城市男女共同参画計画 令和2年度実施状況報告取りまとめデータ



### 3 調査結果

#### 回答者の属性について

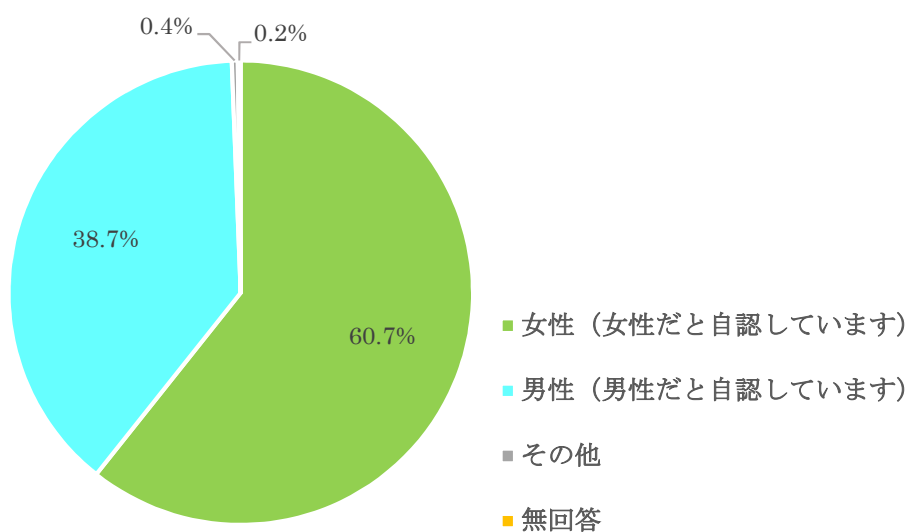
問1 あなたの性別を教えてください。(戸籍上の性別に関わらずご自身が自認される性別でご回答ください)

性別については「女性(女性だと自認している)」が60.7%、「男性(男性だと自認している)」が38.7%、「その他」が0.4%となっている。

(図表 3-1-1)

	回答数	割合
女性(女性だと自認しています)	579	60.7%
男性(男性だと自認しています)	369	38.7%
その他	4	0.4%
無回答	2	0.2%
合計	954	100.0%

(n = 954)

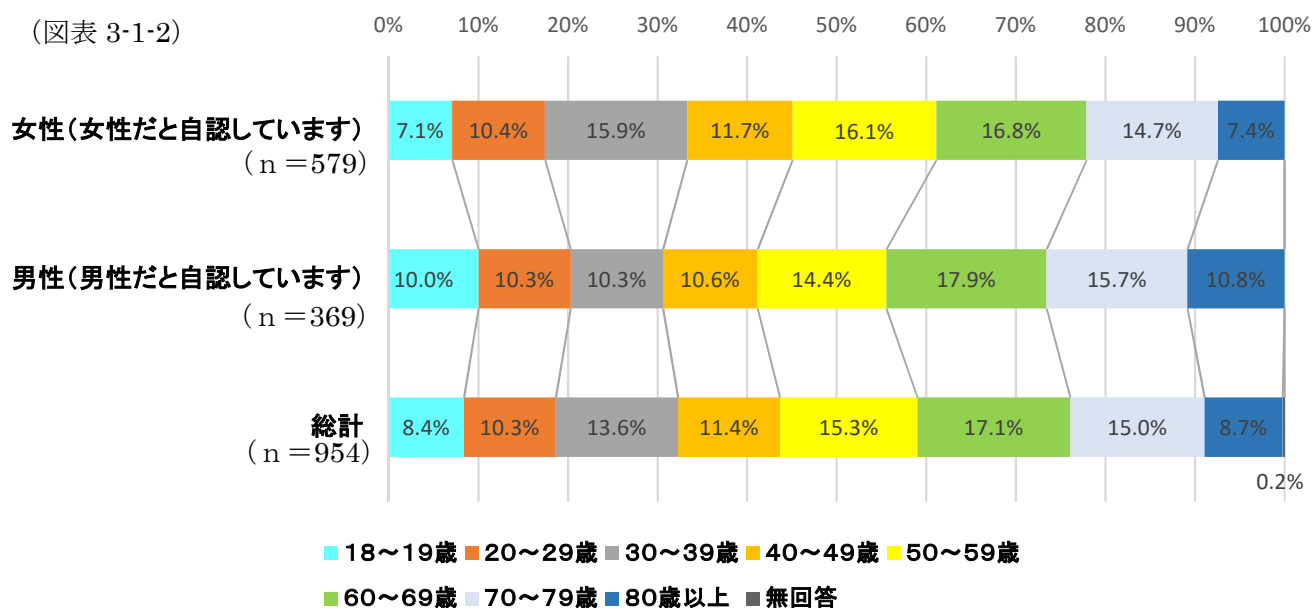




## 問2 年齢を教えてください。

年齢については、60代（17.1%）の割合が最も高く、次いで50代（15.3%）、70代（15.0%）となっている。

(図表 3-1-2)

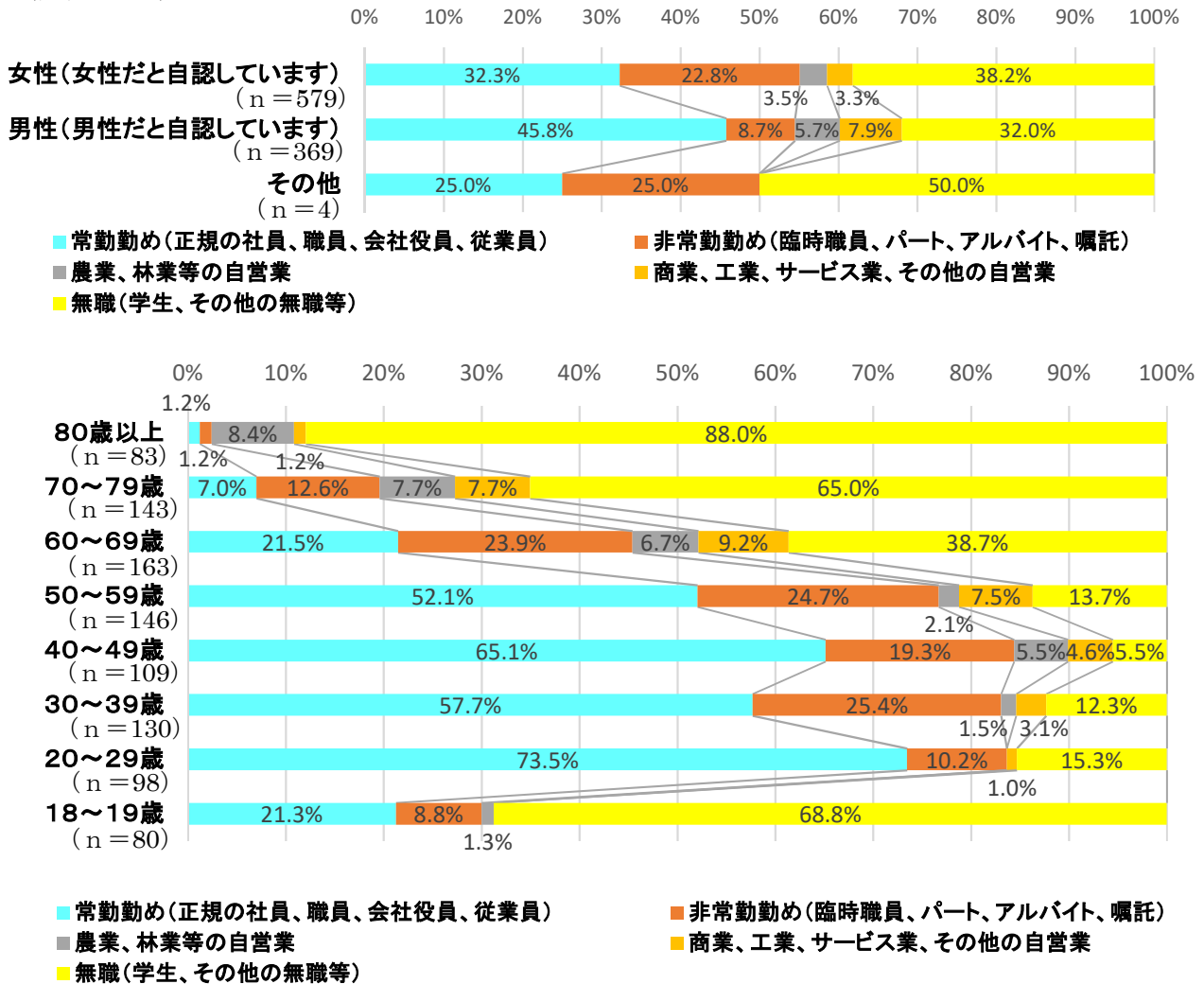


※小数点第2位を 四捨五入しているため 合計が 100%にならない場合 がある	総計		女性 (女性だと 自認しています)		男性 (男性だと 自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
18~19歳	80	8.4%	41	7.1%	37	10.0%	2	50.0%
20~29歳	98	10.3%	60	10.4%	38	10.3%	0	0.0%
30~39歳	130	13.6%	92	15.9%	38	10.3%	0	0.0%
40~49歳	109	11.4%	68	11.7%	39	10.6%	2	50.0%
50~59歳	146	15.3%	93	16.1%	53	14.4%	0	0.0%
60~69歳	163	17.1%	97	16.8%	66	17.9%	0	0.0%
70~79歳	143	15.0%	85	14.7%	58	15.7%	0	0.0%
80歳以上	83	8.7%	43	7.4%	40	10.8%	0	0.0%
無回答	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	954	100.0%	579	100.1%	369	100.0%	4	100.0%

問3 あなたのご職業は何ですか。

雇用形態について、「常勤勤め」(37.4%)の割合が最も多く、次いで「無職」(35.7%)、「非常勤勤め」(17.3%)となっている。

(図表 3-1-3)

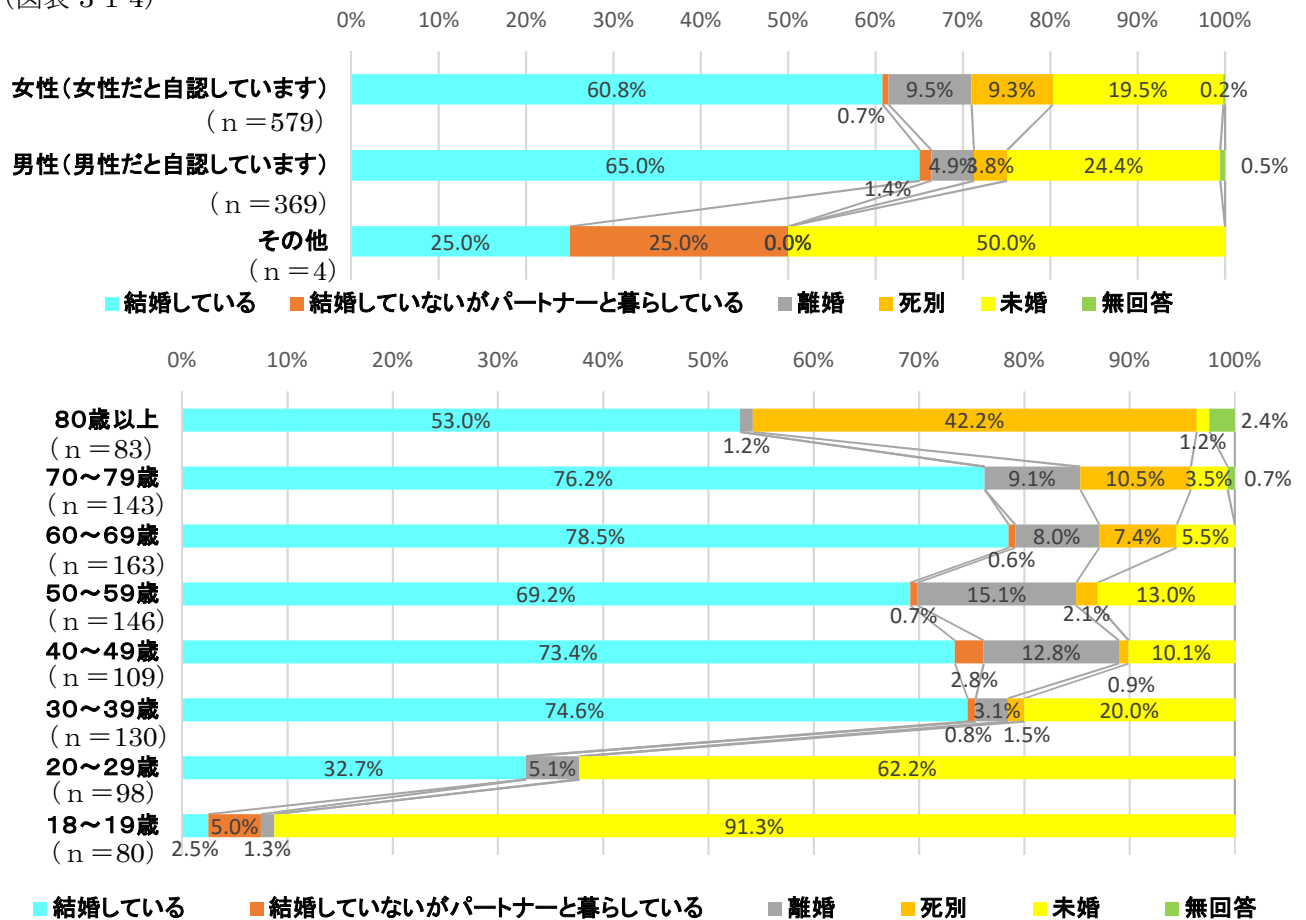


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性 (女性だと自認しています)		男性 (男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
常勤勤め	357	37.4%	187	32.3%	169	45.8%	1	25.0%
非常勤勤め	165	17.3%	132	22.8%	32	8.7%	1	25.0%
農業、林業等の自営業	41	4.3%	20	3.5%	21	5.7%	0	0.0%
商業、工業、サービス業、その他の自営業	48	5.0%	19	3.3%	29	7.9%	0	0.0%
無職	341	35.7%	221	38.2%	118	32.0%	2	50.0%
無回答	2	0.2%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	954	99.9%	579	100.1%	369	100.1%	4	100.0%

問4 現在結婚していますか。

「結婚している」(62.2%)が最も高く、次いで「未婚」(21.5%)となっている。

(図表 3-1-4)

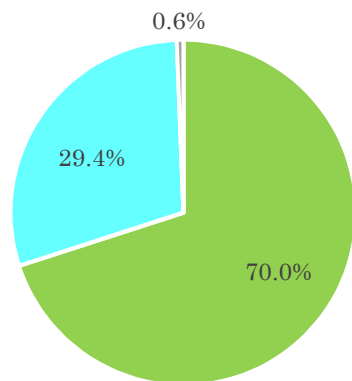


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
結婚している	593	62.2%	352	60.8%	240	65.0%	1	25.0%
結婚していないがパートナーと暮らしている	10	1.0%	4	0.7%	5	1.4%	1	25.0%
離婚	73	7.7%	55	9.5%	18	4.9%	0	0.0%
死別	68	7.1%	54	9.3%	14	3.8%	0	0.0%
未婚	205	21.5%	113	19.5%	90	24.4%	2	50.0%
無回答	5	0.5%	1	0.2%	2	0.5%	0	0.0%
合計	954	100.0%	579	100.0%	369	100.0%	4	100.0%

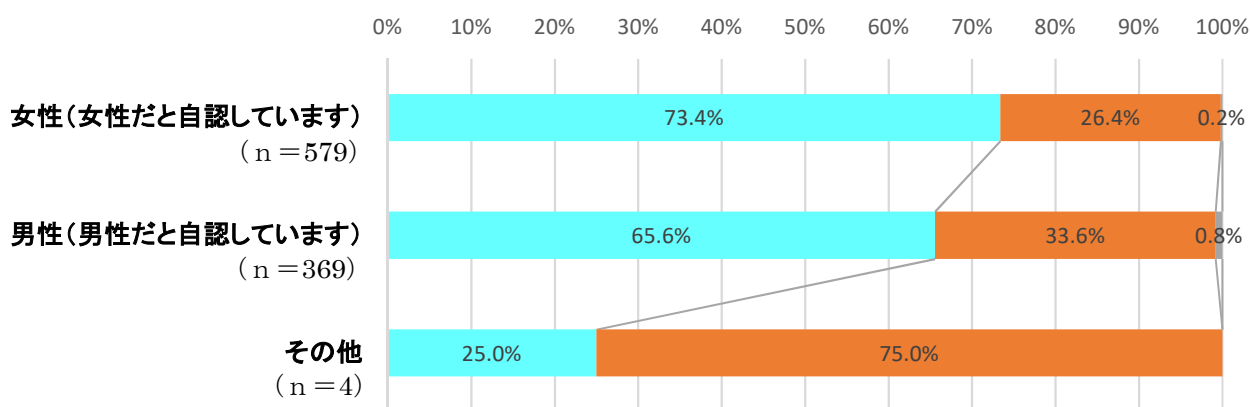
問5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。

全体として「いる」(70.0%)となっており、「男性(男性と自認している)」で「いる」(65.6%)「女性(女性と自認している)」で「いる」(73.4%)となっている。

(図表 3-1-5)



■ いる ■ いない ■ 無回答



■ いる ■ いない ■ 無回答

※小数点第2位を 四捨五入しているため 合計が 100%にならない場合 がある	総計		女性(女性だと 自認していま す)		男性(男性だと 自認していま す)		その他	
	回 答	割 合	回 答	割 合	回 答	割 合	回 答	割 合
いる	668	70.0%	425	73.4%	242	65.6%	1	25.0%
いない	280	29.4%	153	26.4%	124	33.6%	3	75.0%
無回答	6	0.6%	1	0.2%	3	0.8%	0	0.0%
合計	954	100.0%	579	100.0%	369	100.0%	4	100.0%

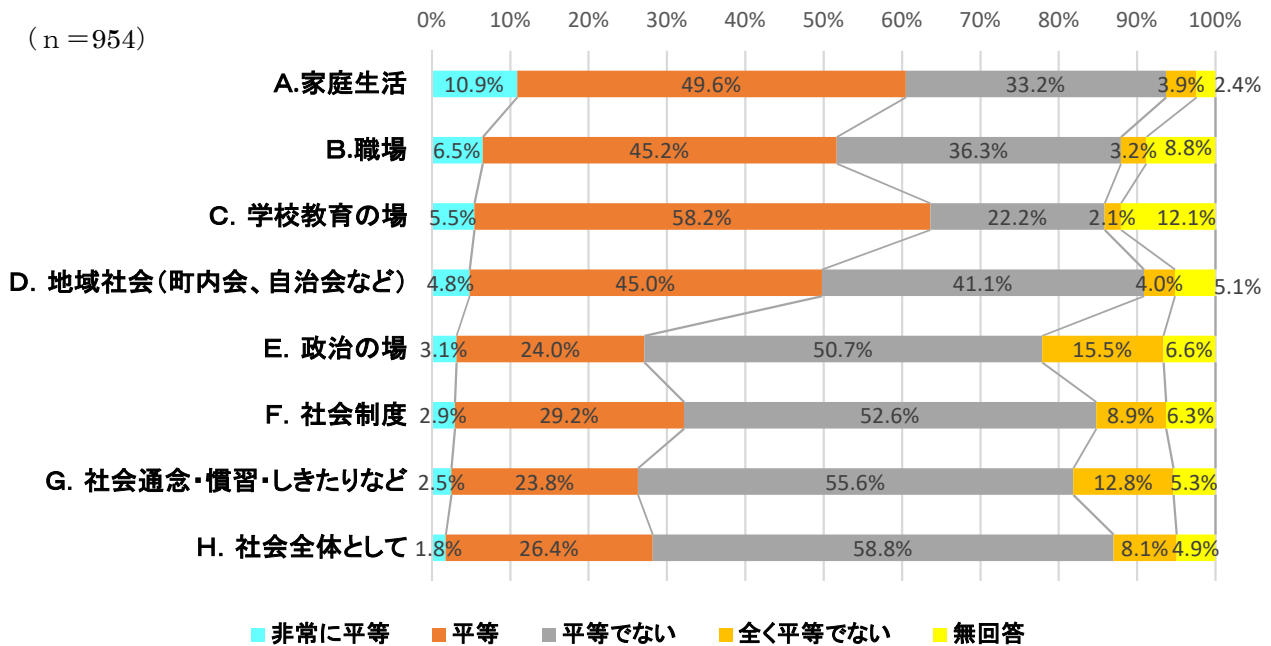
## 男女共同参画についての質問

問6 男女の地位について、あなたは次のA～Hにあげるような分野で、平等であると思いますか。

「平等でない」「全く平等でない」の割合が最も高いのは「社会通念・慣習・しきたりなど」(68.4%)、次いで「社会全体として」(66.9%)となっている。また、「平等」「非常に平等」の割合が最も高いのは「学校教育の場」(63.7%)、次いで「家庭生活」(60.5%)となっている。

(図表 3-2-1)

(n = 954)

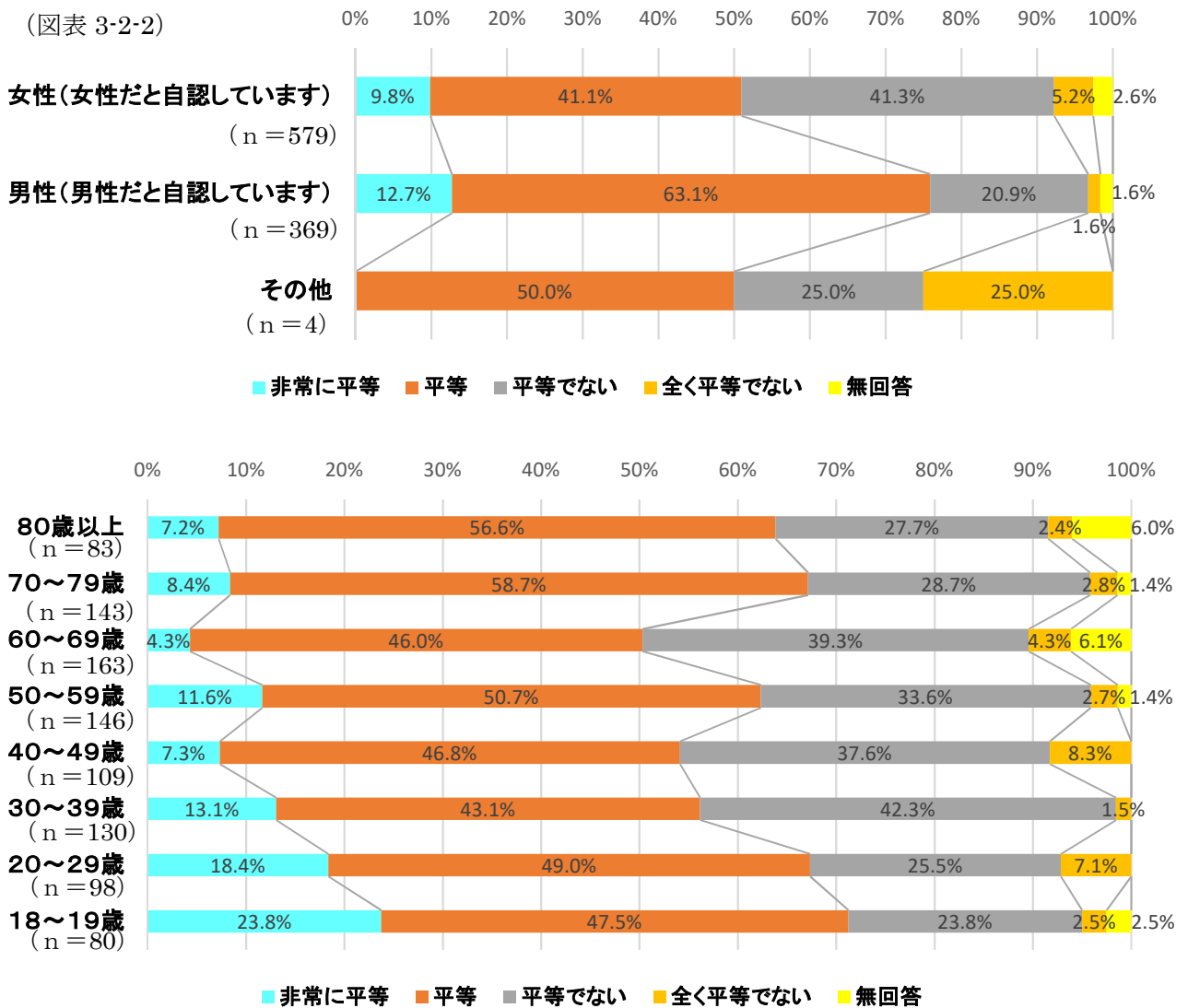


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A.家庭生活		B.職場		C.学校教育の場		D.地域社会(町内会、自治会など)		E.政治の場		F.社会制度		G.社会通念・慣習・しきたりなど		H.社会全体として	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	104	10.9%	62	6.5%	52	5.5%	46	4.8%	30	3.1%	28	2.9%	24	2.5%	17	1.8%
平等	473	49.6%	431	45.2%	555	58.2%	429	45.0%	229	24.0%	279	29.2%	227	23.8%	252	26.4%
平等でない	317	33.2%	346	36.3%	212	22.2%	392	41.1%	484	50.7%	502	52.6%	530	55.6%	561	58.8%
全く平等でない	37	3.9%	31	3.2%	20	2.1%	38	4.0%	148	15.5%	85	8.9%	122	12.8%	77	8.1%
無回答	23	2.4%	84	8.8%	115	12.1%	49	5.1%	63	6.6%	60	6.3%	51	5.3%	47	4.9%
合計	954	100%	954	100%	954	100%	954	100%	954	100%	954	100%	954	100%	954	100%

## A. 家庭生活

「非常に平等」「平等」と回答したのは女性（50.9%）より男性（75.8%）の方が高く、年代別で見ると10代（71.3%）が最も高くなっている。

(図表 3-2-2)

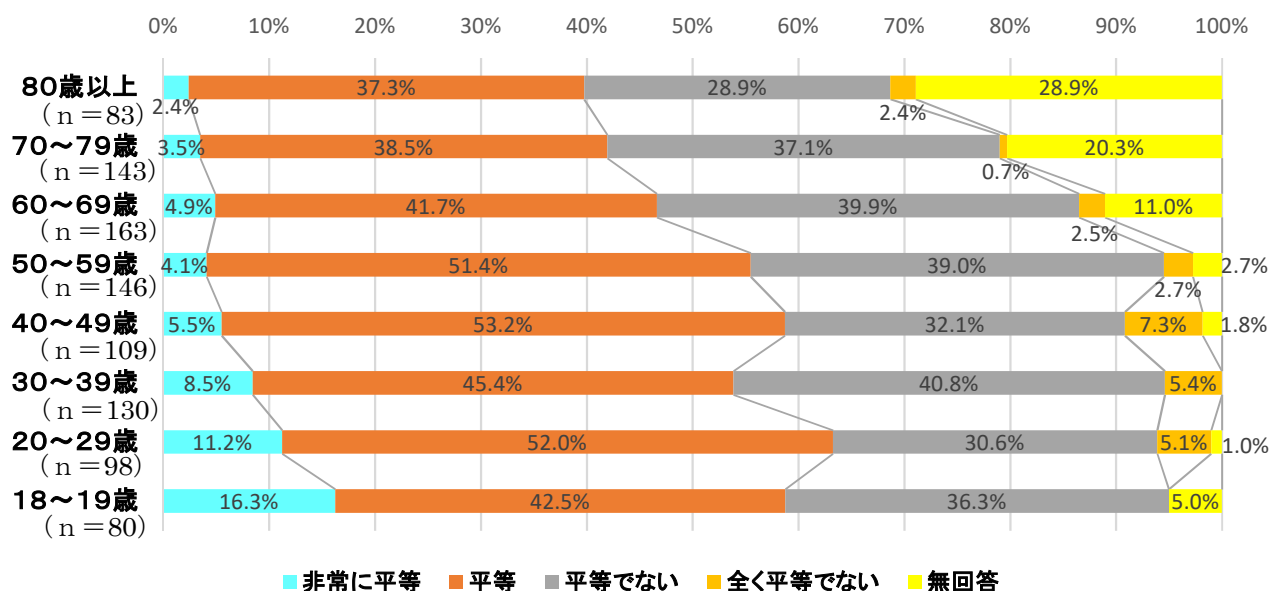
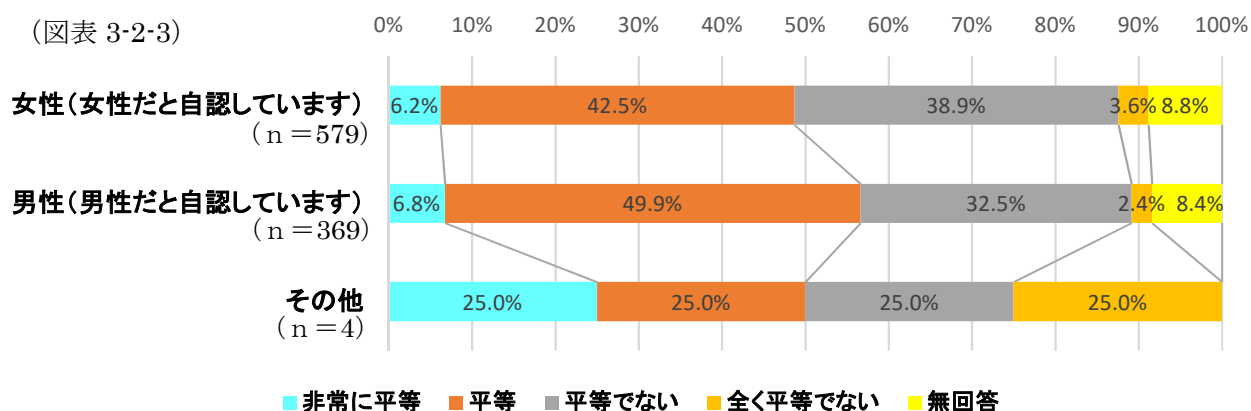


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	104	10.9%	57	9.8%	47	12.7%	0	0.0%
平等	473	49.6%	238	41.1%	233	63.1%	2	50.0%
平等でない	317	33.2%	239	41.3%	77	20.9%	1	25.0%
全く平等でない	37	3.9%	30	5.2%	6	1.6%	1	25.0%
無回答	23	2.4%	15	2.6%	6	1.6%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## B. 職場

「非常に平等」「平等」と回答したのは女性（48.7%）より男性（56.7%）の方が高く、年代別で見ると20代（63.2%）が最も高くなっている。

(図表 3-2-3)



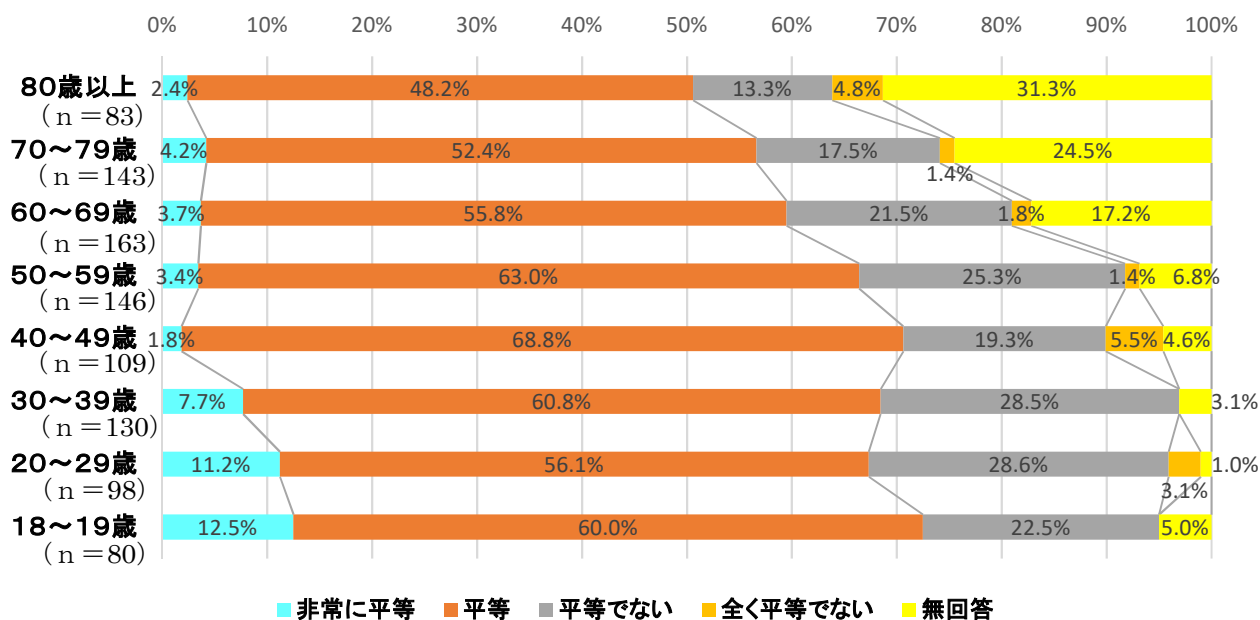
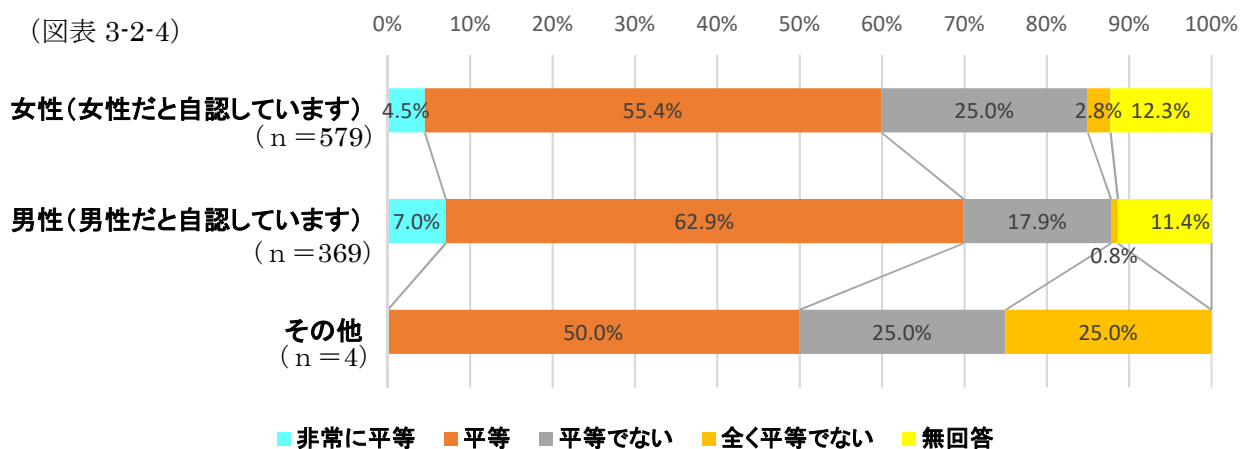
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	62	6.5%	36	6.2%	25	6.8%	1	25.0%
平等	431	45.2%	246	42.5%	184	49.9%	1	25.0%
平等でない	346	36.3%	225	38.9%	120	32.5%	1	25.0%
全く平等でない	31	3.2%	21	3.6%	9	2.4%	1	25.0%
無回答	84	8.8%	51	8.8%	31	8.4%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%



### C. 学校教育の場

「非常に平等」「平等」と回答したのは女性（59.9%）より男性（69.9%）の方が高く、年代別で見ると10代（72.5%）が最も高くなっている。

(図表 3-2-4)

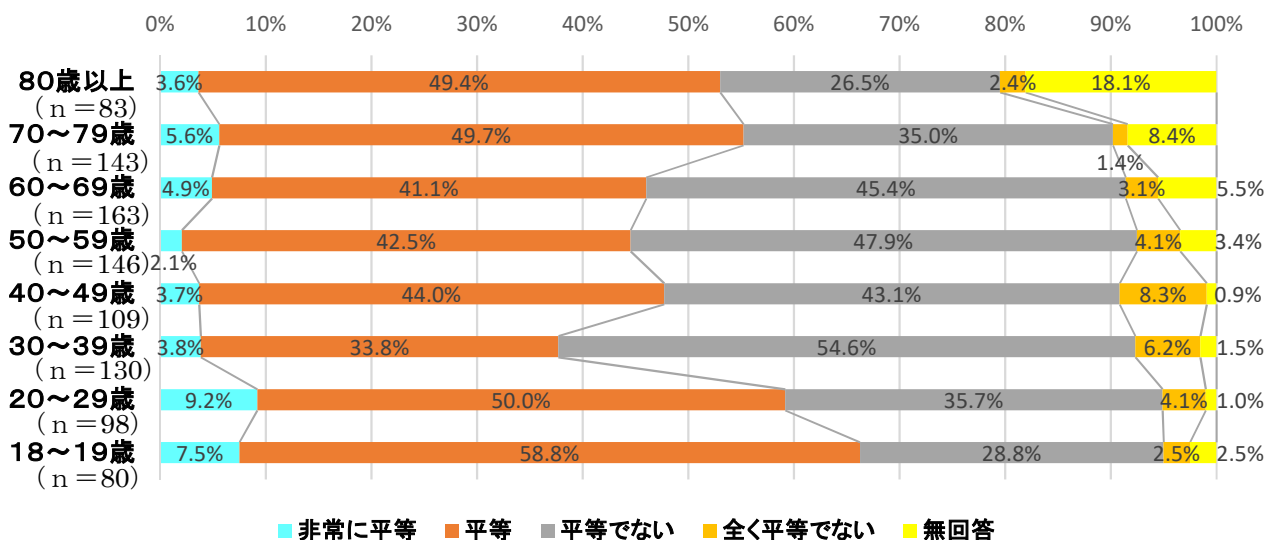
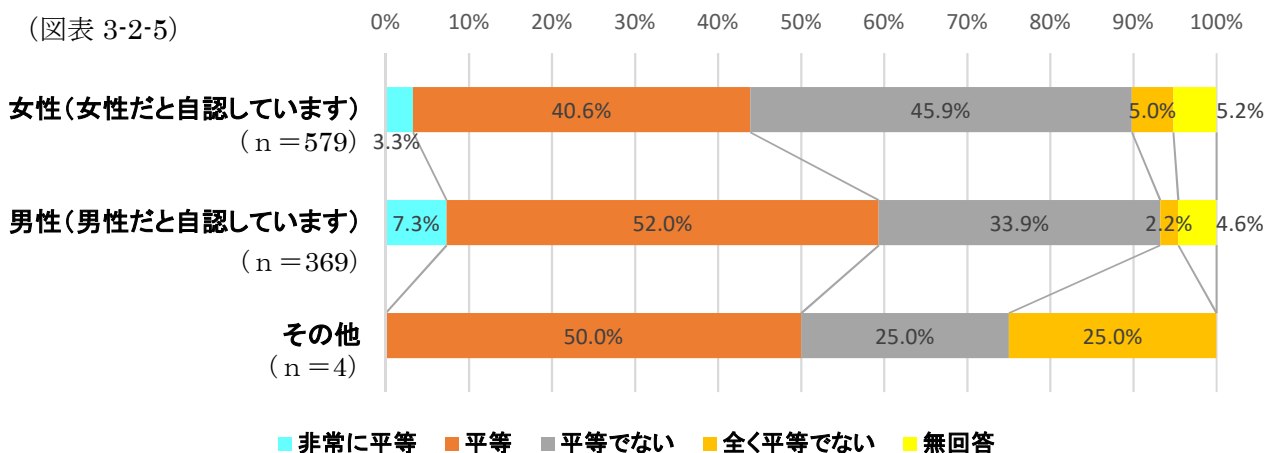


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	52	5.5%	26	4.5%	26	7.0%	0	0.0%
平等	555	58.2%	321	55.4%	232	62.9%	2	50.0%
平等でない	212	22.2%	145	25.0%	66	17.9%	1	25.0%
全く平等でない	20	2.1%	16	2.8%	3	0.8%	1	25.0%
無回答	115	12.1%	71	12.3%	42	11.4%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## D. 地域社会（町内会、自治会など）

「非常に平等」「平等」と回答したのは女性（43.9%）より男性（59.3%）の方が高く、年代別で見ると10代（66.3%）が最も高くなっている。

（図表 3-2-5）

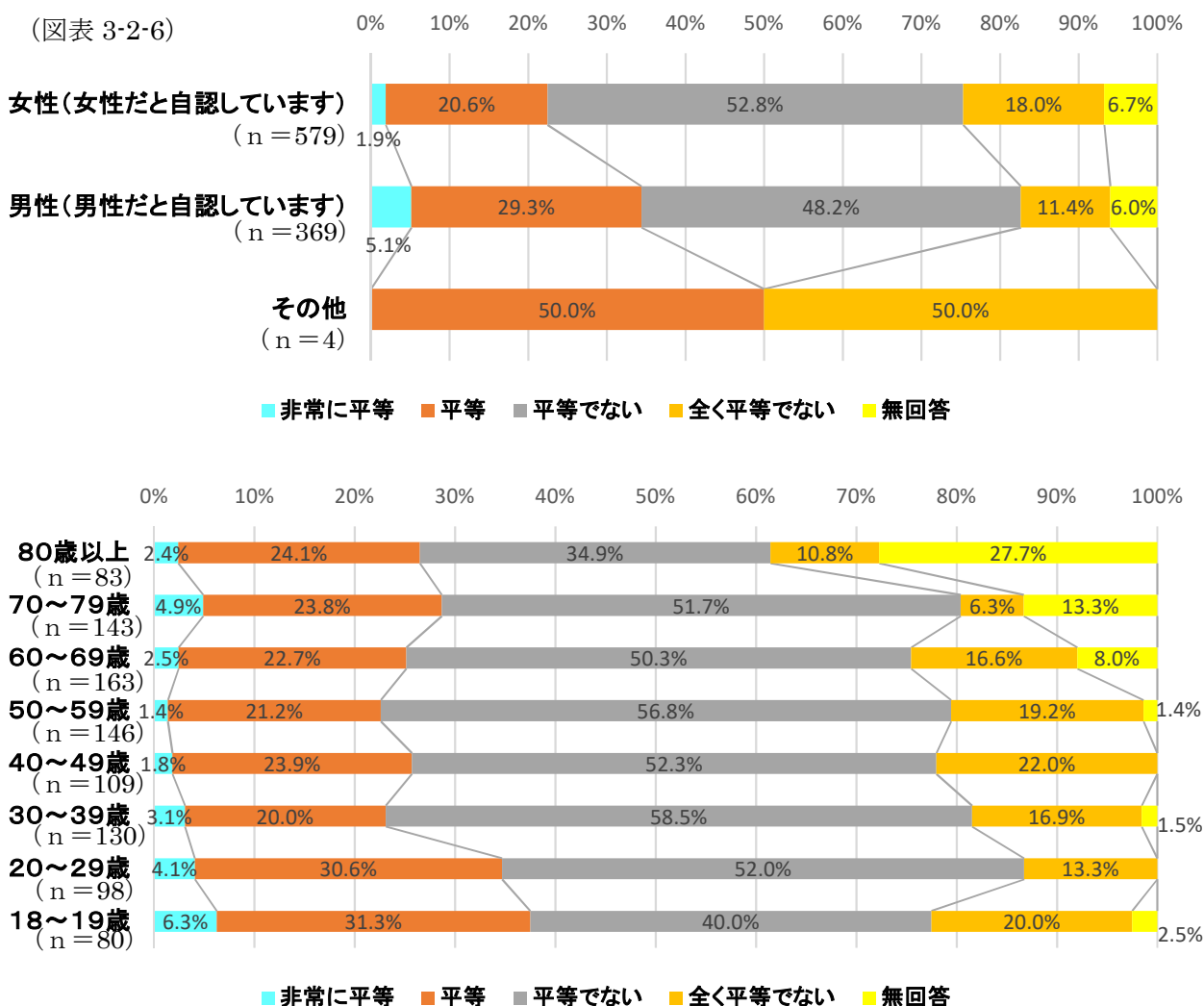


※小数点第2位を 四捨五入しているため 合計が 100%にならない場合 がある	総計		女性（女性だと 自認しています）		男性（男性だと 自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	46	4.8%	19	3.3%	27	7.3%	0	0.0%
平等	429	45.0%	235	40.6%	192	52.0%	2	50.0%
平等でない	392	41.1%	266	45.9%	125	33.9%	1	25.0%
全く平等でない	38	4.0%	29	5.0%	8	2.2%	1	25.0%
無回答	49	5.1%	30	5.2%	17	4.6%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## E. 政治の場

全体的に「非常に平等」「平等」より「平等でない」「全く平等でない」と回答した割合が高くなっている。

(図表 3-2-6)

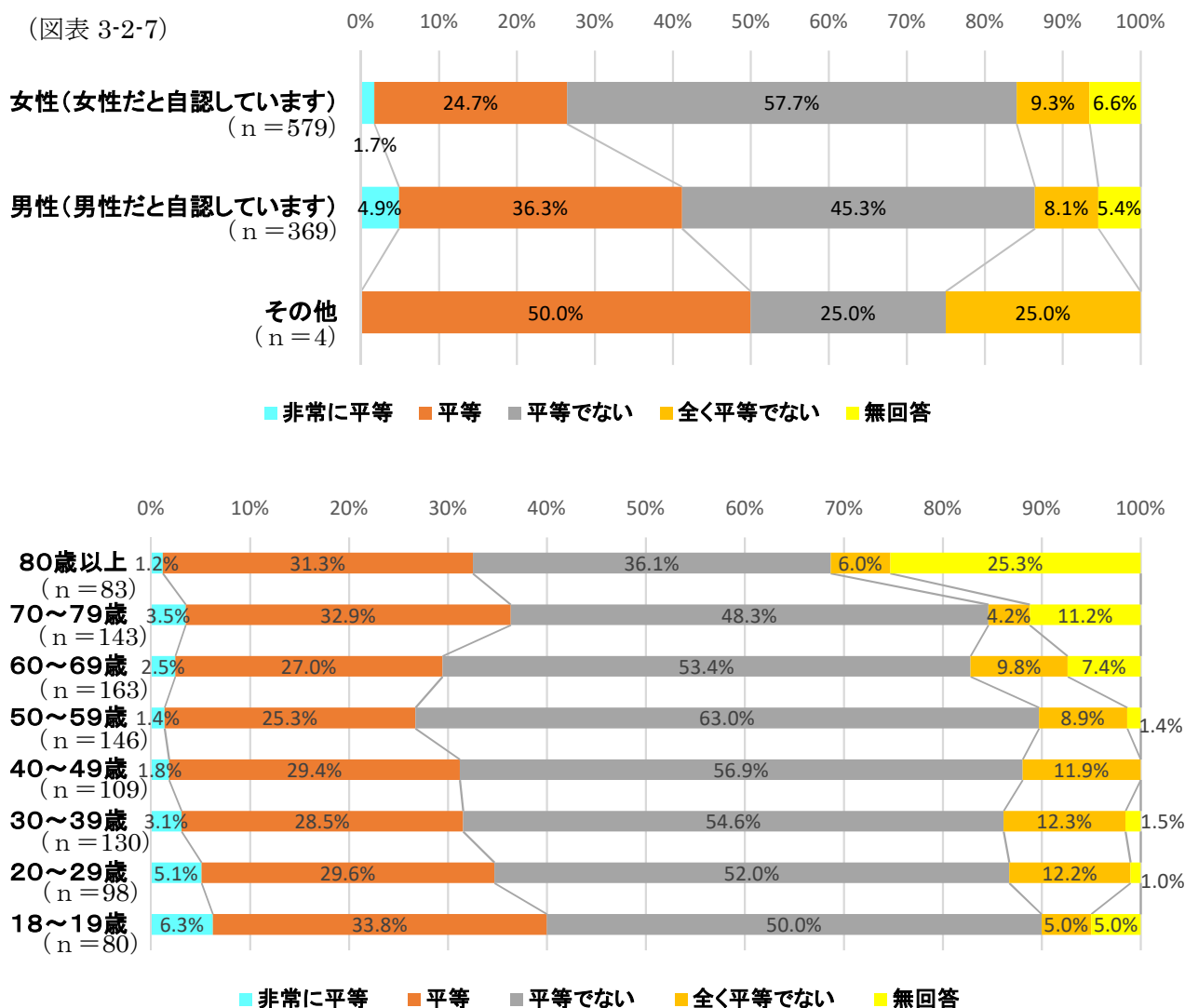


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	30	3.1%	11	1.9%	19	5.1%	0	0.0%
平等	229	24.0%	119	20.6%	108	29.3%	2	50.0%
平等でない	484	50.7%	306	52.8%	178	48.2%	0	0.0%
全く平等でない	148	15.5%	104	18.0%	42	11.4%	2	50.0%
無回答	63	6.6%	39	6.7%	22	6.0%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## F. 社会制度

年代別で「平等でない」「全く平等でない」との回答した割合が最も高かったのは50代(71.9%)となっている。

(図表 3-2-7)

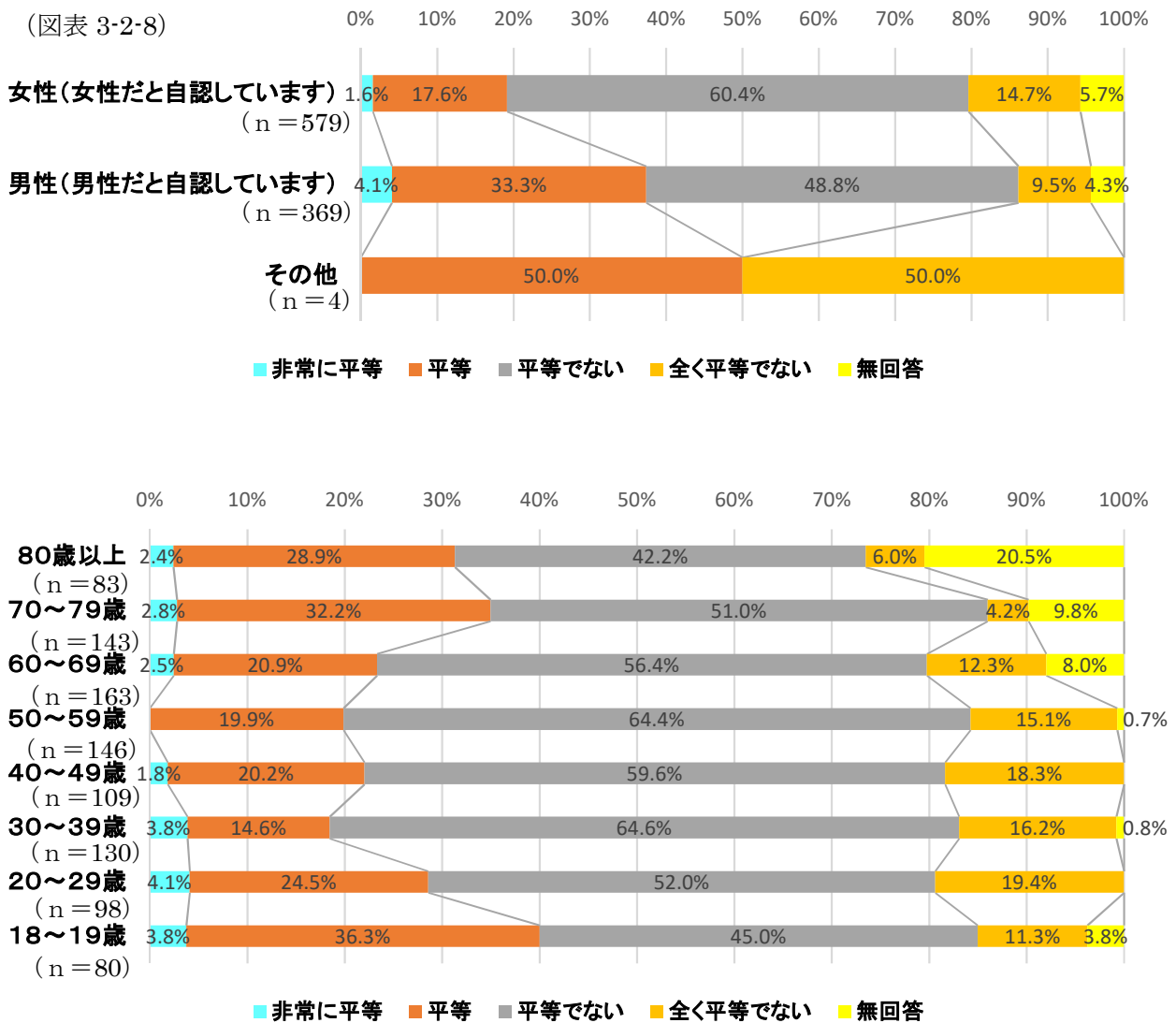


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	28	2.9%	10	1.7%	18	4.9%	0	0.0%
平等	279	29.2%	143	24.7%	134	36.3%	2	50.0%
平等でない	502	52.6%	334	57.7%	167	45.3%	1	25.0%
全く平等でない	85	8.9%	54	9.3%	30	8.1%	1	25.0%
無回答	60	6.3%	38	6.6%	20	5.4%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## G. 社会通念・慣習・しきたりなど

年代別で見ると「平等でない」「全く平等でない」と回答した割合が高いのは30代(80.8%)で「非常に平等」「平等」と回答した割合が高いのは10代(40.1%)となっている。

(図表 3-2-8)

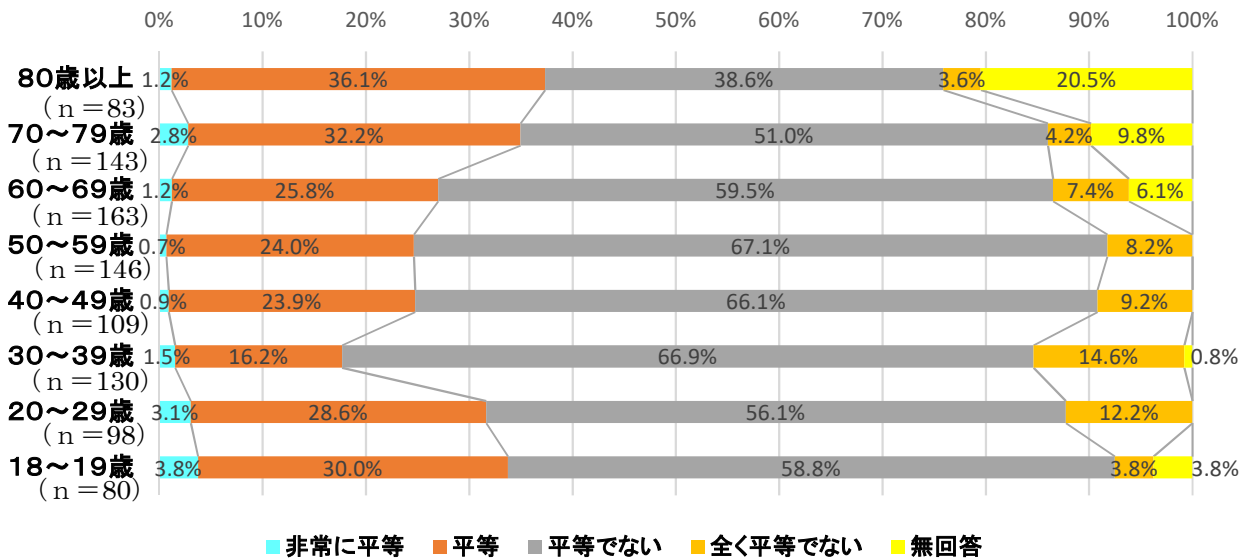
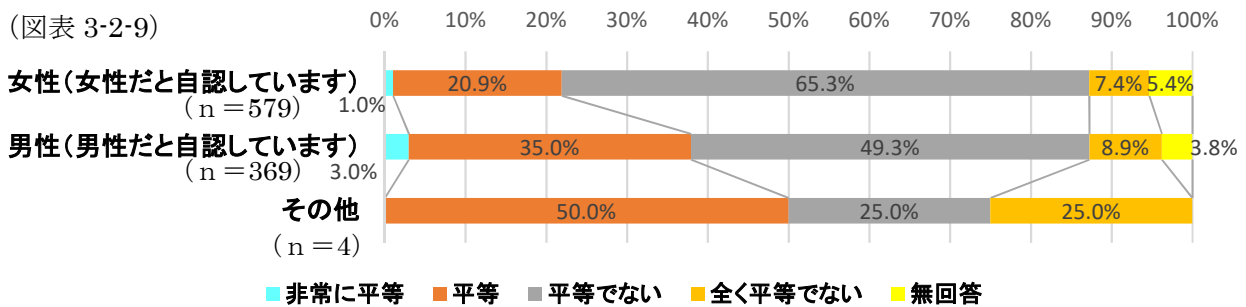


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	24	2.5%	9	1.6%	15	4.1%	0	0.0%
平等	227	23.8%	102	17.6%	123	33.3%	2	50.0%
平等でない	530	55.6%	350	60.4%	180	48.8%	0	0.0%
全く平等でない	122	12.8%	85	14.7%	35	9.5%	2	50.0%
無回答	51	5.3%	33	5.7%	16	4.3%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

## H. 社会全体として

「平等ではない」「全く平等ではない」と回答した割合は女性（72.7%）のほうが高く、年代別で最も高い割合が30代（81.5%）となっています。

(図表 3-2-9)

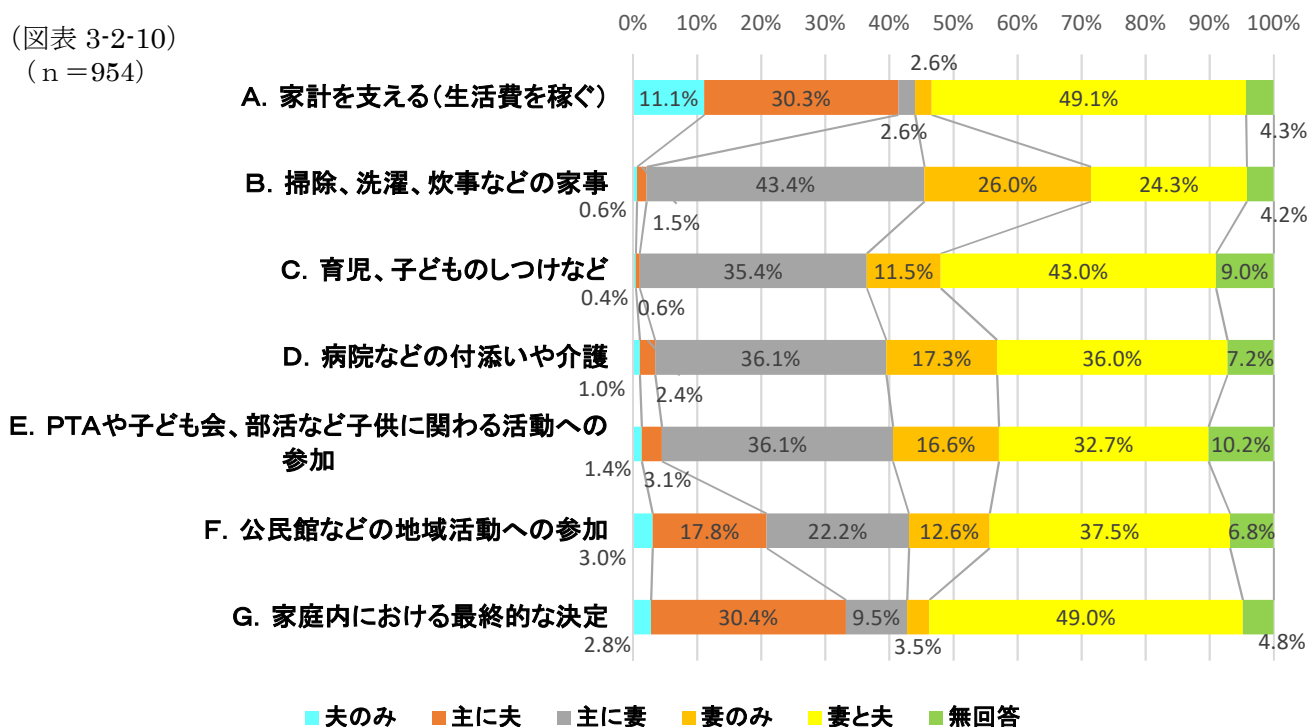


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性（女性だと自認しています）		男性（男性だと自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に平等	17	1.8%	6	1.0%	11	3.0%	0	0.0%
平等	252	26.4%	121	20.9%	129	35.0%	2	50.0%
平等でない	561	58.8%	378	65.3%	182	49.3%	1	25.0%
まったく平等でない	77	8.1%	43	7.4%	33	8.9%	1	25.0%
無回答	47	4.9%	31	5.4%	14	3.8%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100%	369	100%	4	100%

問7 あなたのご家庭では、次のA～Gの項目について、主に誰が行っていますか。（現在該当が無くても過去のご経験や今後の予想としてお選びください。

「妻と夫」と回答した割合が最も高いのはA.家計を支える（49.1%）、次いでG.家庭内における最終的な決定（49.0%）となっている。「夫のみ」と回答した割合が高いのはA. 家計を支える（11.1%）  
「妻のみ」と回答した割合が高いのはB.掃除、洗濯、炊事などの家事（26.0%）となっている。

(図表 3-2-10)  
(n = 954)



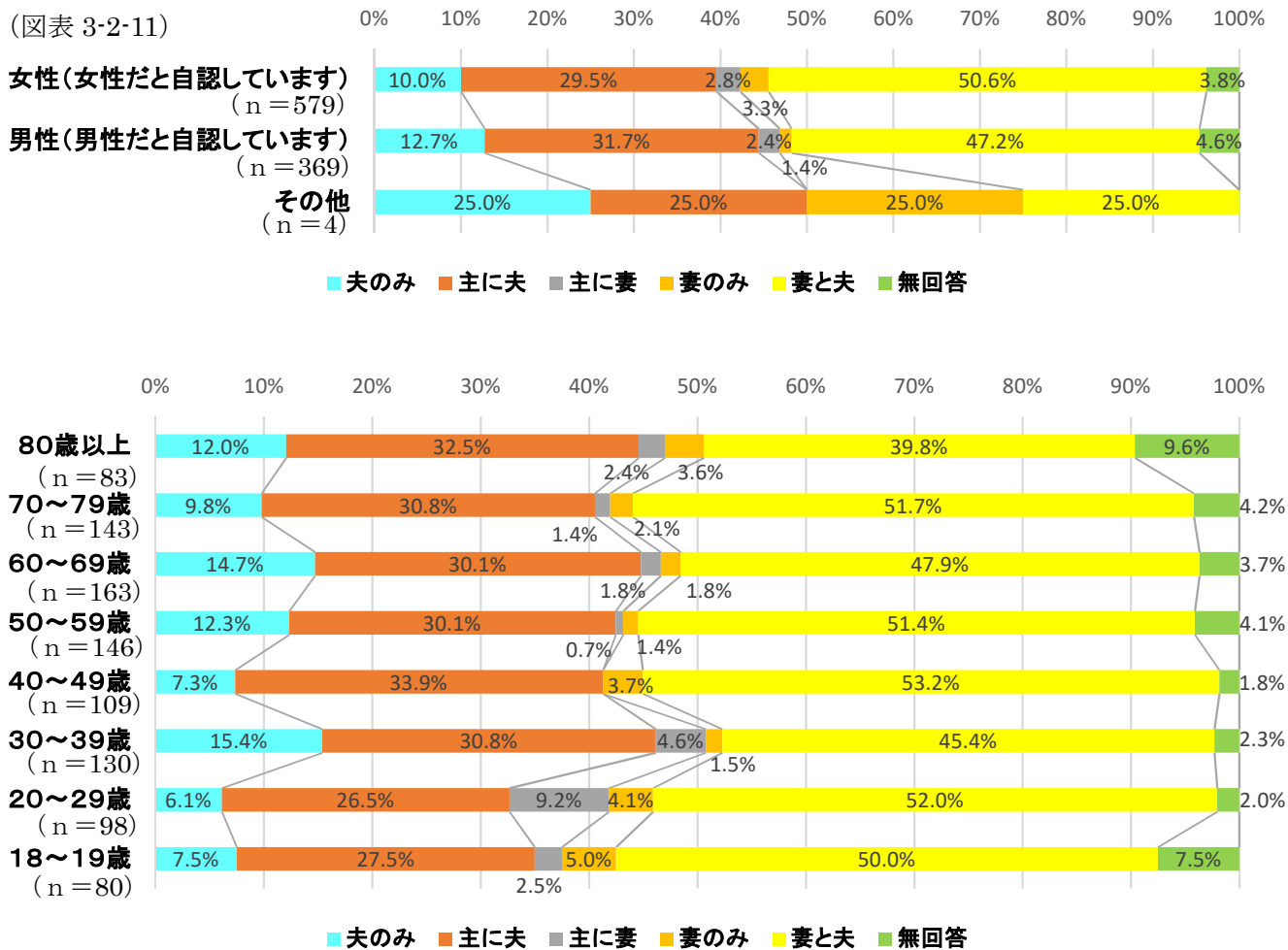
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A. 家計を支える(生活費を稼ぐ)		B. 掃除、洗濯、炊事などの家事		C. 育児、子どものしつけなど		D. 病院などの付添いや介護		E. PTAや子ども会、部活など子供に関わる活動への参加		F. 公民館などの地域活動への参加		G. 家庭内における最終的な決定	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	106	11.1%	6	0.6%	4	0.4%	10	1.0%	13	1.4%	29	3.0%	27	2.8%
主に夫	289	30.3%	14	1.5%	6	0.6%	23	2.4%	30	3.1%	170	17.8%	290	30.4%
主に妻	25	2.6%	414	43.4%	338	35.4%	344	36.1%	344	36.1%	212	22.2%	91	9.5%
妻のみ	25	2.6%	248	26.0%	110	11.5%	165	17.3%	158	16.6%	120	12.6%	33	3.5%
妻と夫	468	49.1%	232	24.3%	410	43.0%	343	36.0%	312	32.7%	358	37.5%	467	49.0%
無回答	41	4.3%	40	4.2%	86	9.0%	69	7.2%	97	10.2%	65	6.8%	46	4.8%
合計	954	100%	954	100%	954	99.9%	954	100%	954	100.1%	954	99.9%	954	100%



## A. 家計を支える（生活費を稼ぐ）

「妻と夫」と回答した割合が最も高いのは40代（53.2%）となっており、「夫のみ」と最も回答した割合が高いのは30代（15.4%）となっている。

(図表 3-2-11)

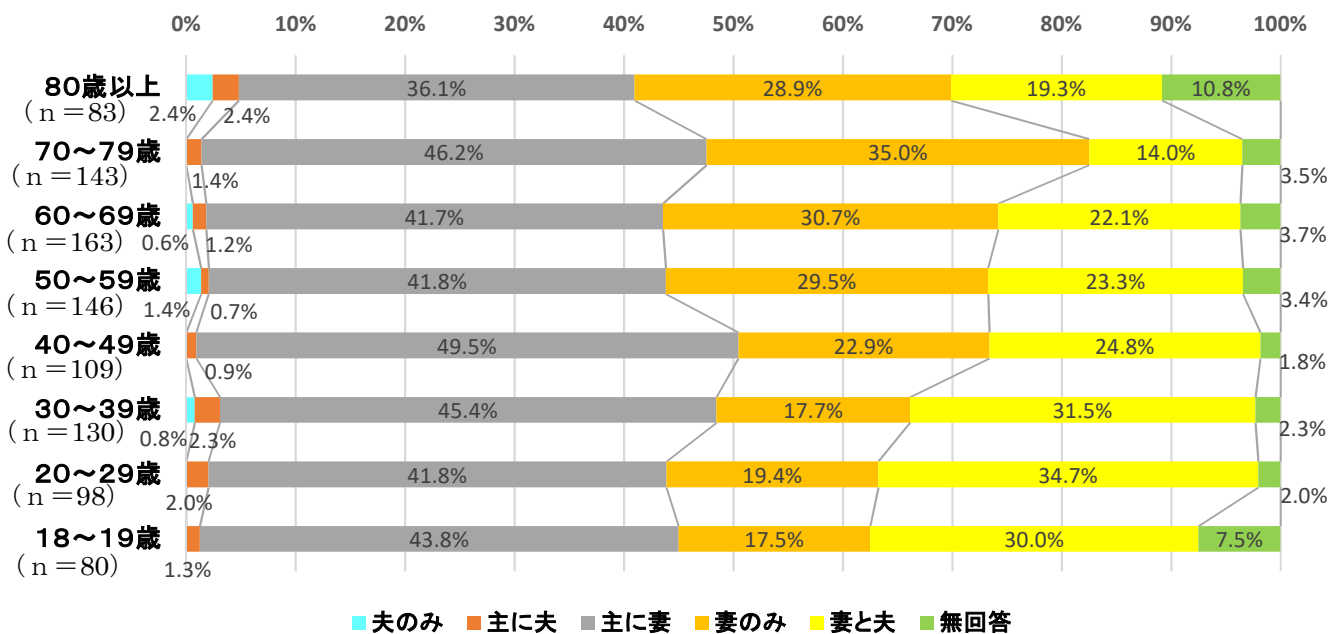
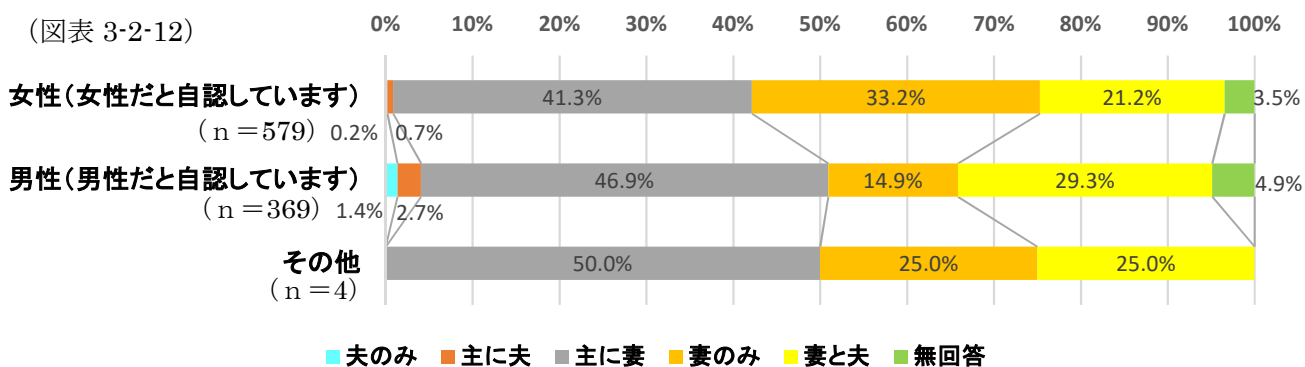


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	6	7.5%	6	6.1%	20	15.4%	8	7.3%	18	12.3%	24	14.7%	14	9.8%	10	12.0%
主に夫	22	27.5%	26	26.5%	40	30.8%	37	33.9%	44	30.1%	49	30.1%	44	30.8%	27	32.5%
主に妻	2	2.5%	9	9.2%	6	4.6%	0	0.0%	1	0.7%	3	1.8%	2	1.4%	2	2.4%
妻のみ	4	5.0%	4	4.1%	2	1.5%	4	3.7%	2	1.4%	3	1.8%	3	2.1%	3	3.6%
妻と夫	40	50.0%	51	52.0%	59	45.4%	58	53.2%	75	51.4%	78	47.9%	74	51.7%	33	39.8%
無回答	6	7.5%	2	2.0%	3	2.3%	2	1.8%	6	4.1%	6	3.7%	6	4.2%	8	9.6%
合計	80	100%	98	99.9%	130	100%	109	99.9%	146	100%	163	100%	143	100%	83	99.9%

## B. 掃除、洗濯、炊事などの家事

「妻と夫」と回答した割合が最も高いのは20代（34.7%）に対して「妻のみ」と最も回答した割合が高いのは70代（35.0%）となっている。

(図表 3-2-12)

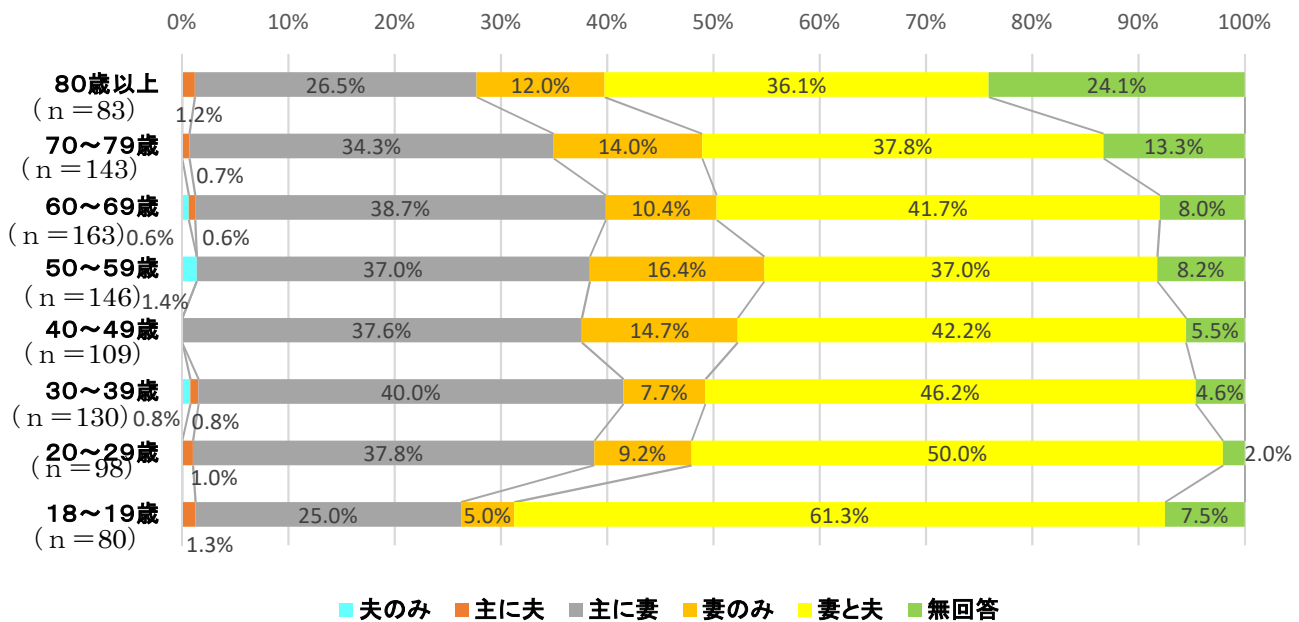
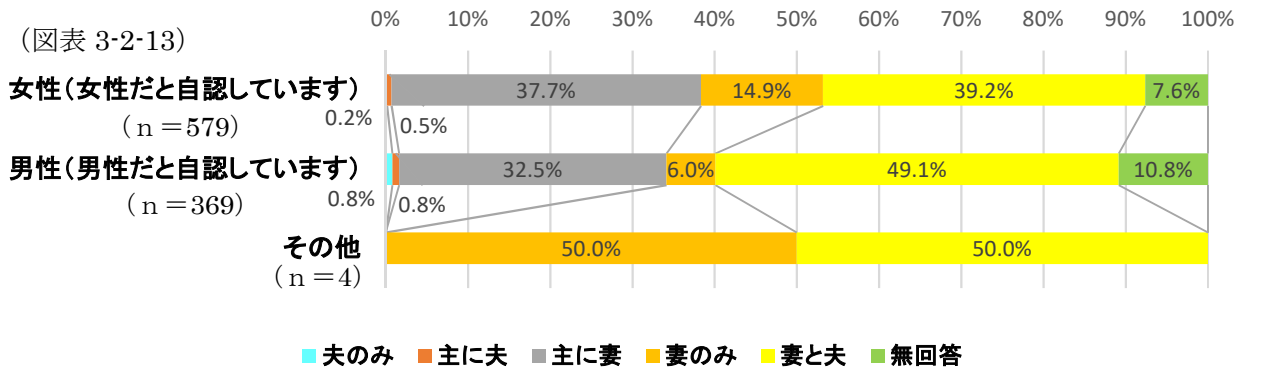


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	2	1.4%	1	0.6%	0	0.0%	2	2.4%
主に夫	1	1.3%	2	2.0%	3	2.3%	1	0.9%	1	0.7%	2	1.2%	2	1.4%	2	2.4%
主に妻	35	43.8%	41	41.8%	59	45.4%	54	49.5%	61	41.8%	68	41.7%	66	46.2%	30	36.1%
妻のみ	14	17.5%	19	19.4%	23	17.7%	25	22.9%	43	29.5%	50	30.7%	50	35.0%	24	28.9%
妻と夫	24	30.0%	34	34.7%	41	31.5%	27	24.8%	34	23.3%	36	22.1%	20	14.0%	16	19.3%
無回答	6	7.5%	2	2.0%	3	2.3%	2	1.8%	5	3.4%	6	3.7%	5	3.5%	9	10.8%
合計	80	100.1%	98	99.9%	130	100%	109	99.9%	146	100.1%	163	100%	143	100.1%	83	99.9%

### C. 育児、子供のしつけなど

「妻と夫」と回答した割合が最も高いのは10代（61.3%）に対して「妻のみ」と最も回答した割合が高いのは50代（16.4%）となっている。

(図表 3-2-13)

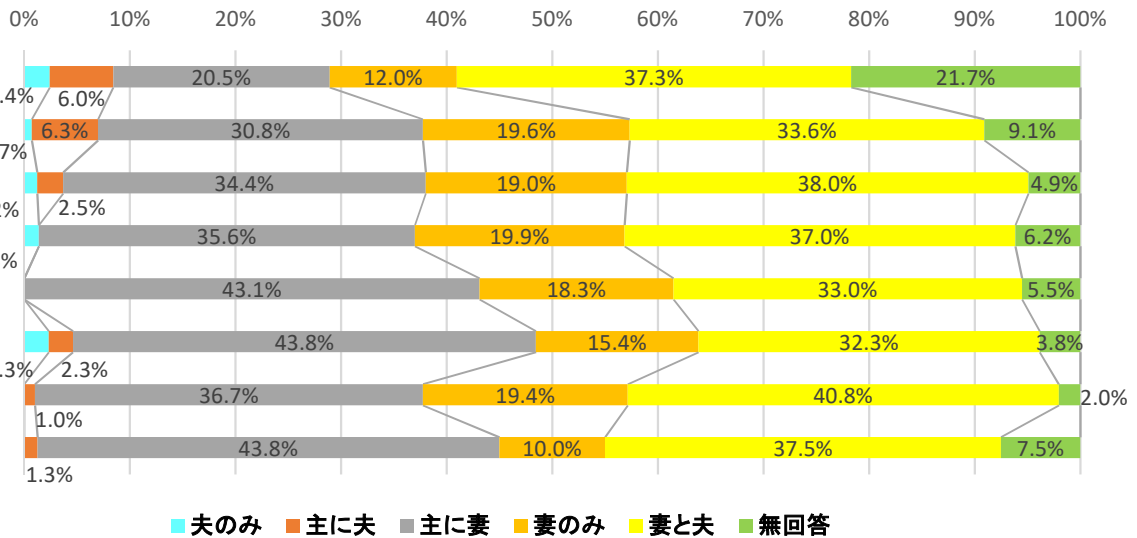
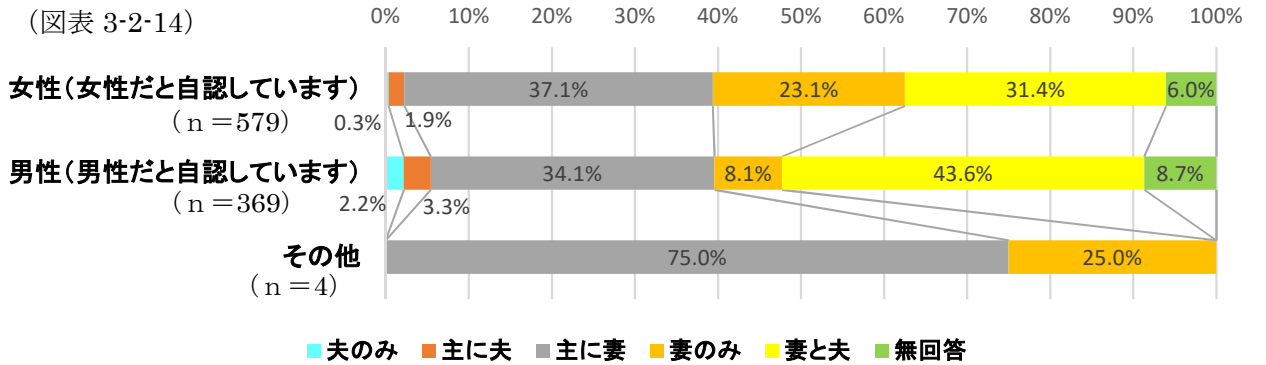


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	2	1.4%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
主に夫	1	1.3%	1	1.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.7%	1	1.2%
主に妻	20	25.0%	37	37.8%	52	40.0%	41	37.6%	54	37.0%	63	38.7%	49	34.3%	22	26.5%
妻のみ	4	5.0%	9	9.2%	10	7.7%	16	14.7%	24	16.4%	17	10.4%	20	14.0%	10	12.0%
妻と夫	49	61.3%	49	50.0%	60	46.2%	46	42.2%	54	37.0%	68	41.7%	54	37.8%	30	36.1%
無回答	6	7.5%	2	2.0%	6	4.6%	6	5.5%	12	8.2%	13	8.0%	19	13.3%	20	24.1%
合計	80	100.1%	98	100%	130	100.1%	109	100%	146	100%	163	100%	143	100.1%	83	99.9%

## D. 病院などの付添いや介護

「男性」は「妻と夫」(43.6%)と回答している割合が高いのに対して「女性」は「妻のみ」(23.1%)と回答している割合が高い。

(図表 3-2-14)

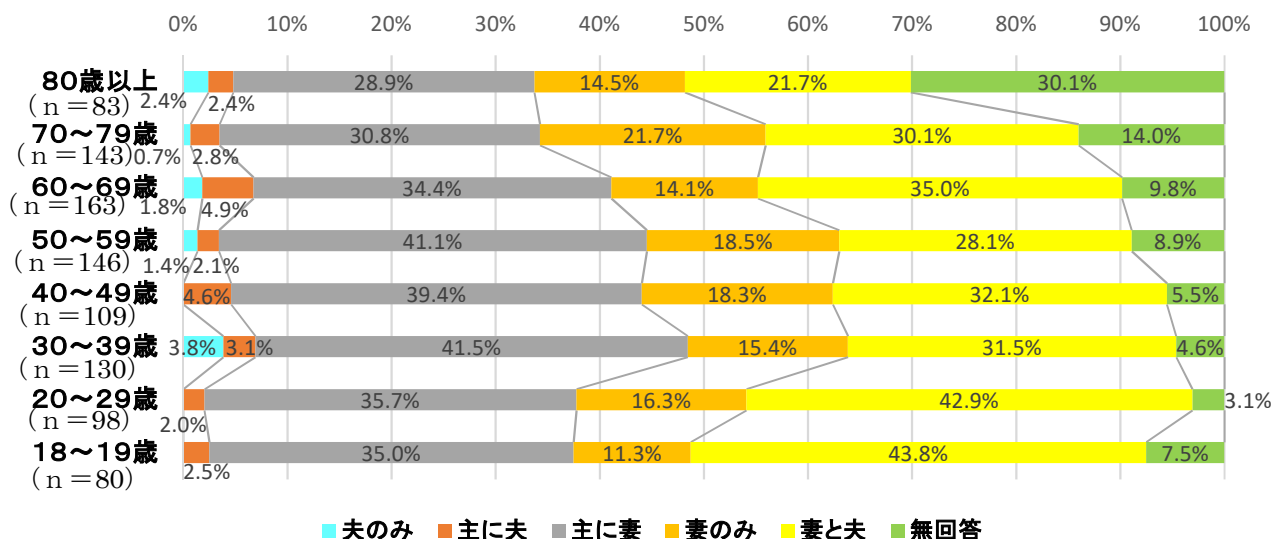
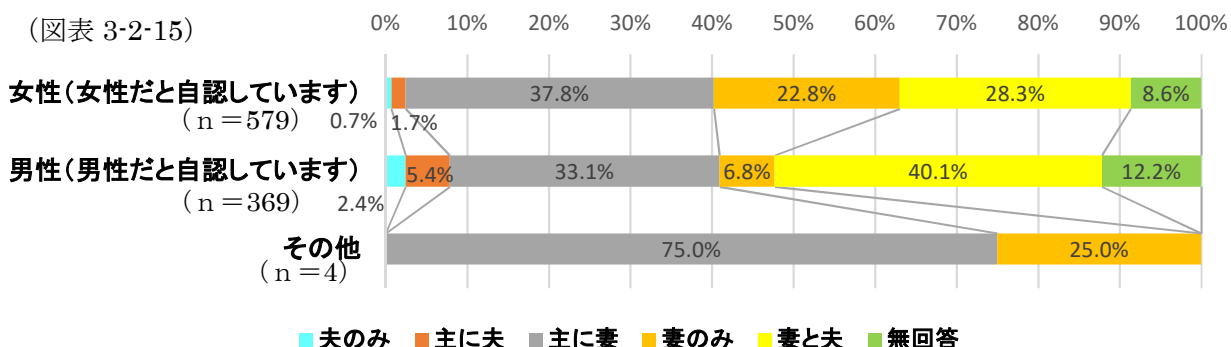


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	0	0.0%	0	0.0%	3	2.3%	0	0.0%	2	1.4%	2	1.2%	1	0.7%	2	2.4%
主に夫	1	1.3%	1	1.0%	3	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	9	6.3%	5	6.0%
主に妻	35	43.8%	36	36.7%	57	43.8%	47	43.1%	52	35.6%	56	34.4%	44	30.8%	17	20.5%
妻のみ	8	10.0%	19	19.4%	20	15.4%	20	18.3%	29	19.9%	31	19.0%	28	19.6%	10	12.0%
妻と夫	30	37.5%	40	40.8%	42	32.3%	36	33.0%	54	37.0%	62	38.0%	48	33.6%	31	37.3%
無回答	6	7.5%	2	2.0%	5	3.8%	6	5.5%	9	6.2%	8	4.9%	13	9.1%	18	21.7%
合計	80	100.1%	98	99.9%	130	99.9%	109	99.9%	146	100.1%	163	100%	143	100.1%	83	99.9%

### E. PTAや子ども会、部活など子供に関わる活動への参加

30代以上の子育て世代では、「主に妻」の割合が高く、10代～20代は「妻と夫」の割合が高い。

(図表 3-2-15)

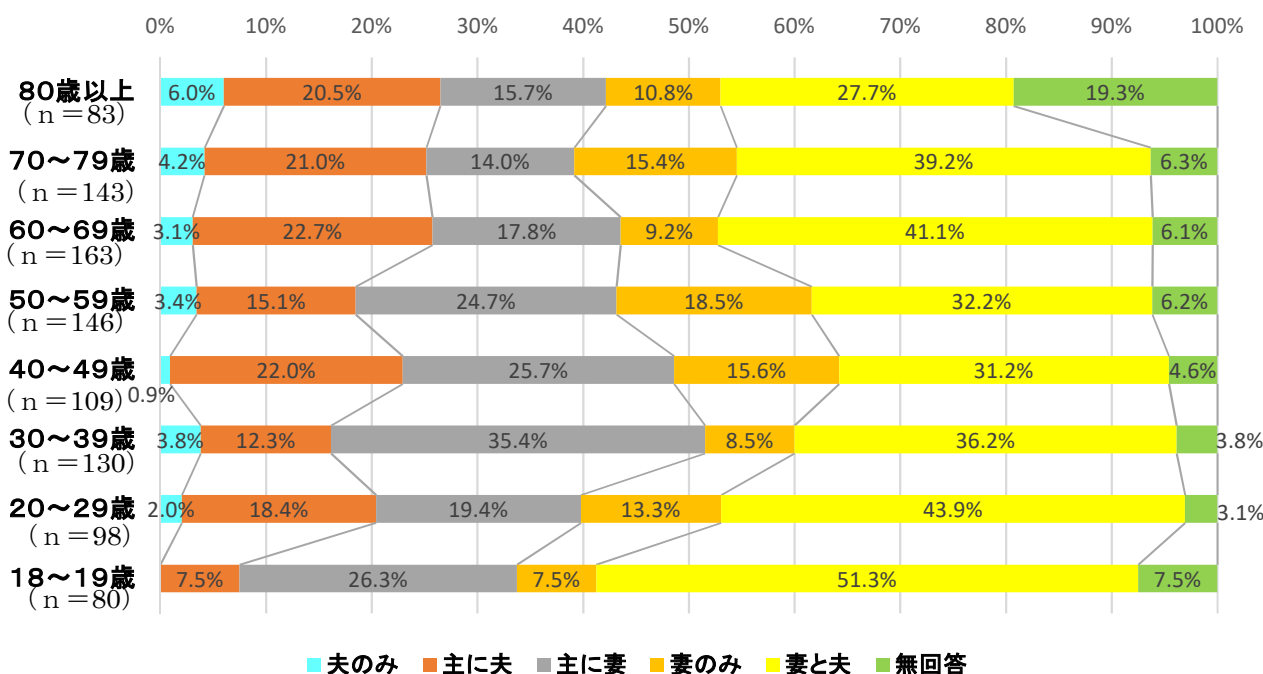
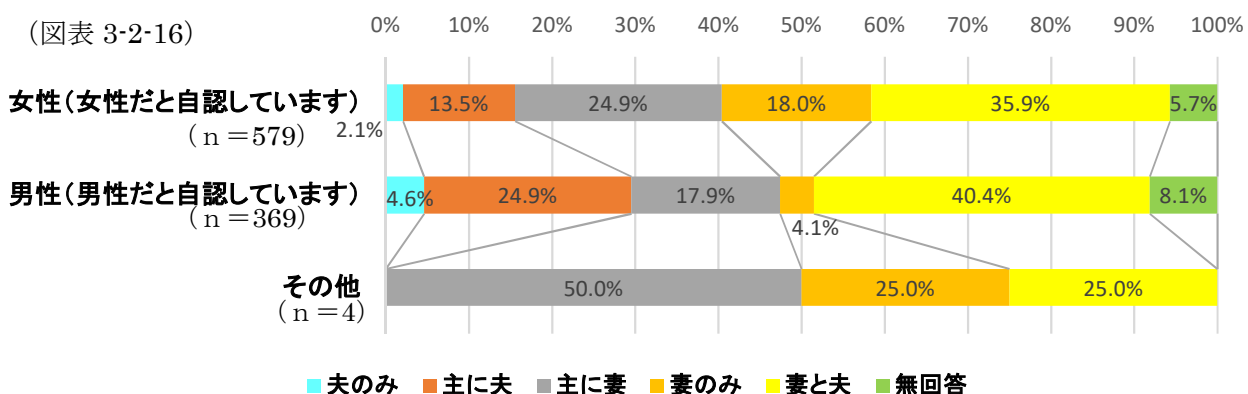


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	0	0.0%	0	0.0%	5	3.8%	0	0.0%	2	1.4%	3	1.8%	1	0.7%	2	2.4%
主に夫	2	2.5%	2	2.0%	4	3.1%	5	4.6%	3	2.1%	8	4.9%	4	2.8%	2	2.4%
主に妻	28	35.0%	35	35.7%	54	41.5%	43	39.4%	60	41.1%	56	34.4%	44	30.8%	24	28.9%
妻のみ	9	11.3%	16	16.3%	20	15.4%	20	18.3%	27	18.5%	23	14.1%	31	21.7%	12	14.5%
妻と夫	35	43.8%	42	42.9%	41	31.5%	35	32.1%	41	28.1%	57	35.0%	43	30.1%	18	21.7%
無回答	6	7.5%	3	3.1%	6	4.6%	6	5.5%	13	8.9%	16	9.8%	20	14.0%	25	30.1%
合計	80	100.1%	98	100%	130	99.9%	109	99.9%	146	100.1%	163	100%	143	100.1%	83	100%

## F. 公民館などの地域活動への参加

「主に夫」と最も回答した割合が高いのは60代（22.7%）次いで40代（22.0%）、70代（21.0%）というようになっている。

(図表 3-2-16)

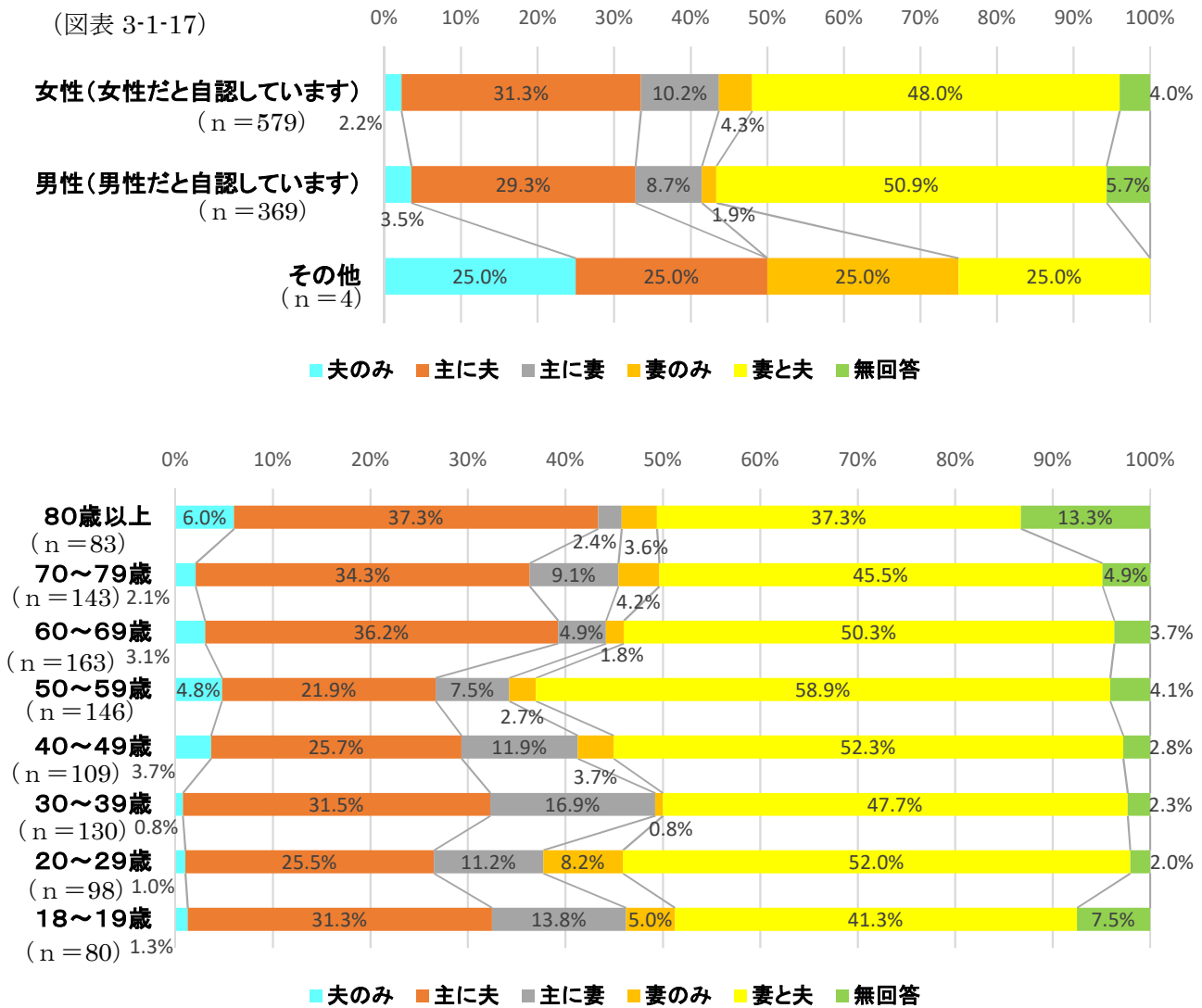


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	0	0.0%	2	2.0%	5	3.8%	1	0.9%	5	3.4%	5	3.1%	6	4.2%	5	6.0%
主に夫	6	7.5%	18	18.4%	16	12.3%	24	22.0%	22	15.1%	37	22.7%	30	21.0%	17	20.5%
主に妻	21	26.3%	19	19.4%	46	35.4%	28	25.7%	36	24.7%	29	17.8%	20	14.0%	13	15.7%
妻のみ	6	7.5%	13	13.3%	11	8.5%	17	15.6%	27	18.5%	15	9.2%	22	15.4%	9	10.8%
妻と夫	41	51.3%	43	43.9%	47	36.2%	34	31.2%	47	32.2%	67	41.1%	56	39.2%	23	27.7%
無回答	6	7.5%	3	3.1%	5	3.8%	5	4.6%	9	6.2%	10	6.1%	9	6.3%	16	19.3%
合計	80	100.1%	98	100.1%	130	100%	109	100%	146	100.1%	163	100%	143	100.1%	83	100%

## G. 家庭内における最終的な決定

「妻と夫」と最も回答した割合が高いのは50代（58.9%）次いで40代（52.3%）、20代（52.0%）というようになっている。

(図表 3-1-17)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	1	1.3%	1	1.0%	1	0.8%	4	3.7%	7	4.8%	5	3.1%	3	2.1%	5	6.0%
主に夫	25	31.3%	25	25.5%	41	31.5%	28	25.7%	32	21.9%	59	36.2%	49	34.3%	31	37.3%
主に妻	11	13.8%	11	11.2%	22	16.9%	13	11.9%	11	7.5%	8	4.9%	13	9.1%	2	2.4%
妻のみ	4	5.0%	8	8.2%	1	0.8%	4	3.7%	4	2.7%	3	1.8%	6	4.2%	3	3.6%
妻と夫	33	41.3%	51	52.0%	62	47.7%	57	52.3%	86	58.9%	82	50.3%	65	45.5%	31	37.3%
無回答	6	7.5%	2	2.0%	3	2.3%	3	2.8%	6	4.1%	6	3.7%	7	4.9%	11	13.3%
合計	80	100.2%	98	99.9%	130	100%	109	100.1%	146	99.9%	163	100%	143	100.1%	83	99.9%

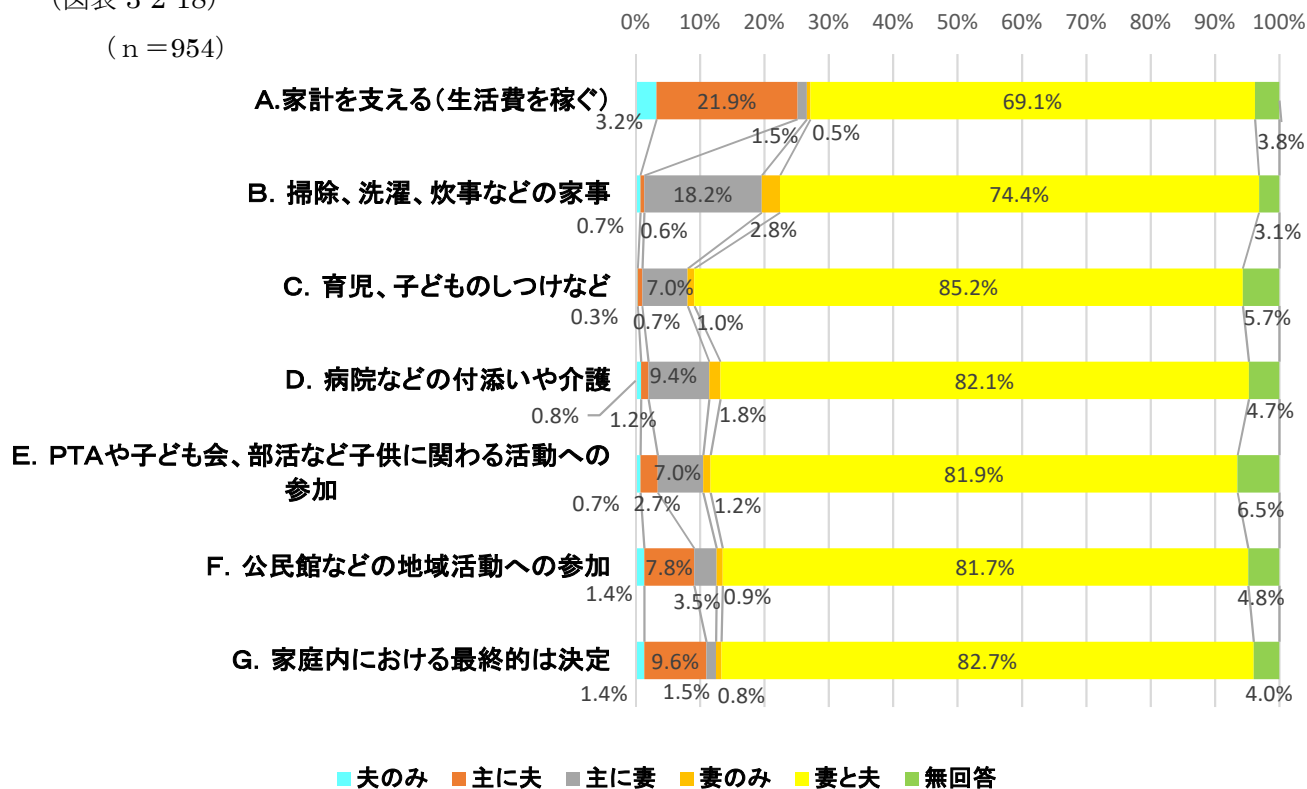


問8 あなたのご家庭では、次のA～Gの項目について、どのように分担するのが理想であると思いますか。

全ての項目で「妻と夫」と回答した割合は高いが、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」に関しては、他の項目に比べ「妻と夫」（69.1%）が低く、「主に夫」（21.9%）と回答した割合が高い。

(図表 3-2-18)

(n = 954)

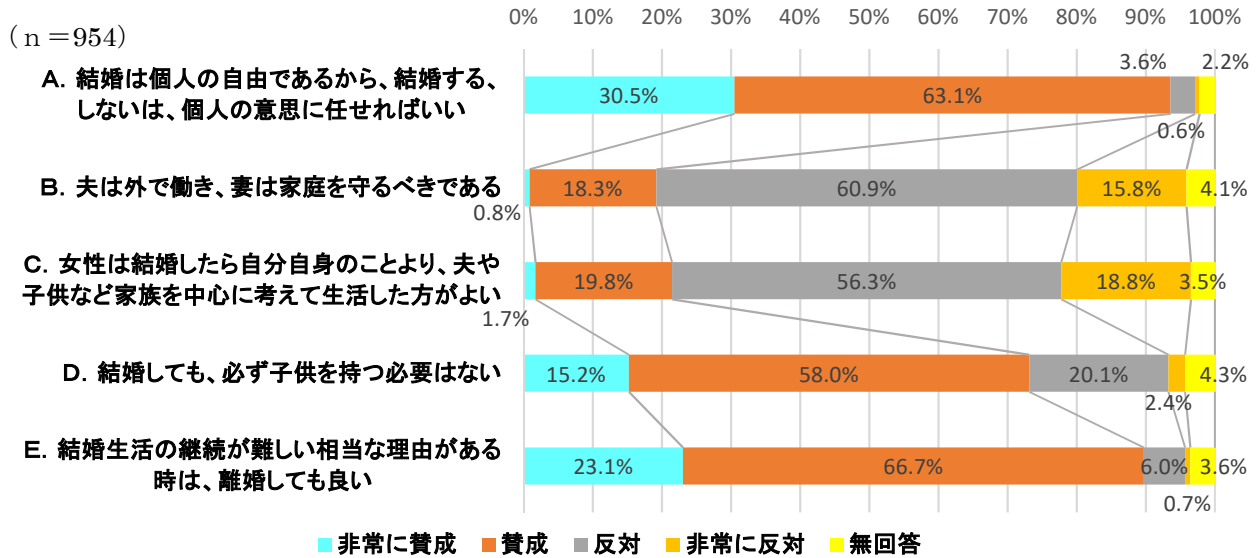


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A. 家計を支える(生活費を稼ぐ)		B. 掃除、洗濯、炊事などの家事		C. 育児、子どものしつけなど		D. 病院などの付添いや介護		E. PTAや子ども会、部活など子供に関わる活動への参加		F. 公民館などの地域活動への参加		G. 家庭内における最終的は決定	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
夫のみ	31	3.2%	7	0.7%	3	0.3%	8	0.8%	7	0.7%	13	1.4%	13	1.4%
主に夫	209	21.9%	6	0.6%	7	0.7%	11	1.2%	26	2.7%	74	7.8%	92	9.6%
主に妻	14	1.5%	174	18.2%	67	7.0%	90	9.4%	67	7.0%	33	3.5%	14	1.5%
妻のみ	5	0.5%	27	2.8%	10	1.0%	17	1.8%	11	1.2%	9	0.9%	8	0.8%
妻と夫	659	69.1%	710	74.4%	813	85.2%	783	82.1%	781	81.9%	779	81.7%	789	82.7%
無回答	36	3.8%	30	3.1%	54	5.7%	45	4.7%	62	6.5%	46	4.8%	38	4.0%
合計	954	100%	954	99.8%	954	99.9%	954	100%	954	100%	954	100.1%	954	100%

問9. 結婚、家庭、離婚についてのあなたのご意見を、次のA～Eの項目についてお尋ねします。

項目A、D、Eでは、「賛成」「非常に賛成」と回答した割合が7割以上を占めているが、項目B、Cでは、「反対」「非常に反対」と回答した割合が7割以上となっている。

(図表 3-2-19)

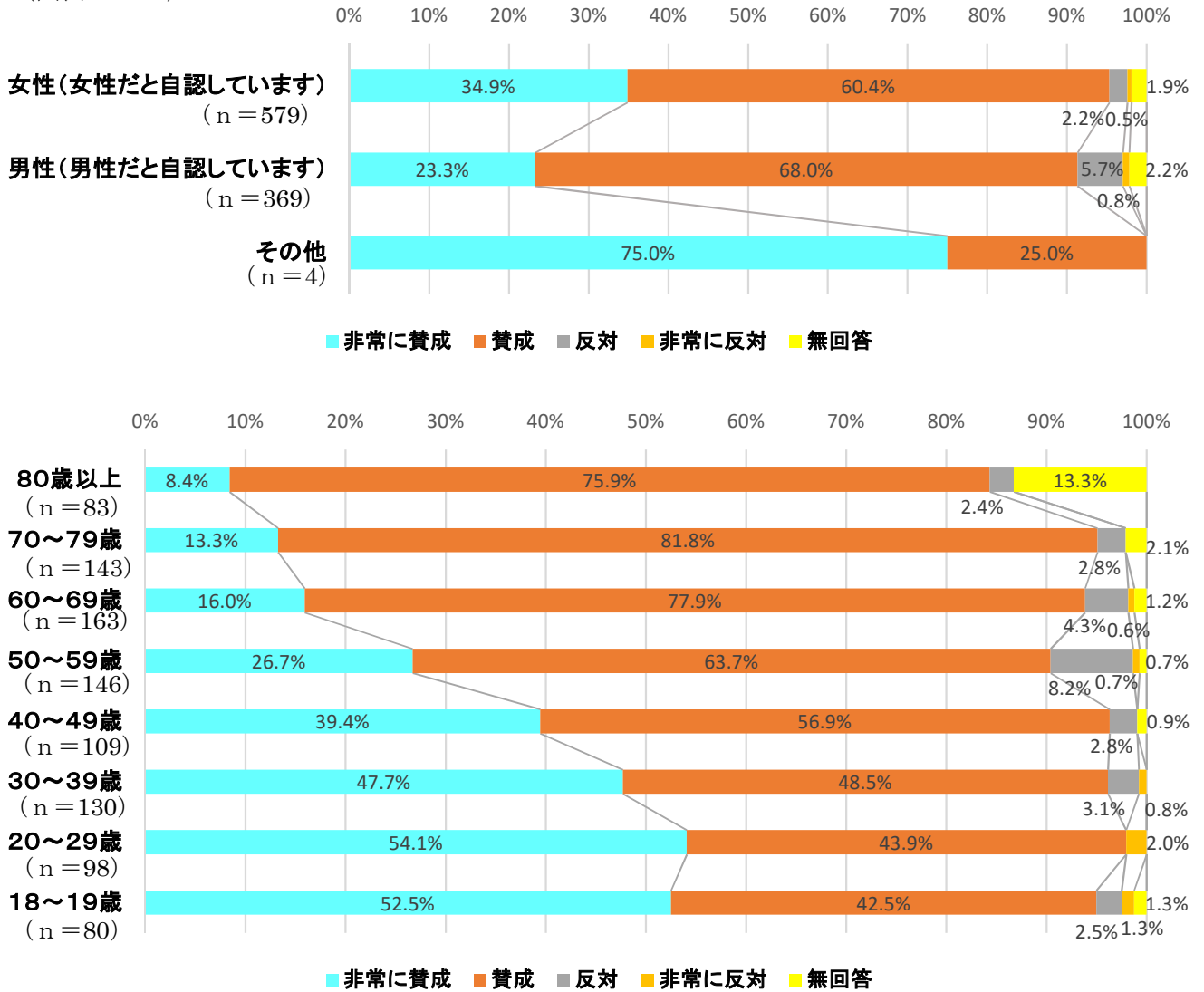


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A. 結婚は個人の自由であるから、結婚する、しないは、個人の意思に任せればいい		B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである		C. 女性は結婚したら自分自身のことより、夫や子供など家族を中心に考えて生活した方がよい		D. 結婚しても、必ず子供を持つ必要はない		E. 結婚生活の継続が難しい相当な理由がある時は、離婚しても良い	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	291	30.5%	8	0.8%	16	1.7%	145	15.2%	220	23.1%
賛成	602	63.1%	175	18.3%	189	19.8%	553	58.0%	636	66.7%
反対	34	3.6%	581	60.9%	537	56.3%	192	20.1%	57	6.0%
非常に反対	6	0.6%	151	15.8%	179	18.8%	23	2.4%	7	0.7%
無回答	21	2.2%	39	4.1%	33	3.5%	41	4.3%	34	3.6%
合計	954	100%	954	99.9%	954	100.1%	954	100%	954	100.1%

### A. 結婚は個人の自由であるから、結婚する、しないは、個人の意志に任せればいい

全ての年代で「賛成」「非常に賛成」と回答している割合が8割以上を占めているが、年代が上がるにつれ「非常に賛成」と回答した割合が低くなっている。

(図表 3-2-20)

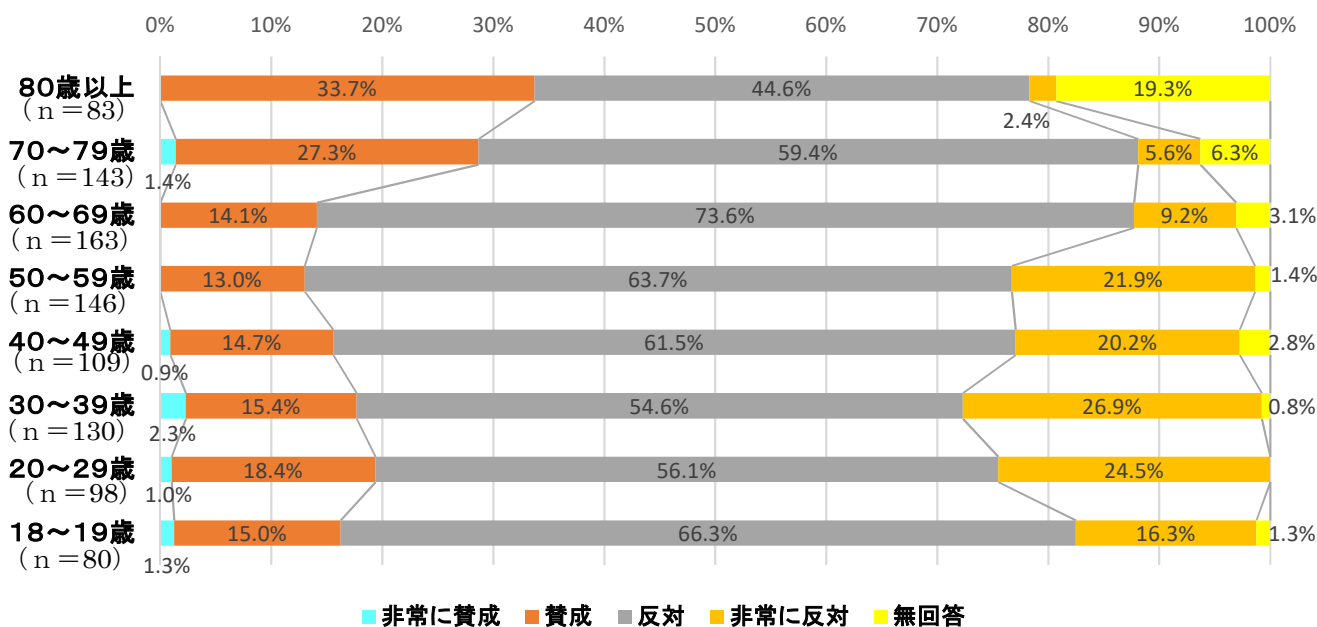
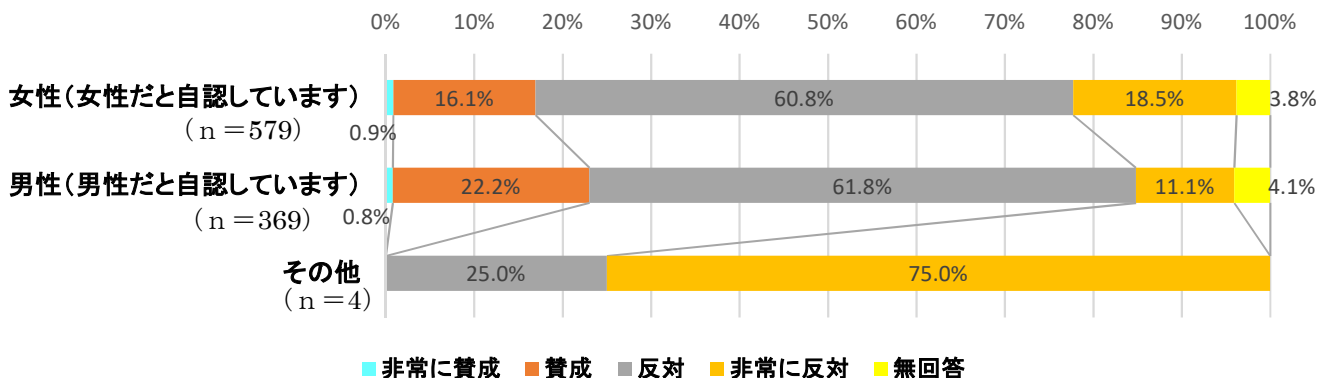


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	42	52.5%	53	54.1%	62	47.7%	43	39.4%	39	26.7%	26	16.0%	19	13.3%	7	8.4%
賛成	34	42.5%	43	43.9%	63	48.5%	62	56.9%	93	63.7%	127	77.9%	117	81.8%	63	75.9%
反対	2	2.5%	0	0.0%	4	3.1%	3	2.8%	12	8.2%	7	4.3%	4	2.8%	2	2.4%
非常に反対	1	1.3%	2	2.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.7%	2	1.2%	3	2.1%	11	13.3%
合計	80	100.1%	98	100%	130	100.1%	109	100%	146	100%	163	100%	143	100%	83	100%

## B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

「賛成」と回答した割合が最も高い年代が80代以上（33.7%）となっている。「反対」と回答した割合が最も高い年代が60代（73.6%）次いで10代（66.3%）となっている。

（図表 3-2-21）

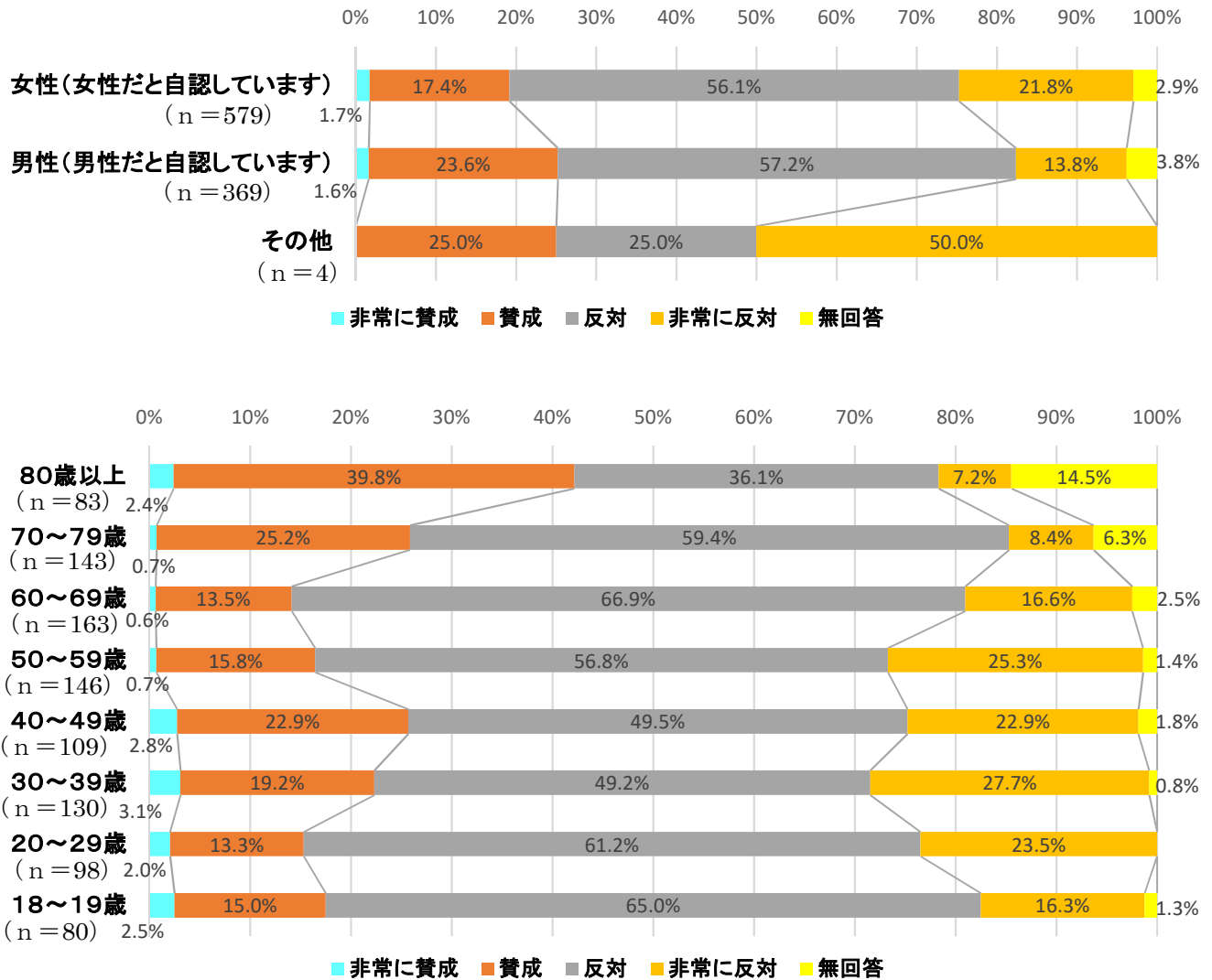


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	1	1.3%	1	1.0%	3	2.3%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%
賛成	12	15.0%	18	18.4%	20	15.4%	16	14.7%	19	13.0%	23	14.1%	39	27.3%	28	33.7%
反対	53	66.3%	55	56.1%	71	54.6%	67	61.5%	93	63.7%	120	73.6%	85	59.4%	37	44.6%
非常に反対	13	16.3%	24	24.5%	35	26.9%	22	20.2%	32	21.9%	15	9.2%	8	5.6%	2	2.4%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	1	0.8%	3	2.8%	2	1.4%	5	3.1%	9	6.3%	16	19.3%
合計	80	100.2%	98	100%	130	100%	109	100.1%	146	100%	163	100%	143	100%	83	100%

C. 女性は結婚したら自分自身のことより、夫や子供など家族を中心に考えて生活した方がよい

「賛成」「非常に賛成」と回答した割合が最も高かったのは80代以上（42.2%）次いで70代（25.9%）、40代（25.7%）となっている。

(図表 3-2-22)

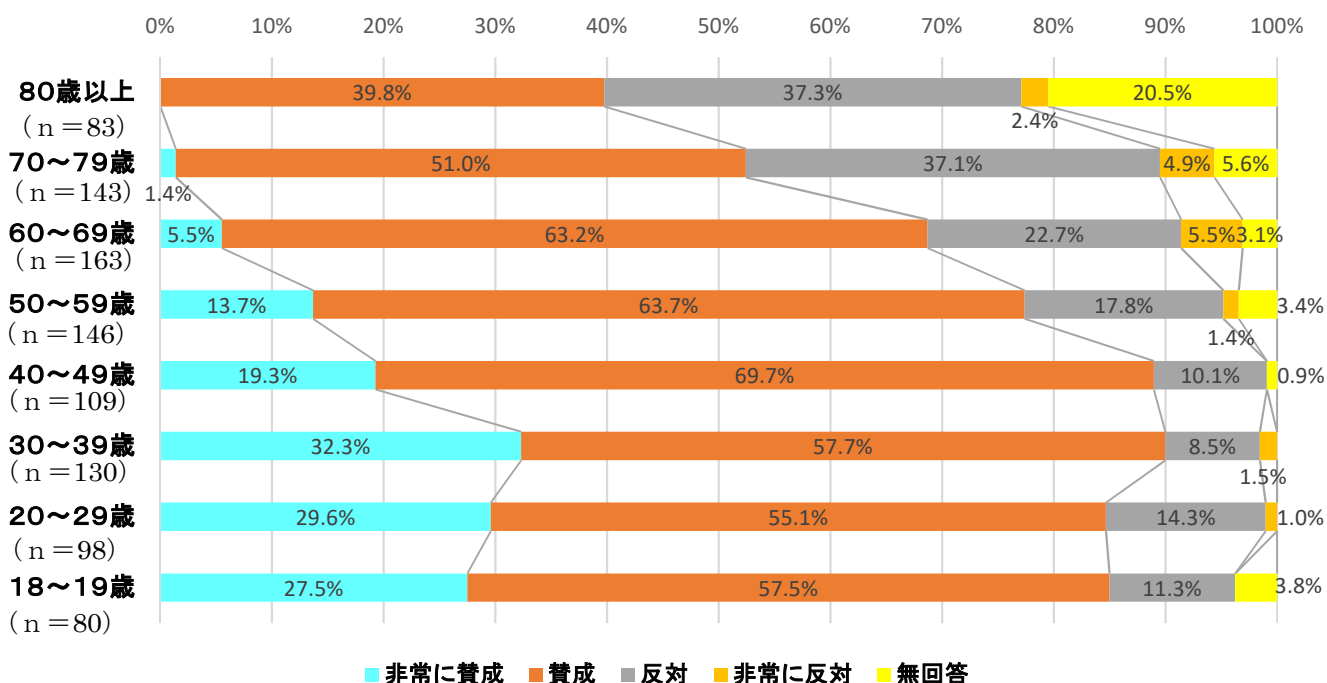
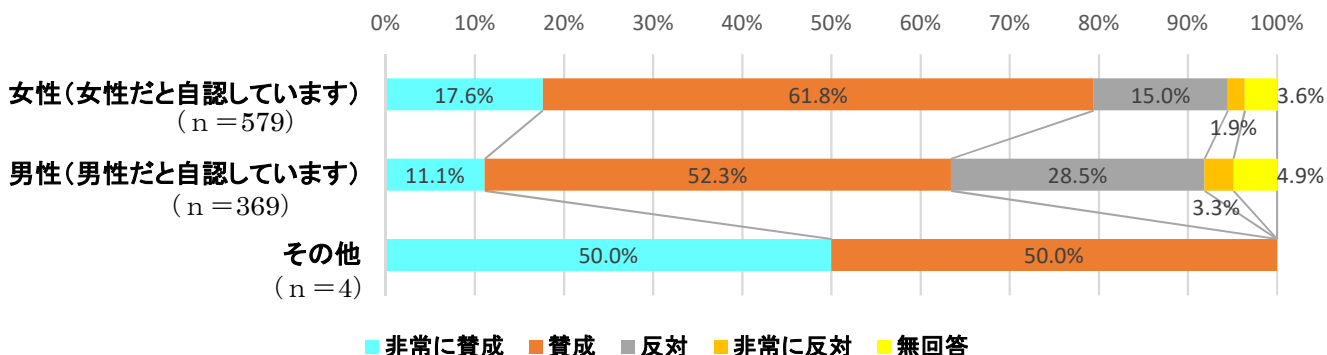


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	2	2.5%	2	2.0%	4	3.1%	3	2.8%	1	0.7%	1	0.6%	1	0.7%	2	2.4%
賛成	12	15.0%	13	13.3%	25	19.2%	25	22.9%	23	15.8%	22	13.5%	36	25.2%	33	39.8%
反対	52	65.0%	60	61.2%	64	49.2%	54	49.5%	83	56.8%	109	66.9%	85	59.4%	30	36.1%
非常に反対	13	16.3%	23	23.5%	36	27.7%	25	22.9%	37	25.3%	27	16.6%	12	8.4%	6	7.2%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	1	0.8%	2	1.8%	2	1.4%	4	2.5%	9	6.3%	12	14.5%
合計	80	100.1%	98	100%	130	100%	109	99.9%	146	100%	163	100.1%	143	100%	83	100%

### D. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない

「非常に賛成」と回答した割合が最も高いのは、30代（32.3%）次いで、20代（29.6%）10代（27.5%）となっている。

(図表 3-2-23)

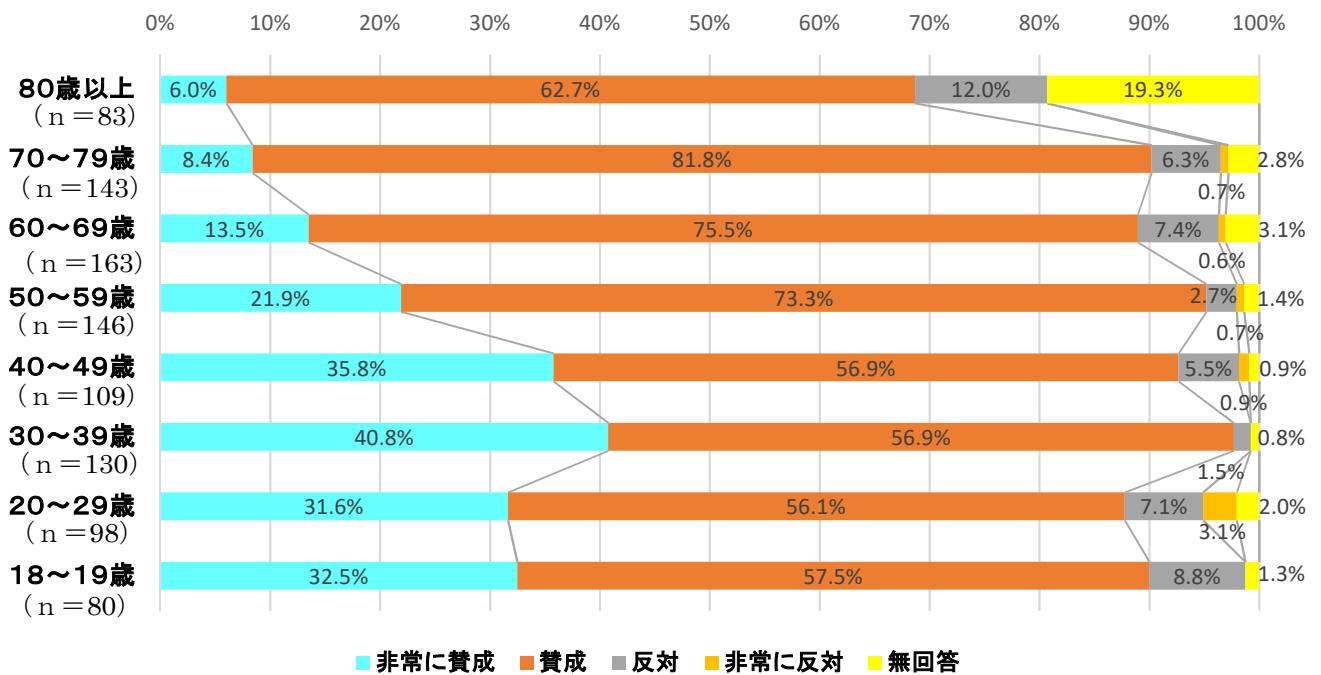
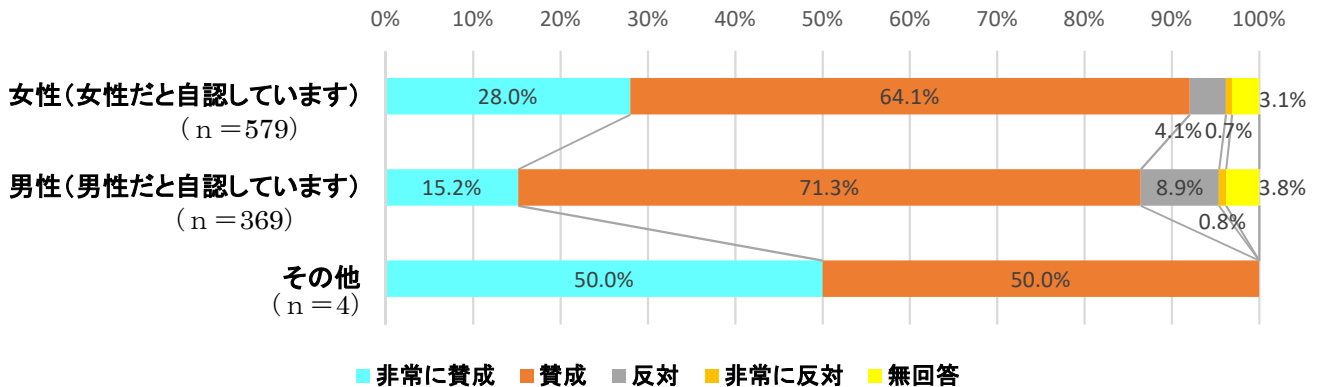


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	22	27.5%	29	29.6%	42	32.3%	21	19.3%	20	13.7%	9	5.5%	2	1.4%	0	0.0%
賛成	46	57.5%	54	55.1%	75	57.7%	76	69.7%	93	63.7%	103	63.2%	73	51.0%	33	39.8%
反対	9	11.3%	14	14.3%	11	8.5%	11	10.1%	26	17.8%	37	22.7%	53	37.1%	31	37.3%
非常に反対	0	0.0%	1	1.0%	2	1.5%	0	0.0%	2	1.4%	9	5.5%	7	4.9%	2	2.4%
無回答	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	5	3.4%	5	3.1%	8	5.6%	17	20.5%
合計	80	100.1%	98	100%	130	100%	109	100%	146	100%	163	100%	143	100%	83	100%

E. 結婚生活の継続が難しい相当な理由があるときは、離婚してもよい

「非常に賛成」と回答した割合が最も高いのは、30代（40.8%）次いで、40代（35.8%）10代（32.5%）となっている。

（図表 3-2-24）

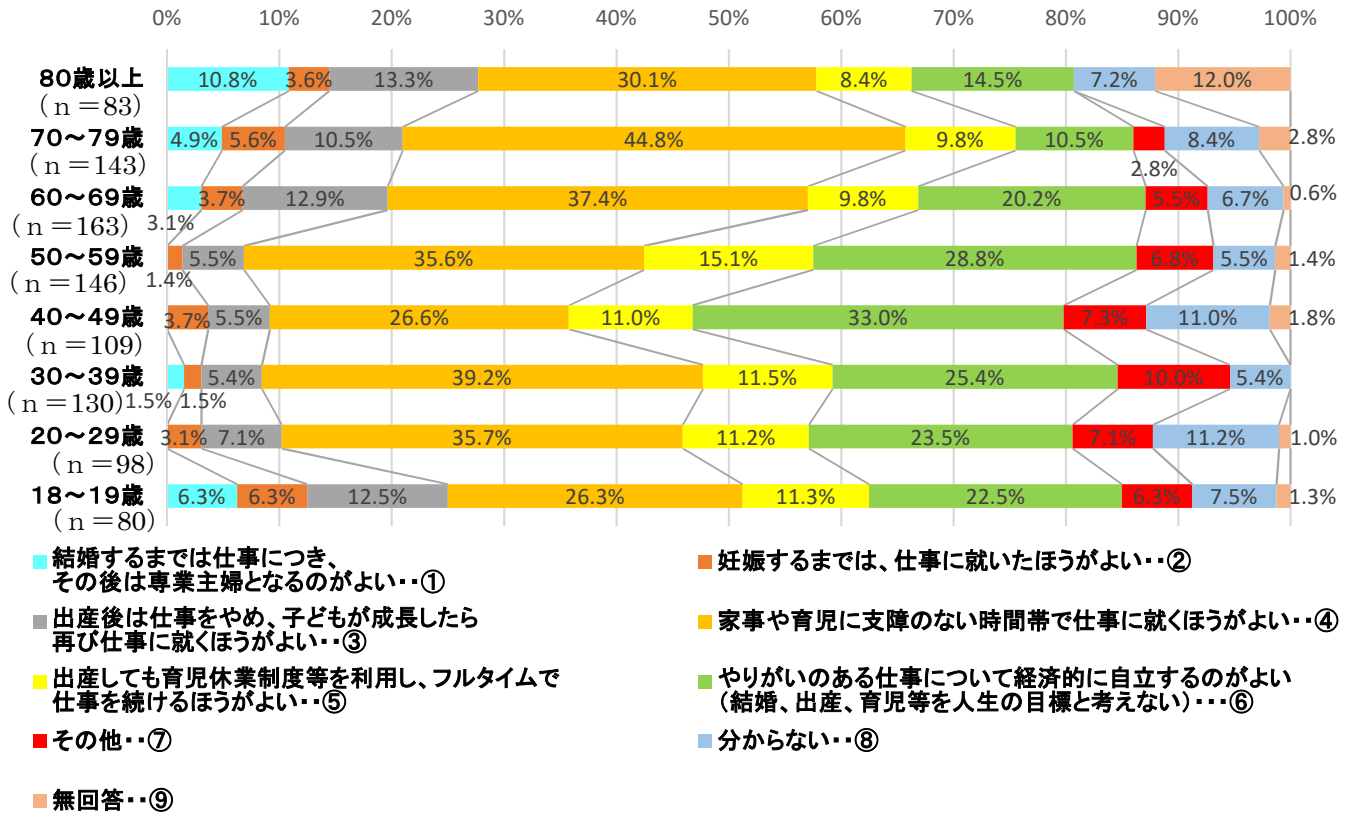


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	26	32.5%	31	31.6%	53	40.8%	39	35.8%	32	21.9%	22	13.5%	12	8.4%	5	6.0%
賛成	46	57.5%	55	56.1%	74	56.9%	62	56.9%	107	73.3%	123	75.5%	117	81.8%	52	62.7%
反対	7	8.8%	7	7.1%	2	1.5%	6	5.5%	4	2.7%	12	7.4%	9	6.3%	10	12.0%
非常に反対	0	0.0%	3	3.1%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.7%	1	0.6%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	1	1.3%	2	2.0%	1	0.8%	1	0.9%	2	1.4%	5	3.1%	4	2.8%	16	19.3%
合計	80	100.1%	98	99.9%	130	100%	109	100%	146	100%	163	100.1%	143	100%	83	100%

問10 女性の就業について、どのように思いますか。

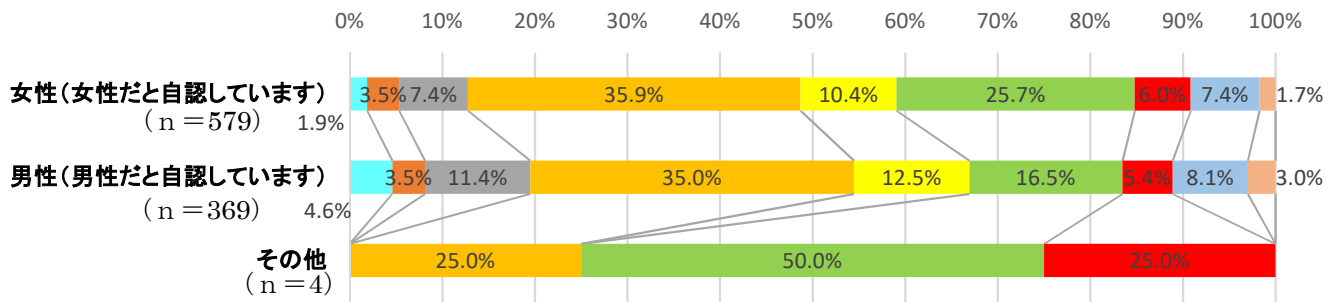
どの年代も「家事や育児に支障のない時間帯で仕事に就くほうがよい」か「やりがいのある仕事について経済的に自立する方がよい」と答えた割合が高く、「男性」「女性」で比較しても、回答した割合に大きな差はみられない。

(図表 3-2-25)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
①	5	6.3%	0	0.0%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	7	4.9%	9	10.8%
②	5	6.3%	3	3.1%	2	1.5%	4	3.7%	2	1.4%	6	3.7%	8	5.6%	3	3.6%
③	10	12.5%	7	7.1%	7	5.4%	6	5.5%	8	5.5%	21	12.9%	15	10.5%	11	13.3%
④	21	26.3%	35	35.7%	51	39.2%	29	26.6%	52	35.6%	61	37.4%	64	44.8%	25	30.1%
⑤	9	11.3%	11	11.2%	15	11.5%	12	11.0%	22	15.1%	16	9.8%	14	9.8%	7	8.4%
⑥	18	22.5%	23	23.5%	33	25.4%	36	33.0%	42	28.8%	33	20.2%	15	10.5%	12	14.5%
⑦	5	6.3%	7	7.1%	13	10.0%	8	7.3%	10	6.8%	9	5.5%	4	2.8%	0	0.0%
⑧	6	7.5%	11	11.2%	7	5.4%	12	11.0%	8	5.5%	11	6.7%	12	8.4%	6	7.2%
⑨	1	1.3%	1	1.0%	0	0.0%	2	1.8%	2	1.4%	1	0.6%	4	2.8%	10	12.0%
合計	80	100.3%	98	99.9%	130	99.9%	109	99.9%	146	100.1%	163	99.9%	143	100.1%	83	99.9%





- 結婚するまでは仕事につき、その後は専業主婦となるのがよい…①
- 出産後は仕事をやめ、子どもが成長したら再び仕事に就くほうがよい…③
- 出産しても育児休業制度等を利用し、フルタイムで仕事を続けるほうがよい…⑤
- その他…⑦
- 無回答…⑨
- 妊娠するまでは、仕事に就いたほうがよい…②
- 家事や育児に支障のない時間帯で仕事に就くほうがよい…④
- やりがいのある仕事について経済的に自立するのがよい(結婚、出産、育児等を人生の目標と考えない)…⑥
- 分からない…⑧

※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
①	28	2.9%	11	1.9%	17	4.6%	0	0.0%
②	33	3.5%	20	3.5%	13	3.5%	0	0.0%
③	85	8.9%	43	7.4%	42	11.4%	0	0.0%
④	338	35.4%	208	35.9%	129	35.0%	1	25.0%
⑤	106	11.1%	60	10.4%	46	12.5%	0	0.0%
⑥	212	22.2%	149	25.7%	61	16.5%	2	50.0%
⑦	56	5.9%	35	6.0%	20	5.4%	1	25.0%
⑧	73	7.7%	43	7.4%	30	8.1%	0	0.0%
⑨	23	2.4%	10	1.7%	11	3.0%	0	0.0%
合計	954	100%	579	99.9%	369	100%	4	100%

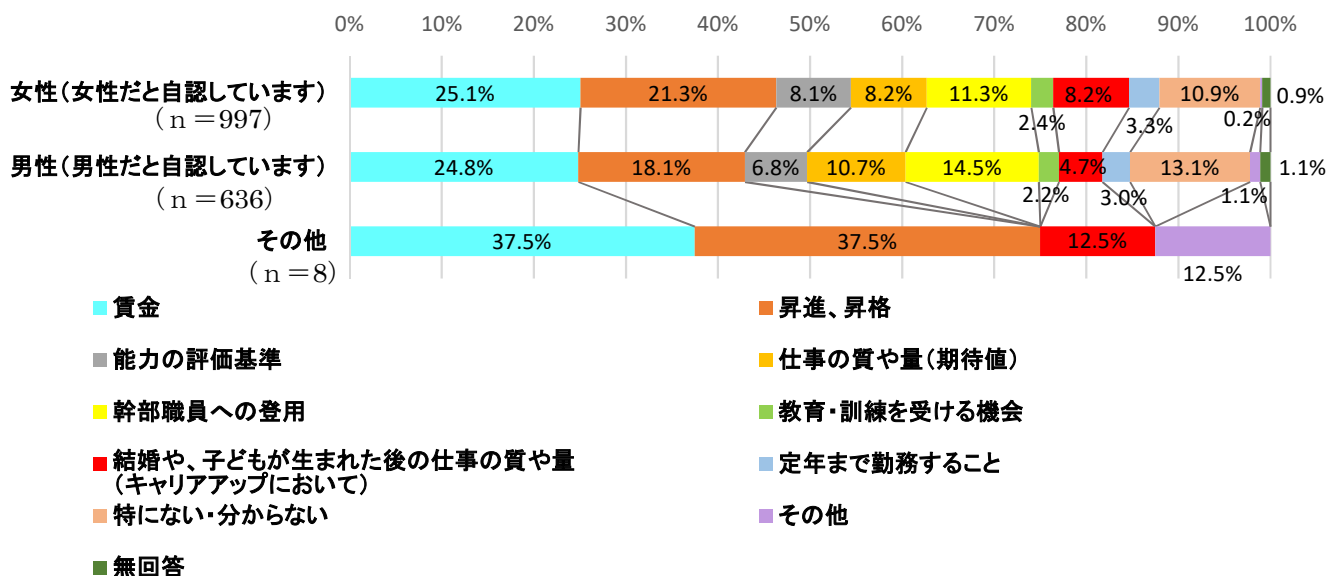
#### その他の意見欄

- ・夫婦で話し合い助け合えば一番良い (60代 女性)
- ・女性は子どもにあった事情で、好きな仕事も辞めて都合に合わせてくれない時が多いです。また親を見なければならぬなど…。 (60代 女性)
- ・女性本人が決めるべきである。結婚して仕事を辞めても良いし、育児と仕事を両立しても良いし、仕事をしたいから結婚して子供なしで仕事を続けるでもよいと思う。 (30代 男性)
- ・自分のしたいようにすればいい (20代 女性)
- ・出産しても育児休業制度を利用したり、家族(夫・祖父母) 職場や保育園等の協力をいただきながらパート・フルタイムで働くことができた。 (50代 女性)
- ・特性・適正に応じて仕事・家庭の向き合い方は違いがあることを、男女関係なく尊重し合えるのがいい。(40代女性)
- ・結婚するまでとか妊娠出産したらとかでくる時代ではないと思います。もっと女性が社会で活躍した方がいいと思います。(40代 女性)
- ・当事者が、その時に選択するのがベストであると思う。こういった回答に選択肢があること自体、女性の就業が特別視されていると感じる。そのこと事態が、意識が低いなと思う。(30代 女性)
- ・性別問わずですが、個人の環境や適性が関係することだと思いますのでそれぞれに合った就業形態で良いかと考えます。(40代 女性)
- ・結婚した後も仕事が好きな人は辞めずにそのまま仕事を続けられればいいと思う。妊娠した後も自分の体調や精神状態によって仕事を続けるか育休を取るか辞めるかを決めればいい。出産後は仕事にやりがいがある人や経済的な理由で出産した後も仕事に就かないといけな人は仕事に就けばいいと思うし逆に専業主婦になりたいならなればいいと思う。また、出産は女のししか出来ないけど家事や育児は男の人でも出来るのだから男の人が専業主婦になって女の人が働くのもいいと思う。(10代 女性)

問 1 1 仕事の内容や待遇面で、男性が女性に比べ優遇されていると思うものに口にレ点を記してください。(2つまで)

最も回答した割合が高いのは「賃金」(25.0%)次いで、「昇進、昇格」(20.1%)、「幹部職員への登用」(12.5%)となっている。

(図表 3-2-26)

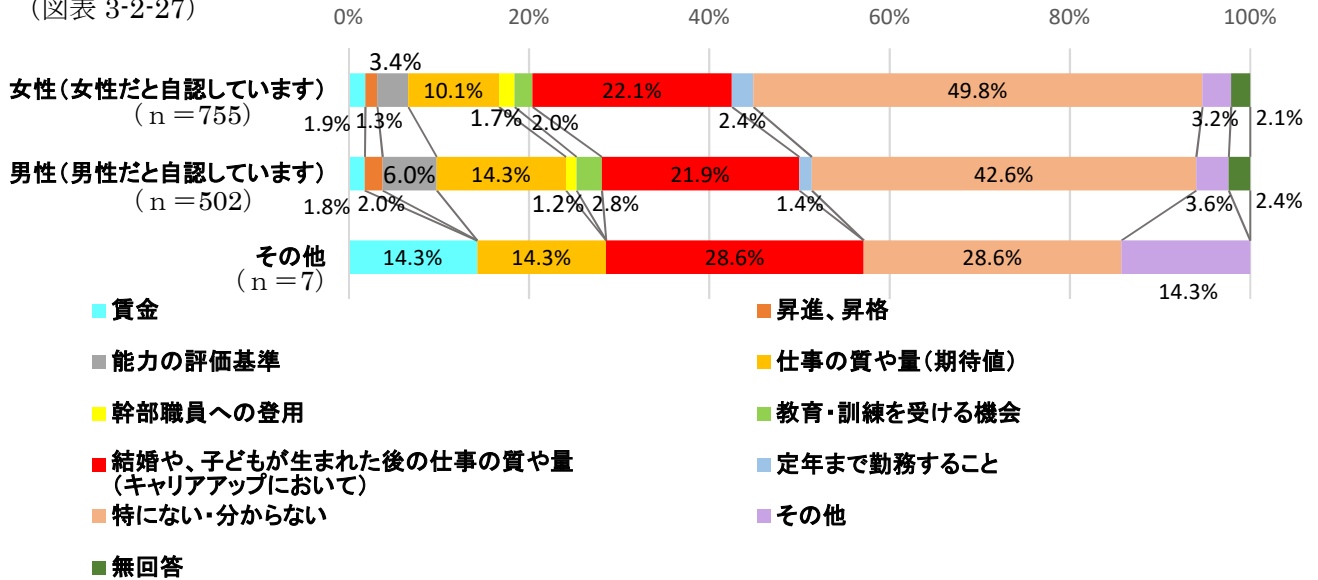


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
賃金	411	25.0%	250	25.1%	158	24.8%	3	37.5%
昇進、昇格	330	20.1%	212	21.3%	115	18.1%	3	37.5%
能力の評価基準	124	7.5%	81	8.1%	43	6.8%	0	0.0%
仕事の質や量(期待値)	150	9.1%	82	8.2%	68	10.7%	0	0.0%
幹部職員への登用	205	12.5%	113	11.3%	92	14.5%	0	0.0%
教育・訓練を受ける機会	38	2.3%	24	2.4%	14	2.2%	0	0.0%
結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量(キャリアアップにおいて)	113	6.9%	82	8.2%	30	4.7%	1	12.5%
定年まで勤務すること	52	3.2%	33	3.3%	19	3.0%	0	0.0%
特にない・分からない	192	11.7%	109	10.9%	83	13.1%	0	0.0%
その他	10	0.6%	2	0.2%	7	1.1%	1	12.5%
無回答	18	1.1%	9	0.9%	7	1.1%	0	0.0%
合計	1645	100%	997	99.9%	636	100.1%	8	100%

問 1 2 仕事の内容や待遇面で、女性が男性に比べ優遇されていると思うものに口にレ点を記してください。(2つまで)

最も回答した割合が高いのは「特にない・分からない」(46.8%) 次いで、「結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量」(22.0%) となっている。

(図表 3-2-27)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性(女性だと自認しています)		男性(男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
賃金	24	1.9%	14	1.9%	9	1.8%	1	14.3%
昇進、昇格	20	1.6%	10	1.3%	10	2.0%	0	0.0%
能力の評価基準	56	4.4%	26	3.4%	30	6.0%	0	0.0%
仕事の質や量(期待値)	149	11.8%	76	10.1%	72	14.3%	1	14.3%
幹部職員への登用	19	1.5%	13	1.7%	6	1.2%	0	0.0%
教育・訓練を受ける機会	29	2.3%	15	2.0%	14	2.8%	0	0.0%
結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量(キャリアアップにおいて)	279	22.0%	167	22.1%	110	21.9%	2	28.6%
定年まで勤務すること	25	2.0%	18	2.4%	7	1.4%	0	0.0%
特にない・分からない	592	46.8%	376	49.8%	214	42.6%	2	28.6%
その他	43	3.4%	24	3.2%	18	3.6%	1	14.3%
無回答	30	2.4%	16	2.1%	12	2.4%	0	0.0%
合計	1266	100.1%	755	100%	502	100%	7	100.1%

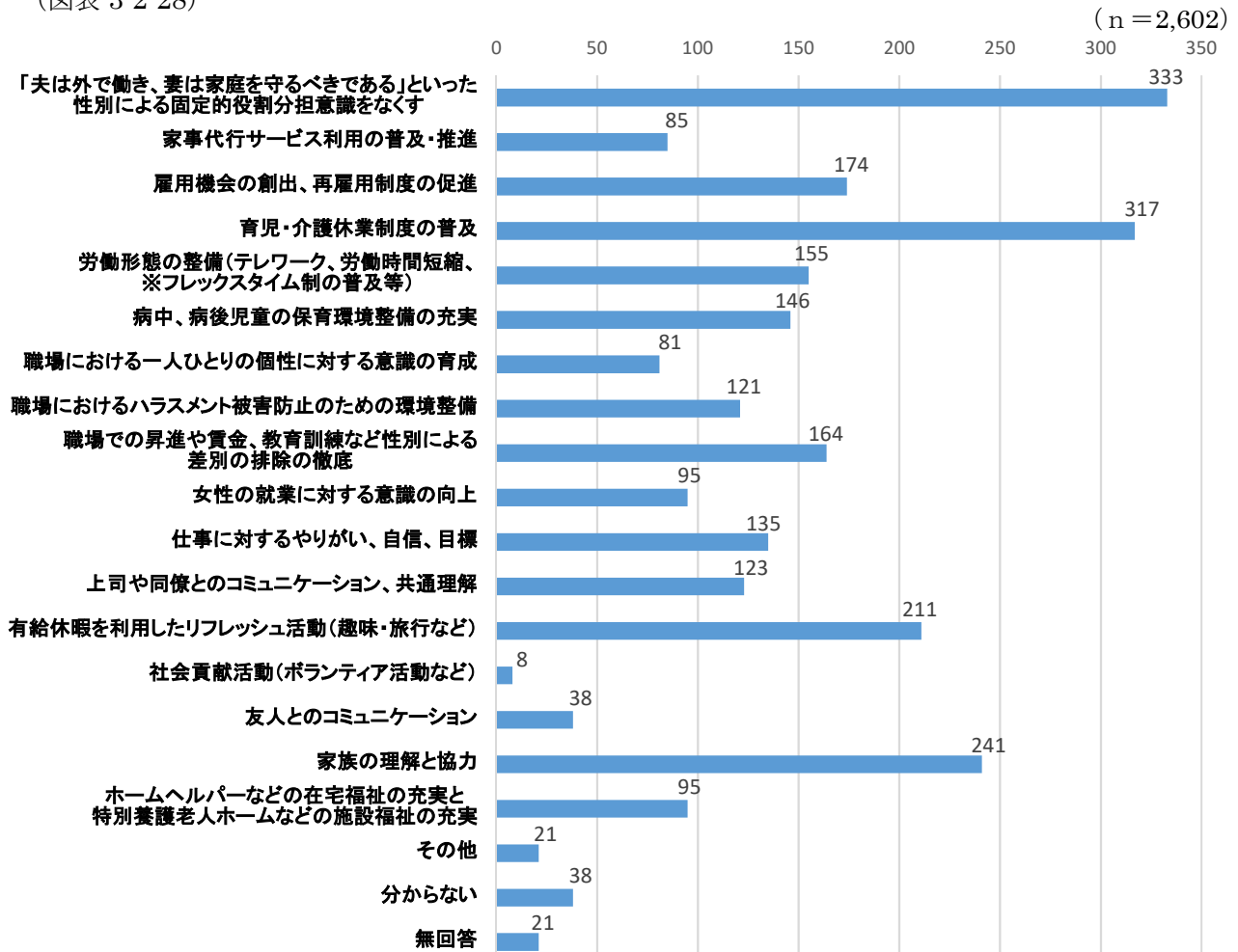
問 1 1、1 2 その他の意見欄

- ・職種によって色々ちがうのははっきりわからない (50代 女性)
- ・男女の差ではなく、能力の差で世の中はきまっている。(60代 男性)
- ・気にならない (40代 女性)
- ・当事者次第 (50代 男性)
- ・結局のところ自分の都合 (50代 男性)
- ・男女の性別で体力や能力の差は当然である。「優遇」というより“区別”である。要は、個々の捉え方の違い。(30代男性)
- ・勤務時間をある程度柔軟に変更できる男性と同等の職務ができなくても大目に見てもらえる (40代 女性)

問13 すべての人が働きやすい環境を整えるために、何が必要だと思いますか。あてはまる口にレ点を記してください。(3つまで)

最も多く回答があったのは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった、性別による固定的役割分担意識をなくす(333人)次いで「育児・介護休暇制度の普及」(317人)、「家族の理解と協力」(241人)となっている。

(図表 3-2-28)



その他の意見欄

- ・農業などは男性も女性もないところがある。男性には男性のよさ、女性には女性のよさ、お互い理解しあって助け合えば一番いいと思う。男とか女とか関係なく(60代 女性)
- ・①正規雇用・非正規雇用又は職員・会計年度職員の賃金や雇用条件の差がありすぎ。これは人権問題だと思う。②キャリアの再確認。自治体も厚生労働省があっせんする「キャリアドッグ制度」を積極的に活用していただきたい。(60代 男性)
- ・(市内都市部と田舎の方では)子供の預け先に差があり働こうと思っても預けづらい。(40代女性)
- ・保育事業所などの増設、共働きし易い環境の整備、提供を。行政側には促進を願う。(わたしには必要ありませんが、これからの若い世代のため)(50代 男性)
- ・意識改革だの経費が関わる問題を市がどうこう出来ると思えない。そもそも、その能力があり、実現できる内容を提示してほしい。(20代 男性)
- ・働きたい人が働いて一家を支えられたら夫でも妻でもよい(40代 男性)
- ・今の働く世代の固定観念を変えていくより、子どもたちの教育に力をいれた方が早いと思う。小さいうちから、夫婦が共に働き、家事、育児も分担が当たり前になれば、必然と雇用する側の意識も変わり、社会の風潮も変わると思う。(30代 女性)
- ・産休、育休、育児時単制度は素晴らしいがその補填をする社員の負荷を考えてパートで産休代理ではなく正社員を増やしてほしい。(40代 女性)

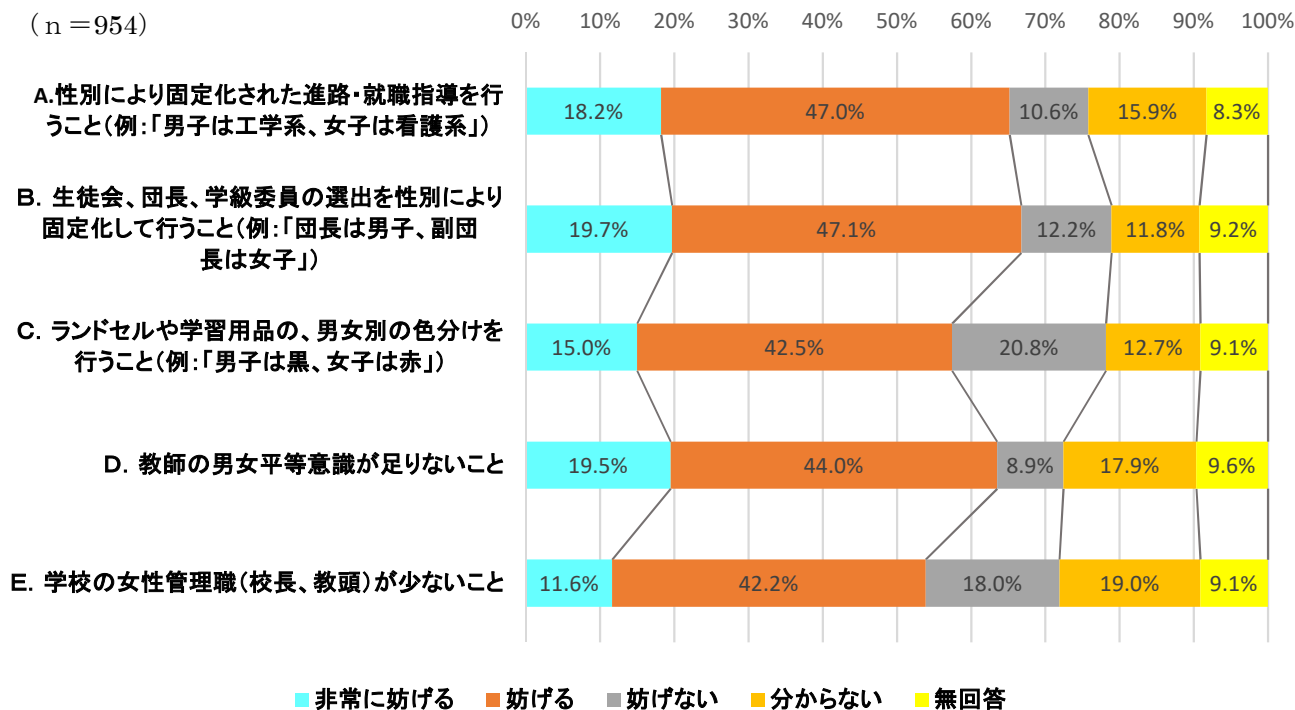
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性（女性だと自認しています）		男性（男性だと自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別による固定的役割分担意識をなくす	333	12.8%	202	12.6%	129	13.0%	2	22.2%
家事代行サービス利用の普及・推進	85	3.3%	58	3.6%	27	2.7%	0	0.0%
雇用機会の創出、再雇用制度の促進	174	6.7%	93	5.8%	81	8.2%	0	0.0%
育児・介護休業制度の普及	317	12.2%	207	12.9%	110	11.1%	0	0.0%
労働形態の整備（テレワーク、労働時間短縮、※フレックスタイム制の普及等）	155	6.0%	100	6.2%	54	5.5%	1	11.1%
病中、病後児童の保育環境整備の充実	146	5.6%	102	6.4%	43	4.3%	1	11.1%
職場における一人ひとりの個性に対する意識の育成	81	3.1%	43	2.7%	38	3.8%	0	0.0%
職場におけるハラスメント被害防止のための環境整備	121	4.7%	77	4.8%	43	4.3%	1	11.1%
職場での昇進や賃金、教育訓練など性別による差別の排除の徹底	164	6.3%	98	6.1%	66	6.7%	0	0.0%
女性の就業に対する意識の向上	95	3.7%	56	3.5%	39	3.9%	0	0.0%
仕事に対するやりがい、自信、目標	135	5.2%	72	4.5%	62	6.3%	1	11.1%
上司や同僚とのコミュニケーション、共通理解	123	4.7%	75	4.7%	48	4.8%	0	0.0%
有給休暇を利用したリフレッシュ活動（趣味・旅行など）	211	8.1%	124	7.7%	86	8.7%	1	11.1%
社会貢献活動（ボランティア活動など）	8	0.3%	2	0.1%	6	0.6%	0	0.0%
友人とのコミュニケーション	38	1.5%	25	1.6%	13	1.3%	0	0.0%
家族の理解と協力	241	9.3%	167	10.4%	73	7.4%	1	11.1%
ホームヘルパーなどの在宅福祉の充実と特別養護老人ホームなどの施設福祉の充実	95	3.7%	63	3.9%	32	3.2%	0	0.0%
その他	21	0.8%	9	0.6%	11	1.1%	1	11.1%
分からない	38	1.5%	19	1.2%	19	1.9%	0	0.0%
無回答	21	0.8%	9	0.6%	10	1.0%	0	0.0%
合計	2602	100.3%	1601	99.9%	990	99.8%	9	99.9%

問14 次のA～Eの項目で、男女の地位の平等意識の育成にどのように影響すると思いますか。

全ての項目において「妨げる」「非常に妨げる」と回答した割合が5割以上となっている。「妨げない」と回答した割合が最も高い項目は「ランドセルや学習用品の、男女別の色分けを行うこと」となっている。

(図表 3-2-29)

(n = 954)

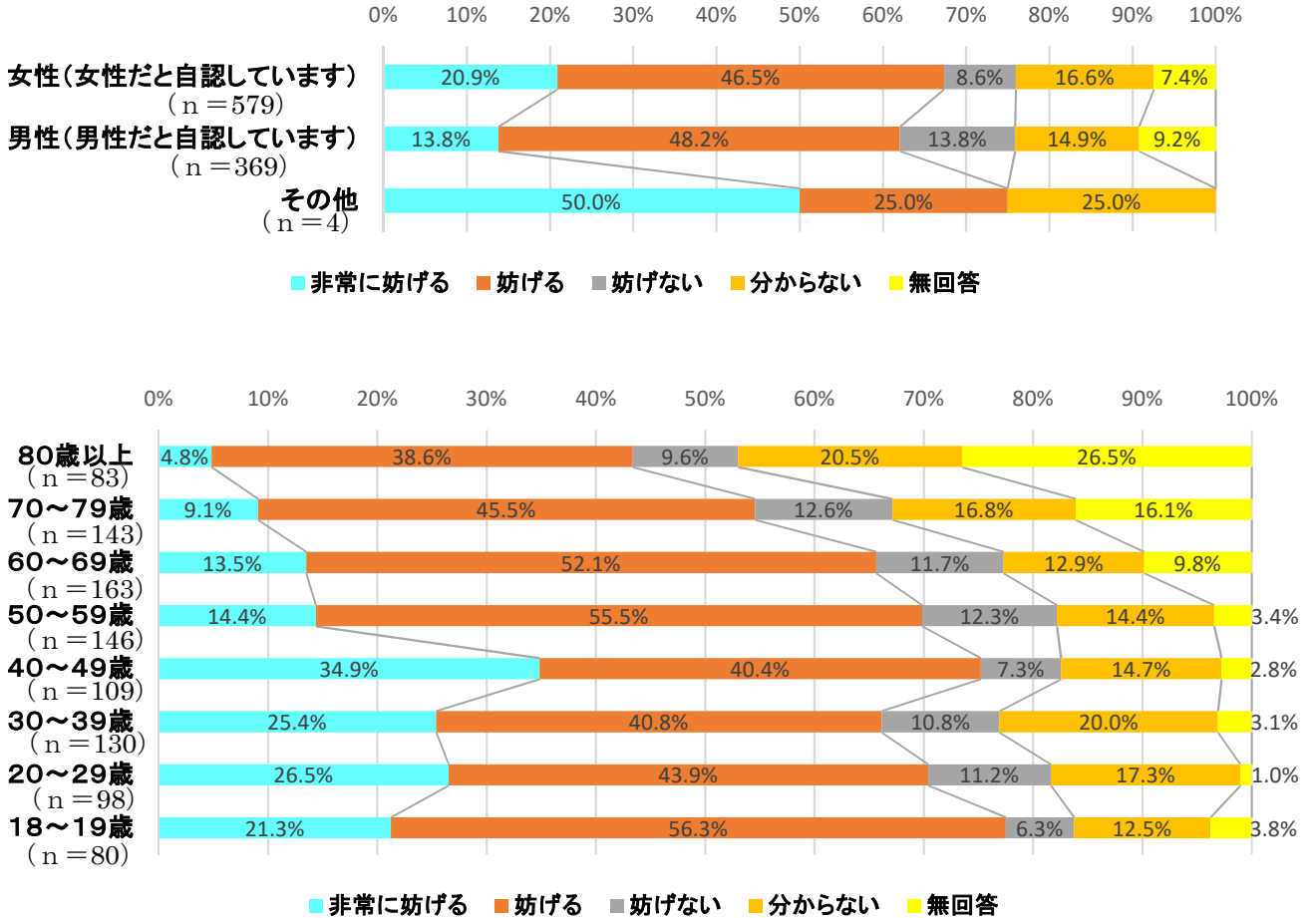


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A.性別により固定化された進路・就職指導を行うこと(例:「男子は工学系、女子は看護系」)		B. 生徒会、団長、学級委員の選出を性別により固定化して行うこと(例:「団長は男子、副団長は女子」)		C. ランドセルや学習用品の、男女別の色分けを行うこと(例:「男子は黒、女子は赤」)		D. 教師の男女平等意識が足りないこと		E. 学校の女性管理職(校長、教頭)が少ないこと	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	174	18.2%	188	19.7%	143	15.0%	186	19.5%	111	11.6%
妨げる	448	47.0%	449	47.1%	405	42.5%	420	44.0%	403	42.2%
妨げない	101	10.6%	116	12.2%	198	20.8%	85	8.9%	172	18.0%
分からない	152	15.9%	113	11.8%	121	12.7%	171	17.9%	181	19.0%
無回答	79	8.3%	88	9.2%	87	9.1%	92	9.6%	87	9.1%
合計	954	100%	954	100%	954	100.1%	954	99.9%	954	99.9%

A. 性別により固定化された進路・就職指導を行うこと（例：「男子は工学系、女子は看護系」）

「非常に妨げる」と回答した割合が最も高いのは、40代（34.9%）次いで、20代（26.5%）30代（25.4%）となっている。

（図表 3-2-30）



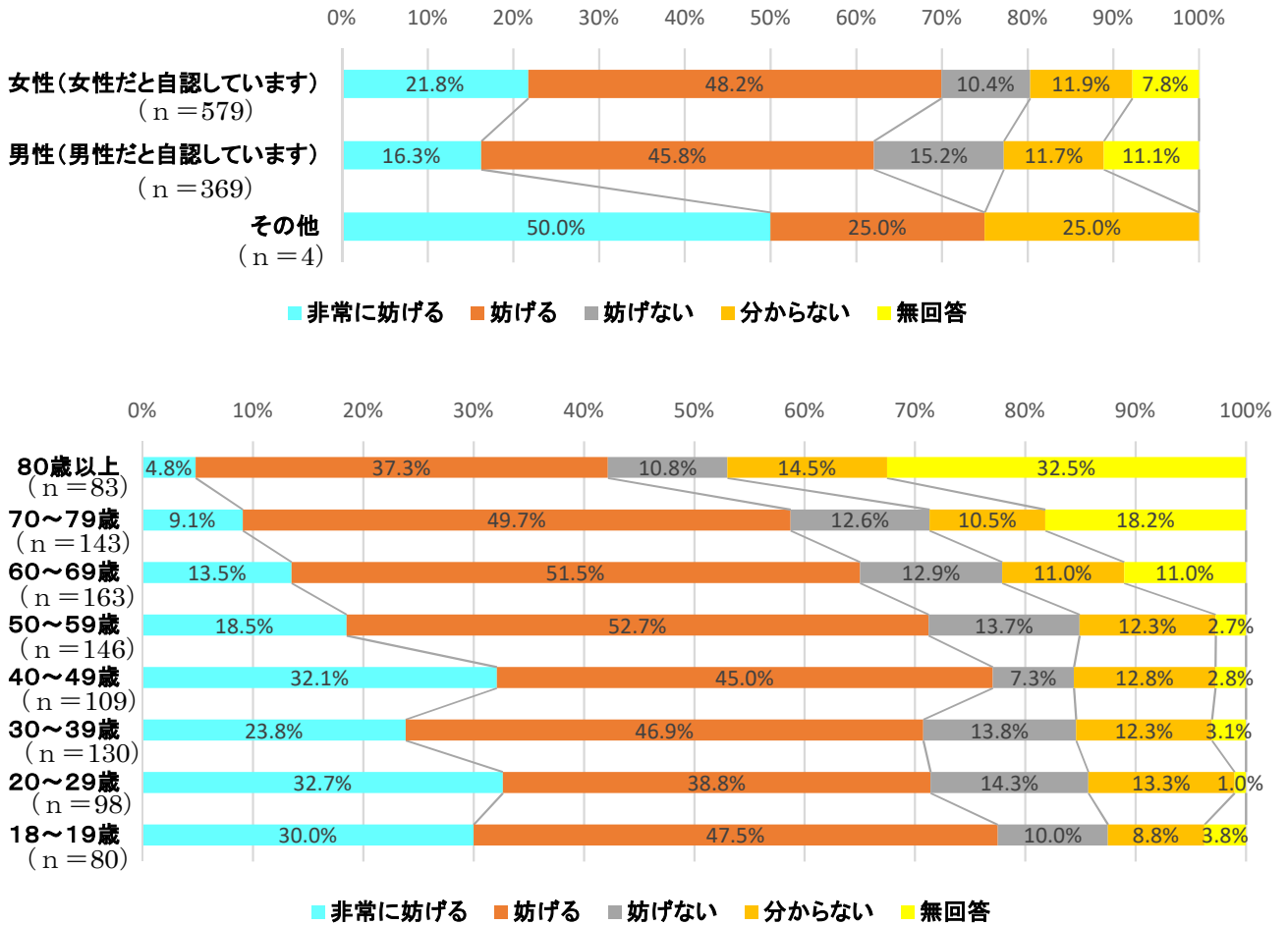
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	17	21.3%	26	26.5%	33	25.4%	38	34.9%	21	14.4%	22	13.5%	13	9.1%	4	4.8%
妨げる	45	56.3%	43	43.9%	53	40.8%	44	40.4%	81	55.5%	85	52.1%	65	45.5%	32	38.6%
妨げない	5	6.3%	11	11.2%	14	10.8%	8	7.3%	18	12.3%	19	11.7%	18	12.6%	8	9.6%
分からない	10	12.5%	17	17.3%	26	20.0%	16	14.7%	21	14.4%	21	12.9%	24	16.8%	17	20.5%
無回答	3	3.8%	1	1.0%	4	3.1%	3	2.8%	5	3.4%	16	9.8%	23	16.1%	22	26.5%
合計	80	100.2%	98	99.9%	130	100.1%	109	100.1%	146	100%	163	100%	143	100.1%	83	100%



B. 生徒会、団長、学級委員の選出を性別により固定化して行うこと（例：「団長は男子、副団長は女子」）

「非常に妨げる」と回答した割合が最も高いのは、20代（32.7%）次いで、40代（32.1%）、10代（30.0%）となっている。

（図表 3-2-31）



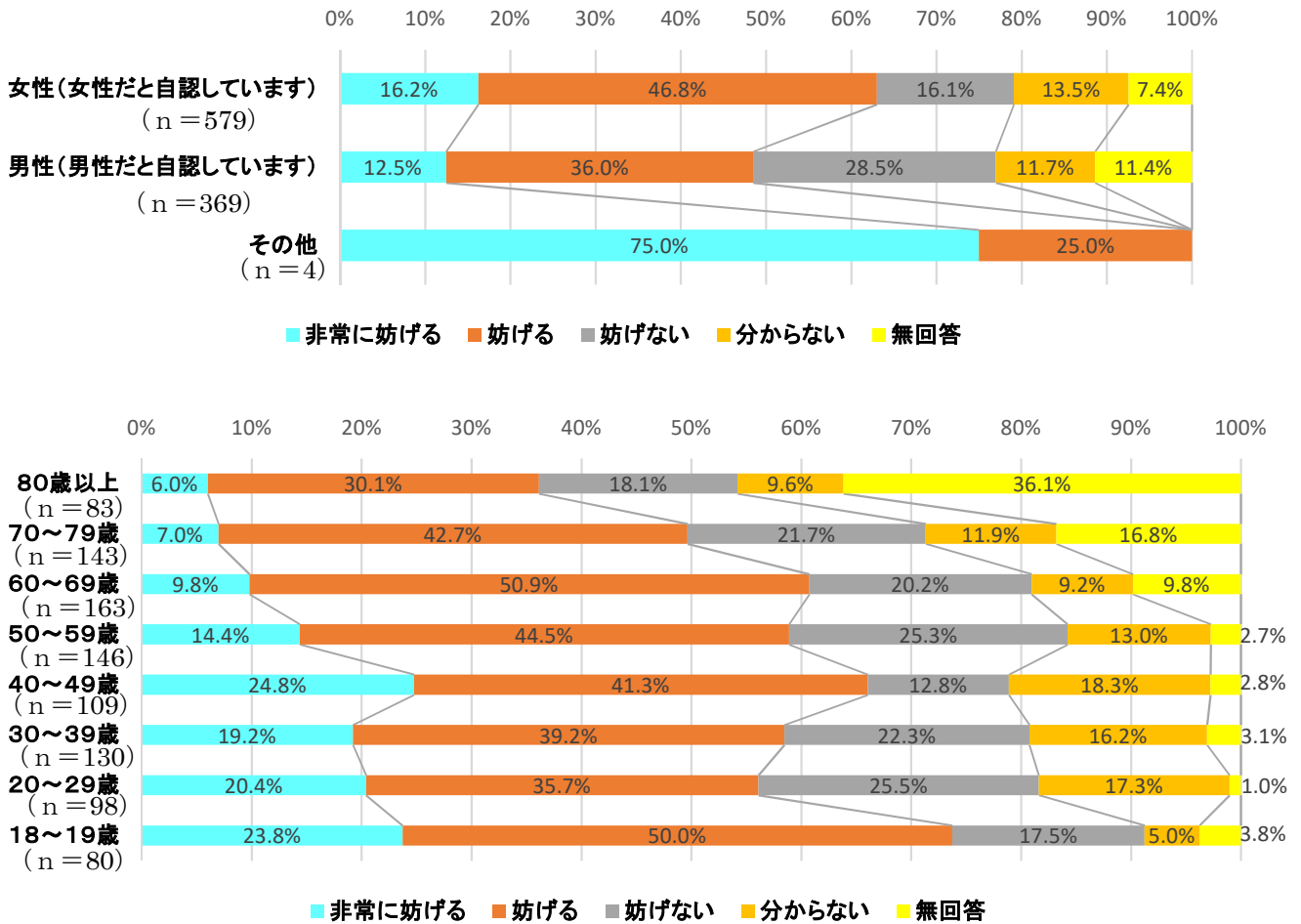
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	24	30.0%	32	32.7%	31	23.8%	35	32.1%	27	18.5%	22	13.5%	13	9.1%	4	4.8%
妨げる	38	47.5%	38	38.8%	61	46.9%	49	45.0%	77	52.7%	84	51.5%	71	49.7%	31	37.3%
妨げない	8	10.0%	14	14.3%	18	13.8%	8	7.3%	20	13.7%	21	12.9%	18	12.6%	9	10.8%
分からない	7	8.8%	13	13.3%	16	12.3%	14	12.8%	18	12.3%	18	11.0%	15	10.5%	12	14.5%
無回答	3	3.8%	1	1.0%	4	3.1%	3	2.8%	4	2.7%	18	11.0%	26	18.2%	27	32.5%
合計	80	100.1%	98	100.1%	130	99.9%	109	100%	146	99.9%	163	99.9%	143	100.1%	83	99.9%



C. ランドセルや学習用品の、男女別の色分けを行うこと（例：「男子は黒、女子は赤」）

「妨げない」と回答した割合が最も高いのは、20代（25.5%）次いで、50代（25.3%）、30代（22.3%）となっている。

（図表 3-2-32）

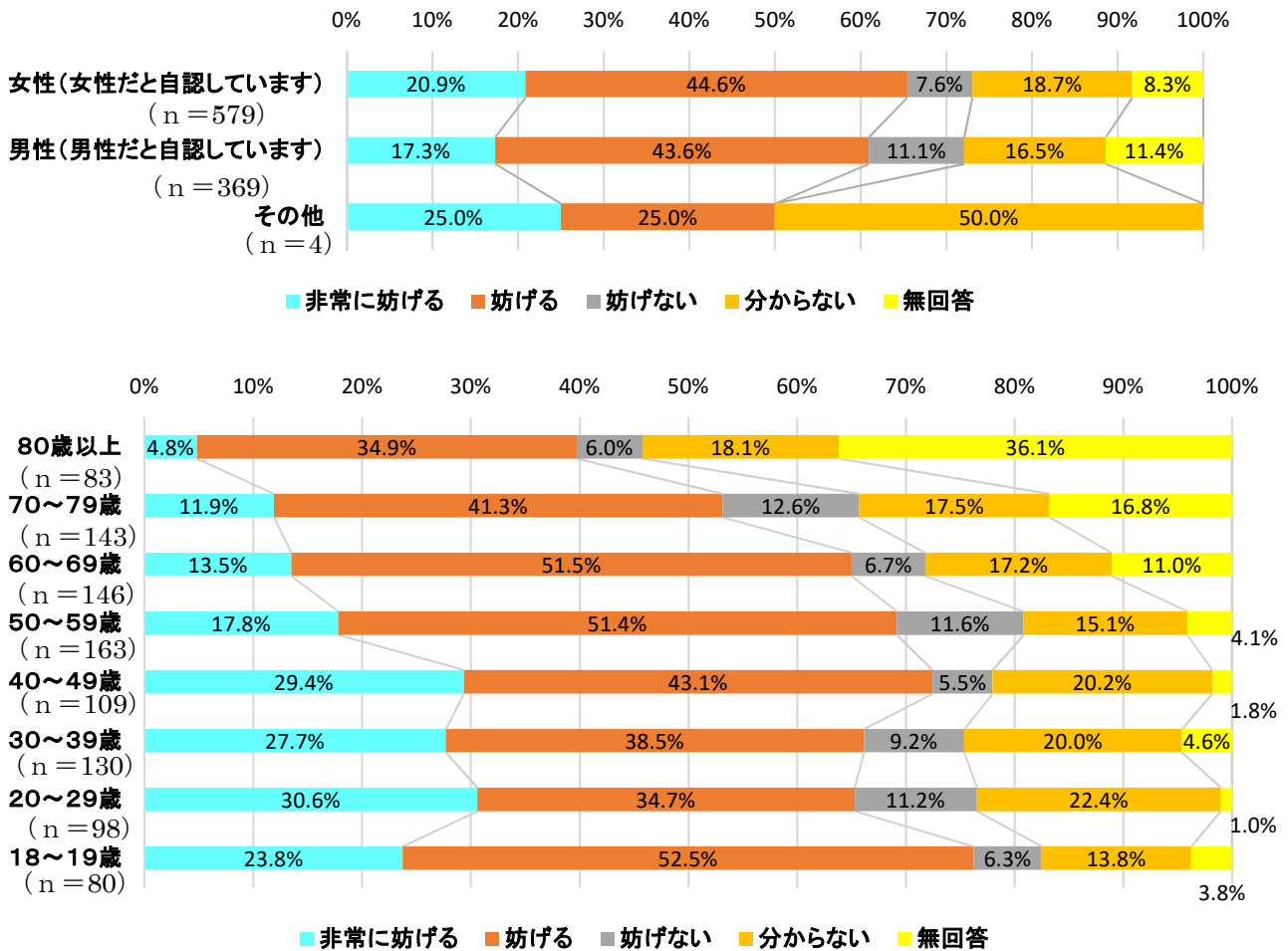


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	19	23.8%	20	20.4%	25	19.2%	27	24.8%	21	14.4%	16	9.8%	10	7.0%	5	6.0%
妨げる	40	50.0%	35	35.7%	51	39.2%	45	41.3%	65	44.5%	83	50.9%	61	42.7%	25	30.1%
妨げない	14	17.5%	25	25.5%	29	22.3%	14	12.8%	37	25.3%	33	20.2%	31	21.7%	15	18.1%
分からない	4	5.0%	17	17.3%	21	16.2%	20	18.3%	19	13.0%	15	9.2%	17	11.9%	8	9.6%
無回答	3	3.8%	1	1.0%	4	3.1%	3	2.8%	4	2.7%	16	9.8%	24	16.8%	30	36.1%
合計	80	100.1%	98	99.9%	130	100%	109	100%	146	99.9%	163	99.9%	143	100.1%	83	99.9%

## D. 教師の男女平等意識が足りないこと

「非常に妨げる」と回答した割合が最も高いのは、20代（30.6%）次いで、40代（29.4%）、30代（27.7%）となっている。

（図表 3-2-33）

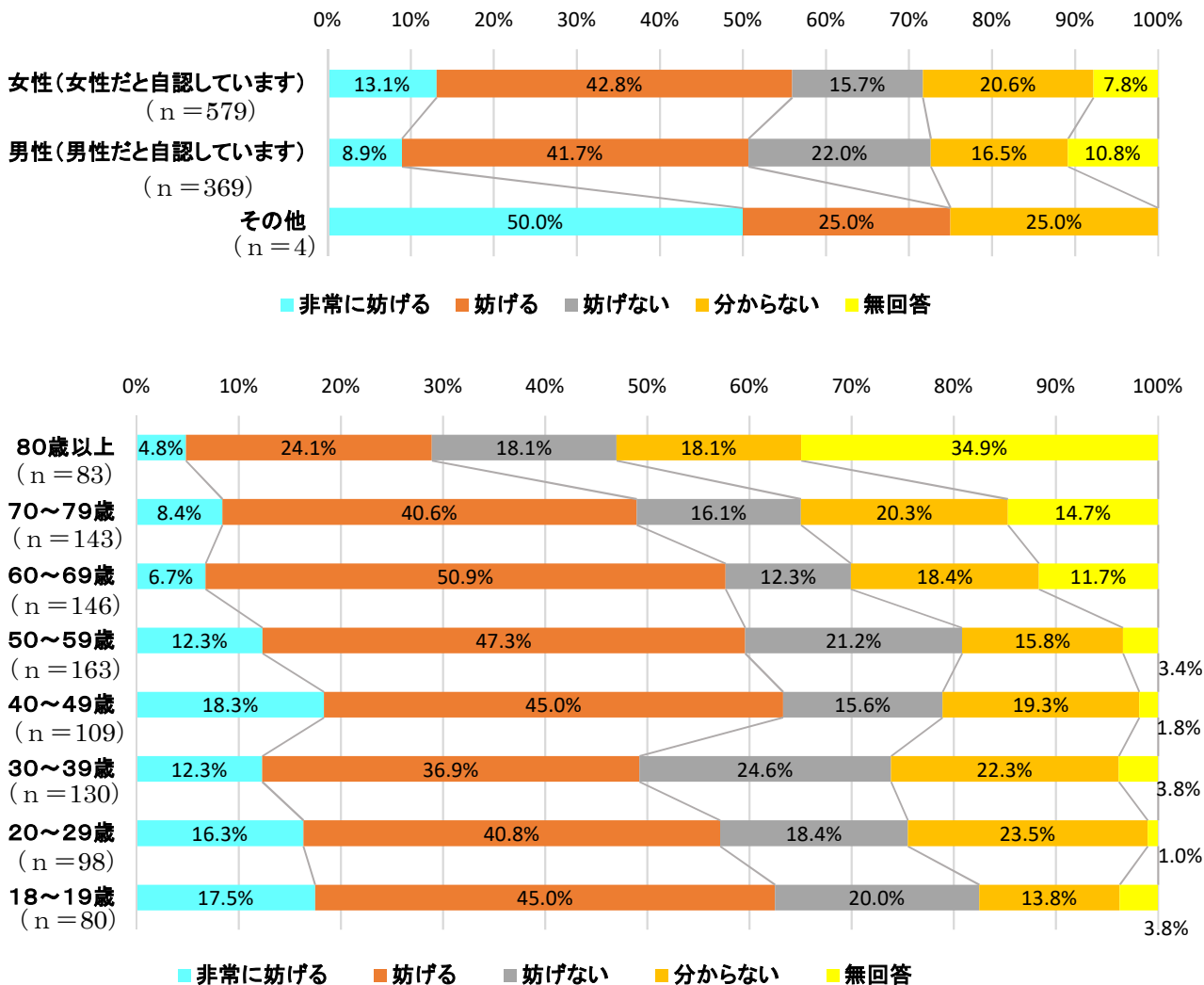


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	19	23.8%	30	30.6%	36	27.7%	32	29.4%	26	17.8%	22	13.5%	17	11.9%	4	4.8%
妨げる	42	52.5%	34	34.7%	50	38.5%	47	43.1%	75	51.4%	84	51.5%	59	41.3%	29	34.9%
妨げない	5	6.3%	11	11.2%	12	9.2%	6	5.5%	17	11.6%	11	6.7%	18	12.6%	5	6.0%
分からない	11	13.8%	22	22.4%	26	20.0%	22	20.2%	22	15.1%	28	17.2%	25	17.5%	15	18.1%
無回答	3	3.8%	1	1.0%	6	4.6%	2	1.8%	6	4.1%	18	11.0%	24	16.8%	30	36.1%
合計	80	100.2%	98	99.9%	130	100%	109	100%	146	100%	163	99.9%	143	100.1%	83	99.9%

E. 学校の女性管理職（校長、教頭）が少ないこと

「妨げない」と回答した割合が最も高いのは、30代（24.6%）次いで、50代（21.2%）、10代（20.0%）となっている。

（図表 3-2-34）



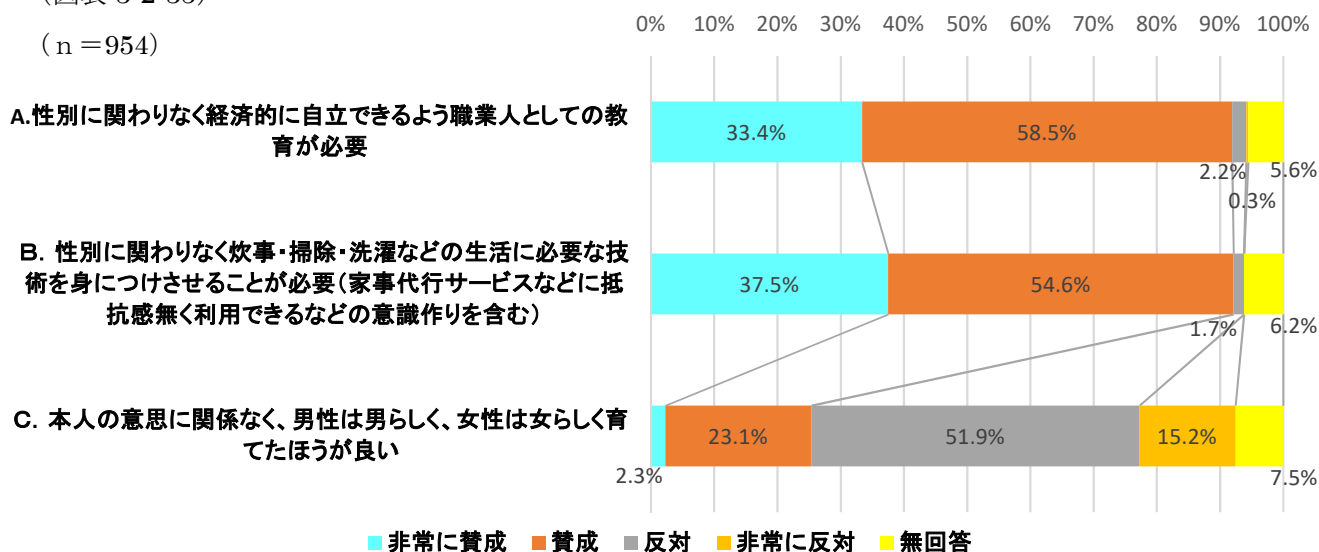
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に妨げる	14	17.5%	16	16.3%	16	12.3%	20	18.3%	18	12.3%	11	6.7%	12	8.4%	4	4.8%
妨げる	36	45.0%	40	40.8%	48	36.9%	49	45.0%	69	47.3%	83	50.9%	58	40.6%	20	24.1%
妨げない	16	20.0%	18	18.4%	32	24.6%	17	15.6%	31	21.2%	20	12.3%	23	16.1%	15	18.1%
分からない	11	13.8%	23	23.5%	29	22.3%	21	19.3%	23	15.8%	30	18.4%	29	20.3%	15	18.1%
無回答	3	3.8%	1	1.0%	5	3.8%	2	1.8%	5	3.4%	19	11.7%	21	14.7%	29	34.9%
合計	80	100.1%	98	100%	130	99.9%	109	100%	146	100%	163	100%	143	100.1%	83	100%

問15 次のA～Cの項目について、子どものしつけや教育についてどのように思いますか。

「非常に賛成」「賛成」と回答した割合が項目Aは91.9%、項目Bは92.1%なのに対して、項目Cは25.4%となっている。

(図表 3-2-35)

(n = 954)

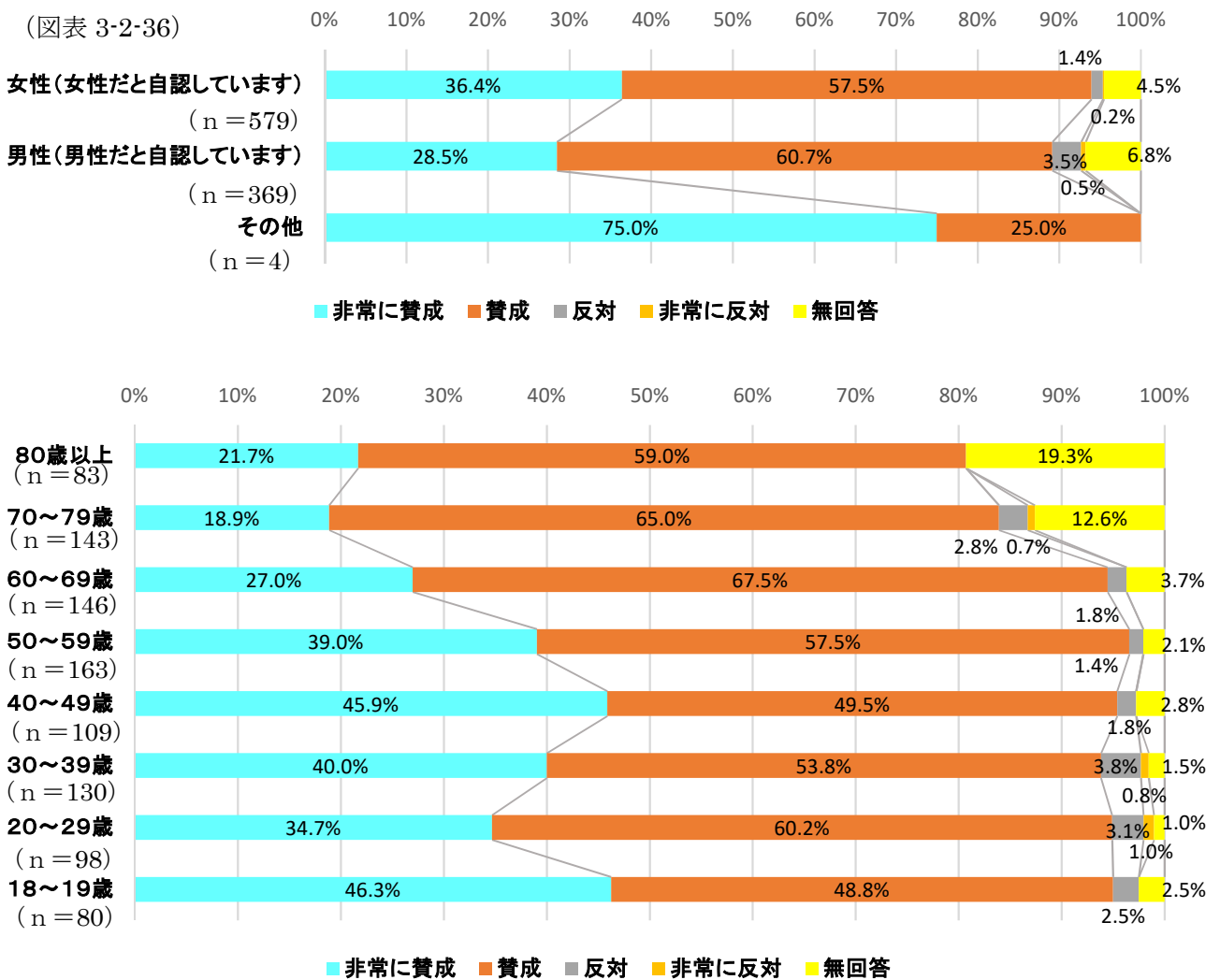


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	A.性別に関わりなく経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要		B. 性別に関わりなく炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせることが必要(家事代行サービスなどに抵抗感無く利用できるなどの意識作りを含む)		C. 本人の意思に関係なく、男性は男らしく、女性は女らしく育てたほうが良い	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	319	33.4%	358	37.5%	22	2.3%
賛成	558	58.5%	521	54.6%	220	23.1%
反対	21	2.2%	16	1.7%	495	51.9%
非常に反対	3	0.3%	0	0.0%	145	15.2%
無回答	53	5.6%	59	6.2%	72	7.5%
合計	954	100%	954	100%	954	100%

### A. 性別にかかわらず無く経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要

全ての年代で8割以上が「非常に賛成」「賛成」と回答している。「非常に賛成」と回答した割合が最も高いのは、10代(46.3%)次いで40代(45.9%)となっている。

(図表 3-2-36)

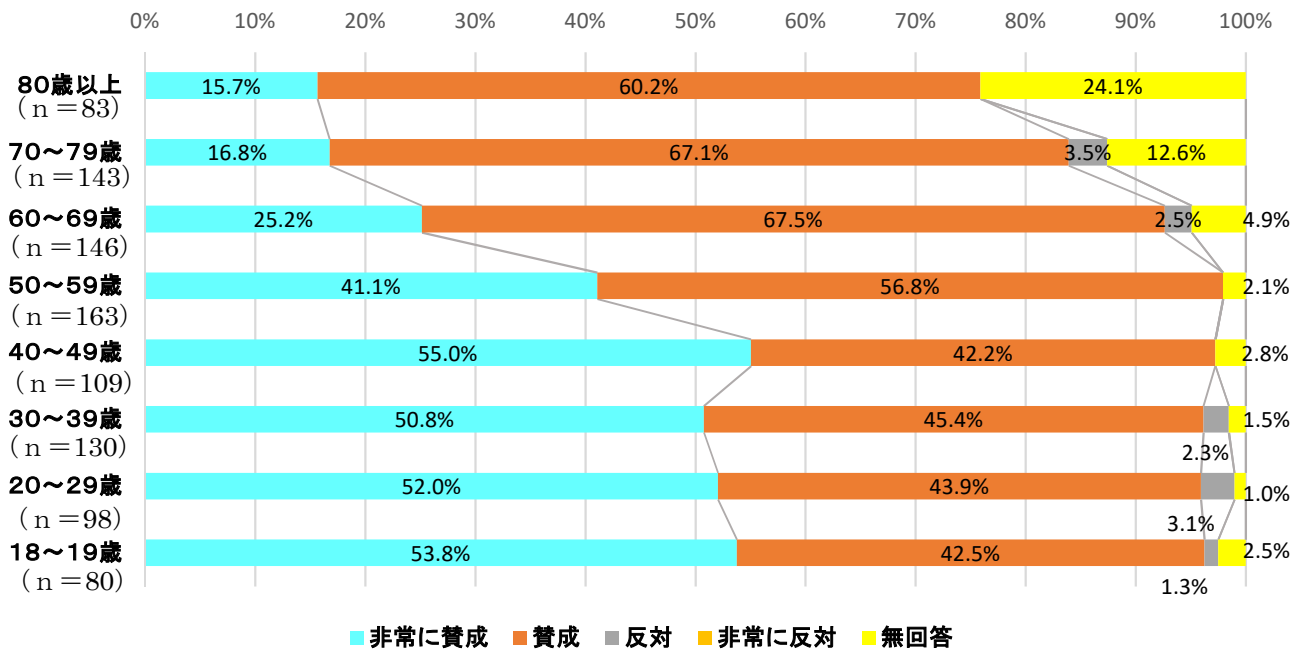
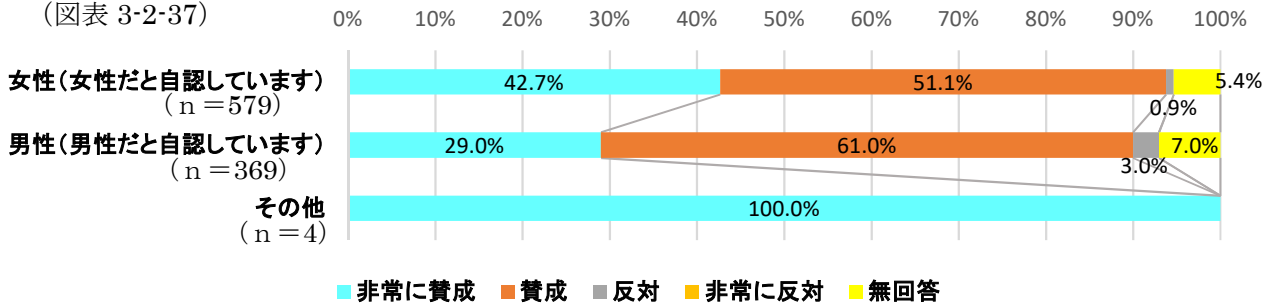


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	37	46.3%	34	34.7%	52	40.0%	50	45.9%	57	39.0%	44	27.0%	27	18.9%	18	21.7%
賛成	39	48.8%	59	60.2%	70	53.8%	54	49.5%	84	57.5%	110	67.5%	93	65.0%	49	59.0%
反対	2	2.5%	3	3.1%	5	3.8%	2	1.8%	2	1.4%	3	1.8%	4	2.8%	0	0.0%
非常に反対	0	0.0%	1	1.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%
無回答	2	2.5%	1	1.0%	2	1.5%	3	2.8%	3	2.1%	6	3.7%	18	12.6%	16	19.3%
合計	80	100.1%	98	100%	130	99.9%	109	100%	146	100%	163	100%	143	100%	83	100%

B. 性別に関わりなく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせることが必要（家事代行サービスなどに抵抗感なく利用できるなどの意識作りを含む）

40代～10代は「非常に賛成」と回答した割合が5割以上であるのに対し、50代～80代以上は割合が低くなっている。

(図表 3-2-37)

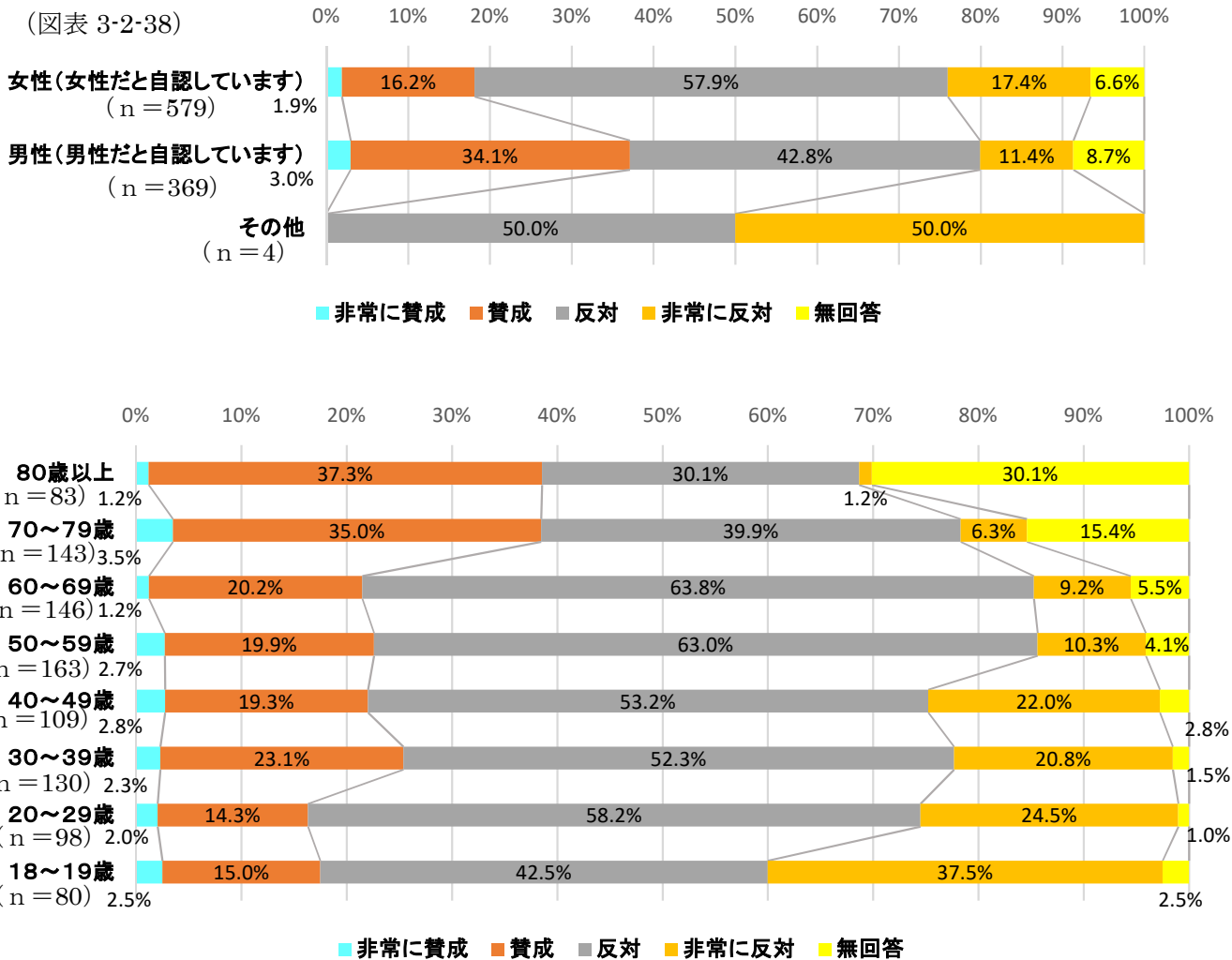


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	43	53.8%	51	52.0%	66	50.8%	60	55.0%	60	41.1%	41	25.2%	24	16.8%	13	15.7%
賛成	34	42.5%	43	43.9%	59	45.4%	46	42.2%	83	56.8%	110	67.5%	96	67.1%	50	60.2%
反対	1	1.3%	3	3.1%	3	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	5	3.5%	0	0.0%
非常に反対	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	2.5%	1	1.0%	2	1.5%	3	2.8%	3	2.1%	8	4.9%	18	12.6%	20	24.1%
合計	80	100.1%	98	100%	130	100%	109	100%	146	100%	163	100.1%	143	100%	83	100%

### C. 本人の意思に関係なく、男性は男らしく、女性は女らしく育てたほうが良い

「非常に賛成」「賛成」と回答した割合が最も高いのは80代以上・70代（38.5%）となっている。「反対」「非常に反対」と回答した割合が最も高いのは20代（82.7%）次いで10代（80.0%）となっている。

(図表 3-2-38)

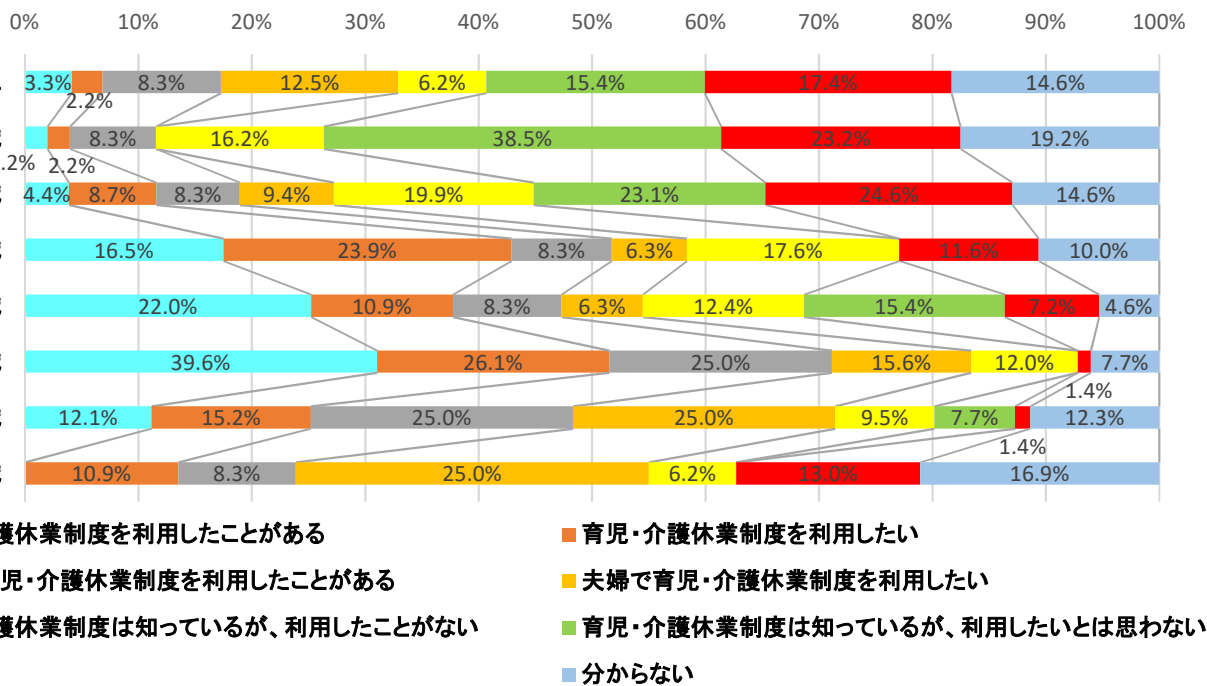
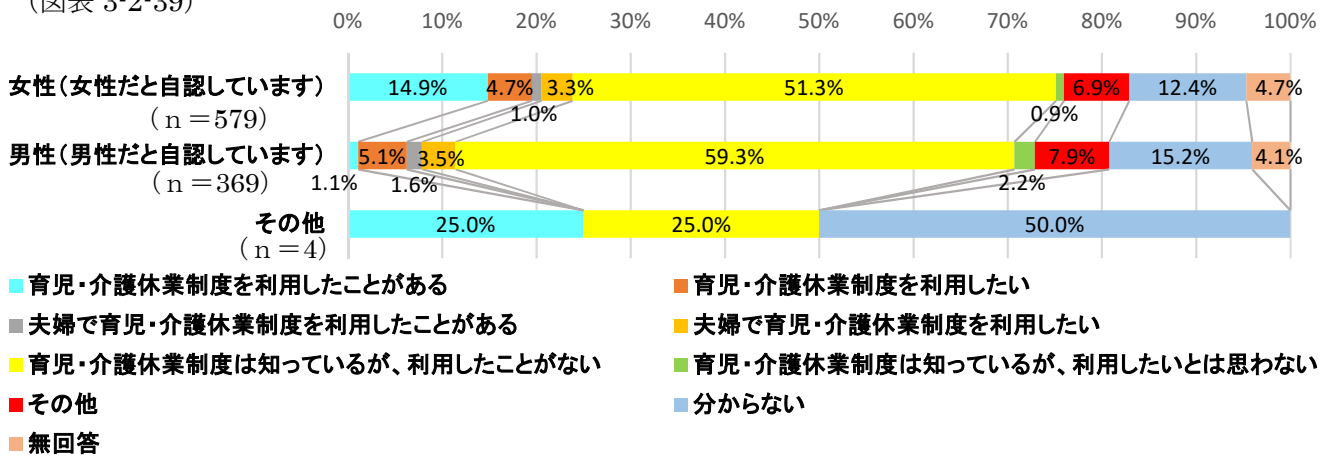


※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
非常に賛成	2	2.5%	2	2.0%	3	2.3%	3	2.8%	4	2.7%	2	1.2%	5	3.5%	1	1.2%
賛成	12	15.0%	14	14.3%	30	23.1%	21	19.3%	29	19.9%	33	20.2%	50	35.0%	31	37.3%
反対	34	42.5%	57	58.2%	68	52.3%	58	53.2%	92	63.0%	104	63.8%	57	39.9%	25	30.1%
非常に反対	30	37.5%	24	24.5%	27	20.8%	24	22.0%	15	10.3%	15	9.2%	9	6.3%	1	1.2%
無回答	2	2.5%	1	1.0%	2	1.5%	3	2.8%	6	4.1%	9	5.5%	22	15.4%	25	30.1%
合計	80	100%	98	100%	130	100%	109	100.1%	146	100%	163	99.9%	143	100.1%	83	99.9%

問 1 6 あなたは育児・介護休業制度を利用したことがありますか。□にレ点を記してください。

全体として「育児・介護休業制度は知っているが、利用したことがない」と回答した割合が最も高く、年代別では「育児・介護休業制度を利用したことがある」「夫婦で育児・介護休業制度を利用したことがある」と回答した割合が最も高いのは30代（64.6%）となっている。

(図表 3-2-39)



その他の意見欄

- ・このような制度が存在していなかった。(70代 男性)
- ・自営業なので育児介護休業制度はない。(40代 女性)
- ・介護の為、退職した。その時点で制度が会社にあったかわからない。(50代 女性)
- ・休業制度の知識がないのでわからない (50代 女性)
- ・学生の為、制度の理解がまだ不十分。利用もない。(10代 女性)
- ・独身で利用する理由が無い (50代 男性)



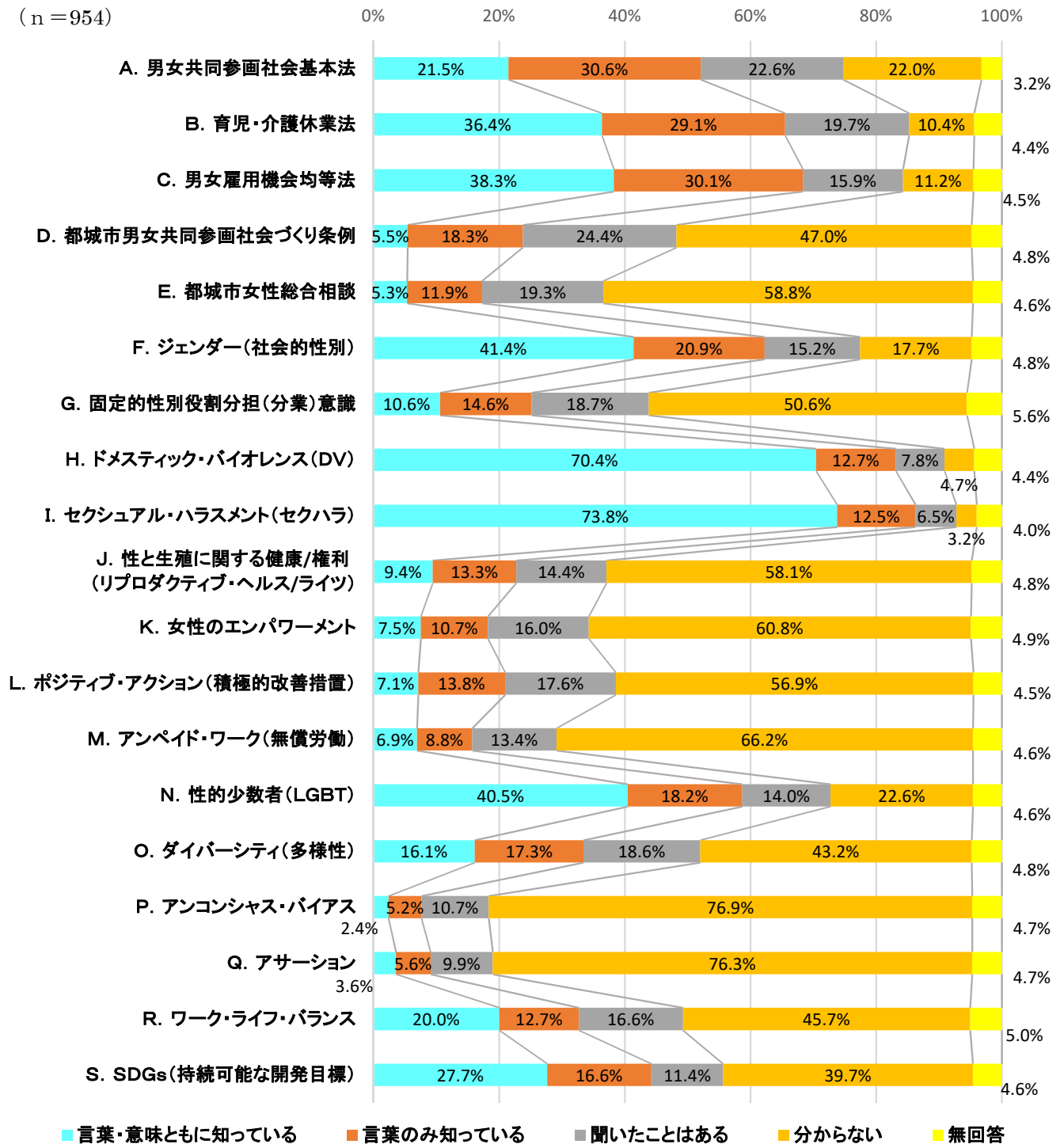
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性（女性だと自認しています）		男性（男性だと自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
育児・介護休業制度を利用したことがある	91	9.5%	86	14.9%	4	1.1%	1	25.0%
育児・介護休業制度を利用したい	46	4.8%	27	4.7%	19	5.1%	0	0.0%
夫婦で育児・介護休業制度を利用したことがある	12	1.3%	6	1.0%	6	1.6%	0	0.0%
夫婦で育児・介護休業制度を利用したい	32	3.4%	19	3.3%	13	3.5%	0	0.0%
育児・介護休業制度は知っているが、利用したことがない	517	54.2%	297	51.3%	219	59.3%	1	25.0%
育児・介護休業制度は知っているが、利用したいとは思わない	13	1.4%	5	0.9%	8	2.2%	0	0.0%
その他	69	7.2%	40	6.9%	29	7.9%	0	0.0%
分からない	130	13.6%	72	12.4%	56	15.2%	2	50.0%
無回答	44	4.6%	27	4.7%	15	4.1%	0	0.0%
合計	954	100%	579	100.1%	369	100%	4	100%

問17 次のA～Nの言葉についてご存知ですか。

男女共同参画についての用語に関しては、全体で「言葉・意味ともに知っている」の回答数が4,240なのに対して「分からない」の回答数は7,367となっている。

(図表 3-2-40)

(n=954)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	言葉・意味とも知っている		言葉のみ知っている		聞いたことはある		分からない		無回答	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
A. 男女共同参画社会基本法	205	21.5%	292	30.6%	216	22.6%	210	22.0%	31	3.2%
B. 育児・介護休業法	347	36.4%	278	29.1%	188	19.7%	99	10.4%	42	4.4%
C. 男女雇用機会均等法	365	38.3%	287	30.1%	152	15.9%	107	11.2%	43	4.5%
D. 都城市男女共同参画社会づくり条例	52	5.5%	175	18.3%	233	24.4%	448	47.0%	46	4.8%
E. 都城市女性総合相談	51	5.3%	114	11.9%	184	19.3%	561	58.8%	44	4.6%
F. ジェンダー(社会的性別)	395	41.4%	199	20.9%	145	15.2%	169	17.7%	46	4.8%
G. 固定的性別役割分担(分業)意識	101	10.6%	139	14.6%	178	18.7%	483	50.6%	53	5.6%
H. ドメスティック・バイオレンス(DV)	672	70.4%	121	12.7%	74	7.8%	45	4.7%	42	4.4%
I. セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	704	73.8%	119	12.5%	62	6.5%	31	3.2%	38	4.0%
J. 性と生殖に関する健康/権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)	90	9.4%	127	13.3%	137	14.4%	554	58.1%	46	4.8%
K. 女性のエンパワーメント	72	7.5%	102	10.7%	153	16.0%	580	60.8%	47	4.9%
L. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	68	7.1%	132	13.8%	168	17.6%	543	56.9%	43	4.5%
M. アンペイド・ワーク(無償労働)	66	6.9%	84	8.8%	128	13.4%	632	66.2%	44	4.6%
N. 性的少数者(LGBT)	386	40.5%	174	18.2%	134	14.0%	216	22.6%	44	4.6%
O. ダイバーシティ(多様性)	154	16.1%	165	17.3%	177	18.6%	412	43.2%	46	4.8%
P. アンコンシャス・バイアス	23	2.4%	50	5.2%	102	10.7%	734	76.9%	45	4.7%
Q. アサーション	34	3.6%	53	5.6%	94	9.9%	728	76.3%	45	4.7%
R. ワーク・ライフ・バランス	191	20.0%	121	12.7%	158	16.6%	436	45.7%	48	5.0%
S. SDGs(持続可能な開発目標)	264	27.7%	158	16.6%	109	11.4%	379	39.7%	44	4.6%

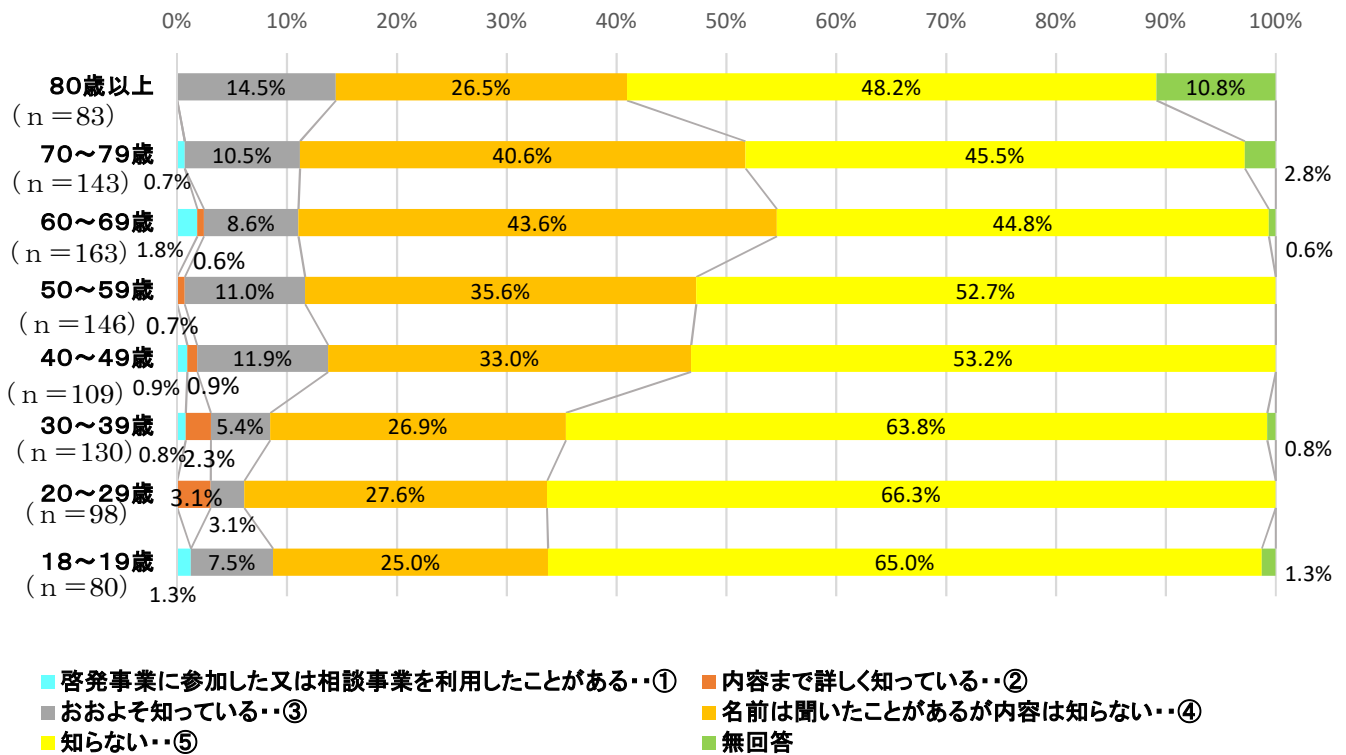
問18 都城市では、男女共同参画社会づくりの拠点として「都城市男女共同参画センター」を都城市役所内に設置し、次のような事業を行っています。

- ①啓発事業～男女共同参画の視点に立った講演会、講座の開催
- ②相談事業～相談員による電話相談・面接相談、みやざき若者サポートステーションとの連携による就労相談、臨床心理士による面談、弁護士による法律相談

上記の事業について、どの程度ご存知ですか。□にレ点を記してください。

すべての年代で「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」「知らない」と回答した割合が高く、「啓発事業に参加した又は相談事業を利用したことのある」「内容まで詳しく知っている」と回答した割合は1割にも満たない。

(図表 3-2-41)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
①	7	0.7%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.9%	0	0.0%	3	1.8%	1	0.7%	0	0.0%
②	9	0.9%	0	0.0%	3	3.1%	3	2.3%	1	0.9%	1	0.7%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
③	86	9.0%	6	7.5%	3	3.1%	7	5.4%	13	11.9%	16	11.0%	14	8.6%	15	10.5%	12	14.5%
④	321	33.6%	20	25.0%	27	27.6%	35	26.9%	36	33.0%	52	35.6%	71	43.6%	58	40.6%	22	26.5%
⑤	513	53.8%	52	65.0%	65	66.3%	83	63.8%	58	53.2%	77	52.7%	73	44.8%	65	45.5%	40	48.2%
無回答	18	1.9%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	4	2.8%	9	10.8%
合計	954	99.9%	80	100.1%	98	100.1%	130	100%	109	99.9%	146	100%	163	100%	143	100.1%	83	100%

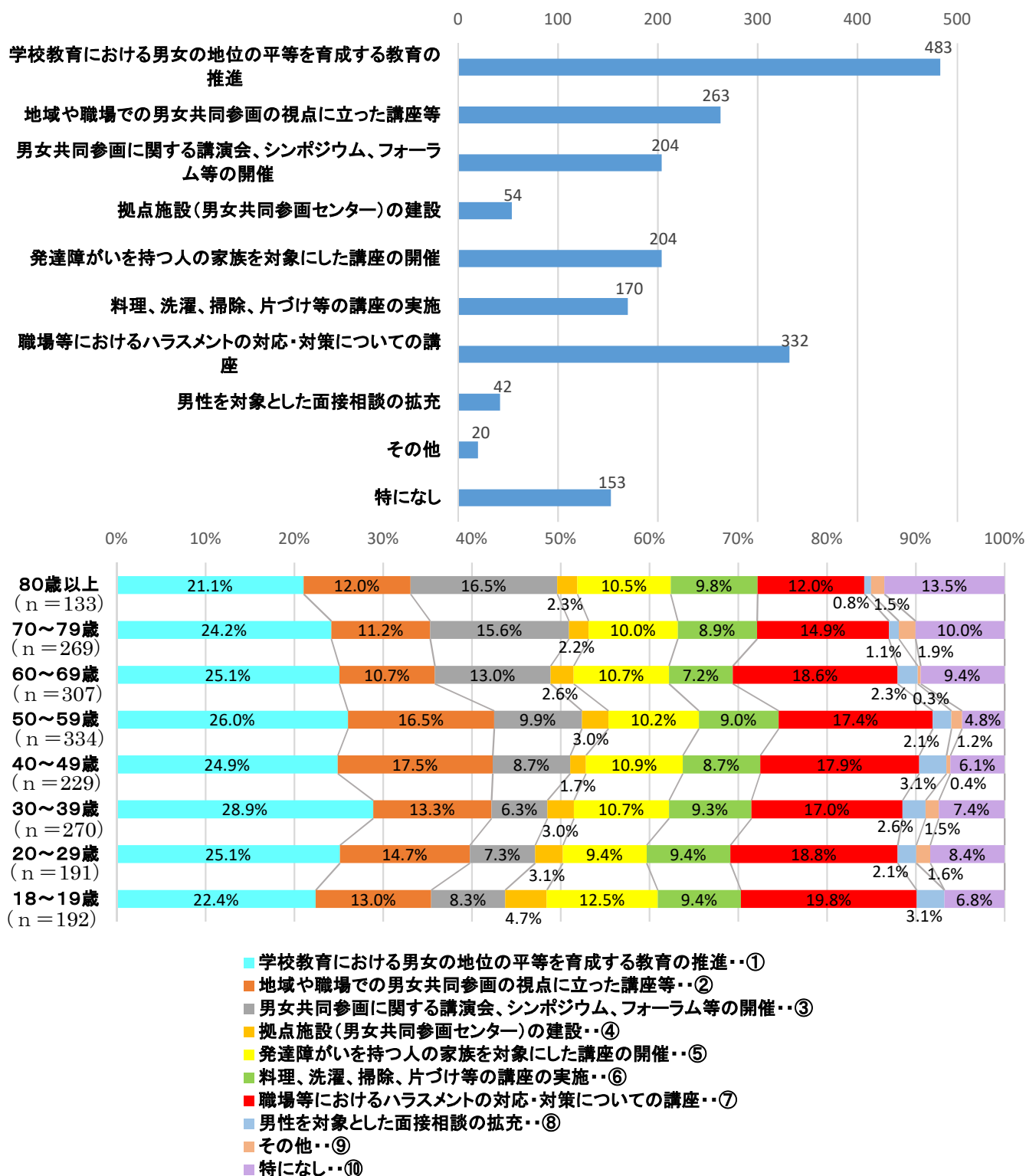
問19 一人ひとりの個性が活かせる社会づくりを推進するために、男女共同参画センターで取り組む必要があるのはどのようなことだと思いますか。□にレ点を記してください。

(レ点はいくつでも)

最も回答が多いのは「学校教育における男女の地位の平等を育成する教育の推進」(483)次いで「職場等におけるハラスメントの対応・対策についての講座」(332)となっている。

(図表 3-2-42)

(n = 1,925)



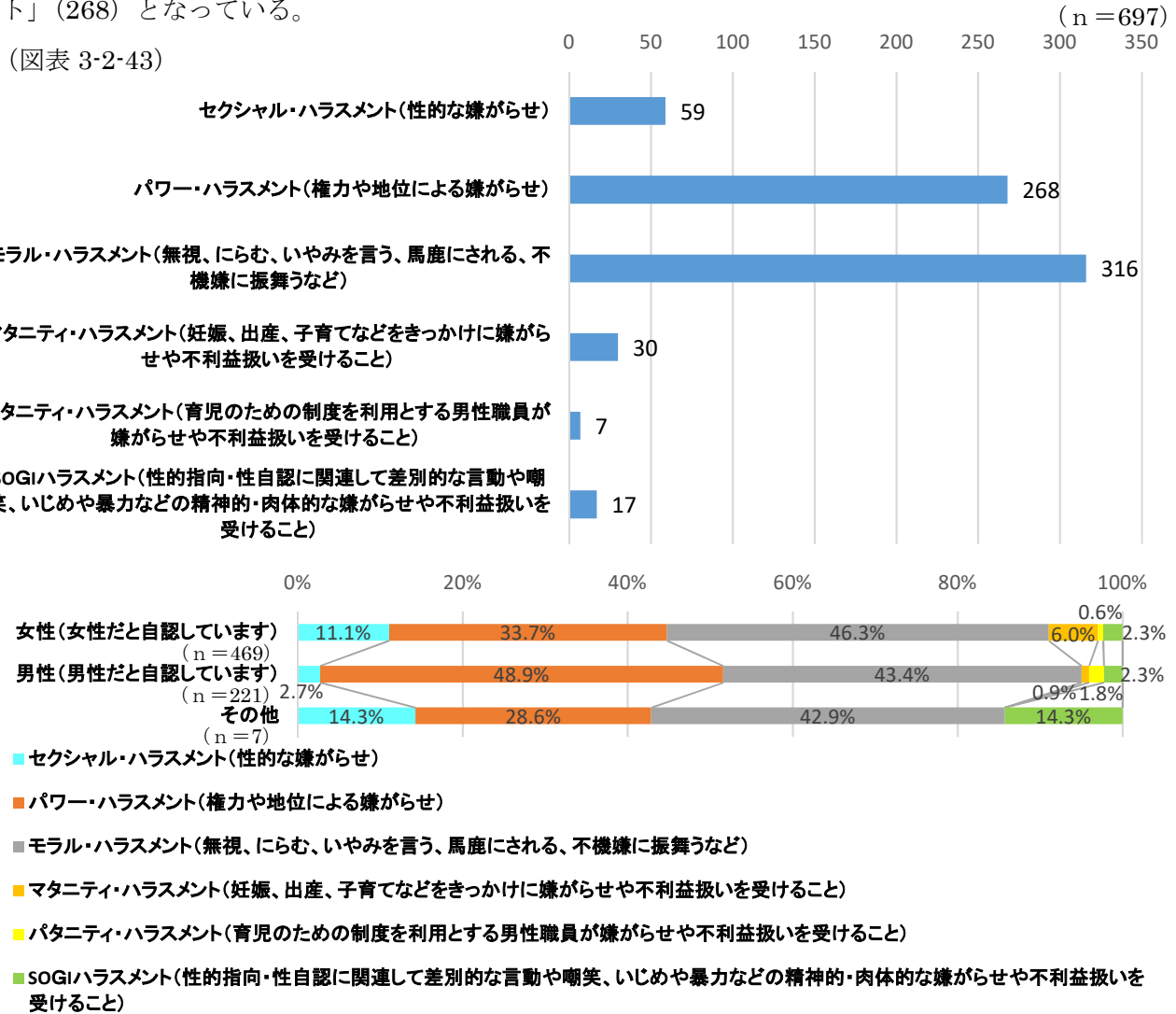
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
①	483	25.1%	43	22.4%	48	25.1%	78	28.9%	57	24.9%	87	26.0%	77	25.1%	65	24.2%	28	21.1%
②	263	13.7%	25	13.0%	28	14.7%	36	13.3%	40	17.5%	55	16.5%	33	10.7%	30	11.2%	16	12.0%
③	204	10.6%	16	8.3%	14	7.3%	17	6.3%	20	8.7%	33	9.9%	40	13.0%	42	15.6%	22	16.5%
④	54	2.8%	9	4.7%	6	3.1%	8	3.0%	4	1.7%	10	3.0%	8	2.6%	6	2.2%	3	2.3%
⑤	204	10.6%	24	12.5%	18	9.4%	29	10.7%	25	10.9%	34	10.2%	33	10.7%	27	10.0%	14	10.5%
⑥	170	8.8%	18	9.4%	18	9.4%	25	9.3%	20	8.7%	30	9.0%	22	7.2%	24	8.9%	13	9.8%
⑦	332	17.2%	38	19.8%	36	18.8%	46	17.0%	41	17.9%	58	17.4%	57	18.6%	40	14.9%	16	12.0%
⑧	42	2.2%	6	3.1%	4	2.1%	7	2.6%	7	3.1%	7	2.1%	7	2.3%	3	1.1%	1	0.8%
⑨	20	1.0%	0	0.0%	3	1.6%	4	1.5%	1	0.4%	4	1.2%	1	0.3%	5	1.9%	2	1.5%
⑩	153	7.9%	13	6.8%	16	8.4%	20	7.4%	14	6.1%	16	4.8%	29	9.4%	27	10.0%	18	13.5%
合計	1925	99.9%	192	100%	191	99.9%	270	100%	229	99.9%	334	100.1%	307	99.9%	269	100%	133	100%

### その他の意見欄

- ・発達障がいを持つ人の家族を対象にした講座の開催で、職場・学校への啓発（30代 女性）
- ・大規模教育のためのしくみ作り。年間100人（1000人）の市民に教育をしたとしても市民（16万5千人）全員に教育が行き届く年数は1650年（165年）かかる。このことから、年間5万人位の市民に対しての大規模教育のためのしくみ作りが必要である。（60代 男性）
- ・講座や講演会などは、関心興味をもっている人は参加する気持ちはあると思うが、関心のない人が興味をもてるような企画はないのでしょうか。（70代 女性）
- ・現状でも十分と思う（50代 男性）
- ・講習・講座などしたところで若い子は参加しない。知らない。眠くなる。参加したくなるようなパンフレット、声かけ、ネットでリモートで楽しく学べるなどの今の時代にあった工夫が必要だと思う。（40代 女性）
- ・職場での労働組合設立支援（30代 女性）
- ・企画されたものに参加できる権利機会 情報発信すべての人が情報を得る機会 小学生から参加できる機会、事業の説明でなく具体的な講座の受講例えば、料理洗濯掃除片付けを1日を通して学びこれは男女共同参画ですよと逆にする（50代 男性）
- ・男女共同参画を目的とした女性総合相談など、女性に特化した取り組みをなくす事。（30代 男性）

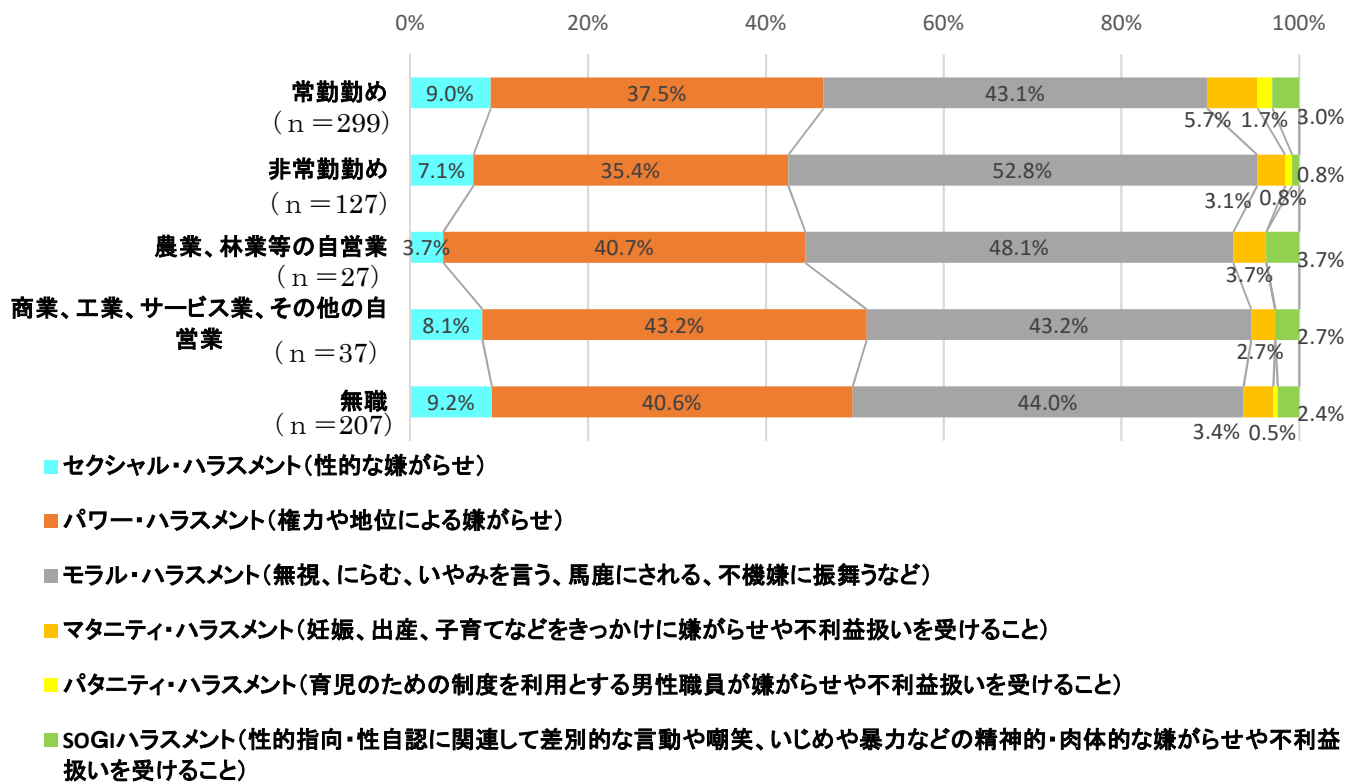
問20 あなたは職場や学校、地域等で、ハラスメント（嫌がらせ、いじめ）を経験したことがありますか。□にレ点を記してください。（レ点はいくつでも）

最も回答数が多いのは「モラル・ハラスメント」(316) となっている。次いで「パワー・ハラスメント」(268) となっている。



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある

	総計		女性 (女性だと自認しています)		男性 (男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
セクシャル・ハラスメント	59	8.5%	52	11.1%	6	2.7%	1	14.3%
パワー・ハラスメント	268	38.5%	158	33.7%	108	48.9%	2	28.6%
モラル・ハラスメント	316	45.3%	217	46.3%	96	43.4%	3	42.9%
マタニティ・ハラスメント	30	4.3%	28	6.0%	2	0.9%	0	0.0%
パタニティ・ハラスメント	7	1.0%	3	0.6%	4	1.8%	0	0.0%
SOGI(ソジ)ハラスメント	17	2.4%	11	2.3%	5	2.3%	1	14.3%
合計	697	100%	469	100%	221	100%	7	100.1%



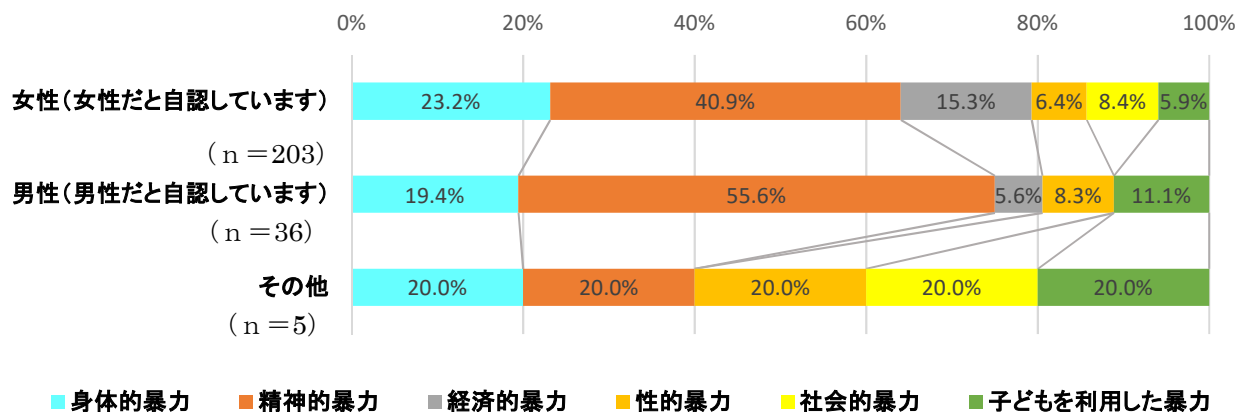
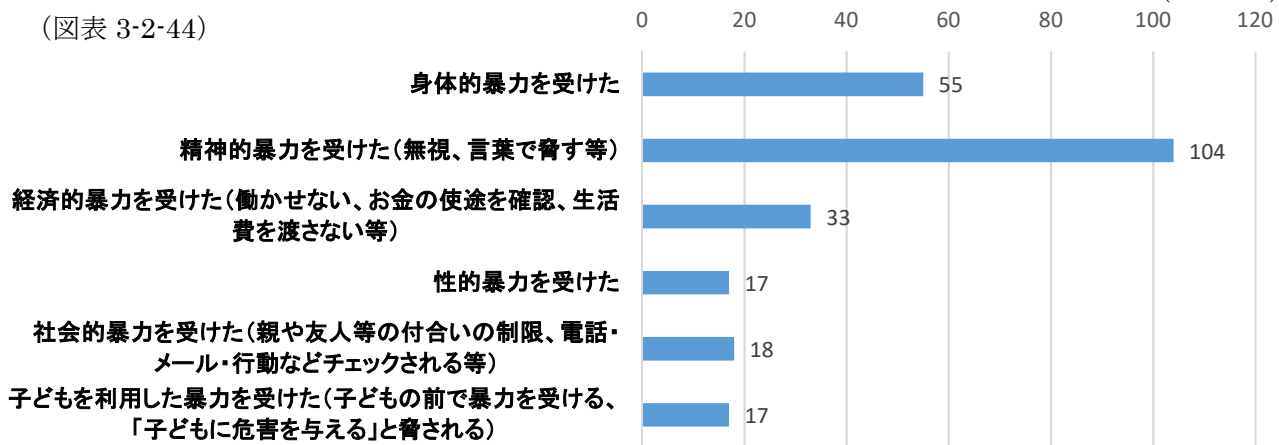
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		常勤勤め		非常勤勤め		農業、林業等の自営業		商業、工業、サービス業、その他の自営業		無職	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
セクシャル・ハラスメント	59	8.5%	27	9.0%	9	7.1%	1	3.7%	3	8.1%	19	9.2%
パワー・ハラスメント	268	38.5%	112	37.5%	45	35.4%	11	40.7%	16	43.2%	84	40.6%
モラル・ハラスメント	316	45.3%	129	43.1%	67	52.8%	13	48.1%	16	43.2%	91	44.0%
マタニティ・ハラスメント	30	4.3%	17	5.7%	4	3.1%	1	3.7%	1	2.7%	7	3.4%
パタニティ・ハラスメント	7	1.0%	5	1.7%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
SOGI(ソジ)ハラスメント	17	2.4%	9	3.0%	1	0.8%	1	3.7%	1	2.7%	5	2.4%
合計	697	100%	299	100%	127	100%	27	99.9%	37	99.9%	207	100.1%



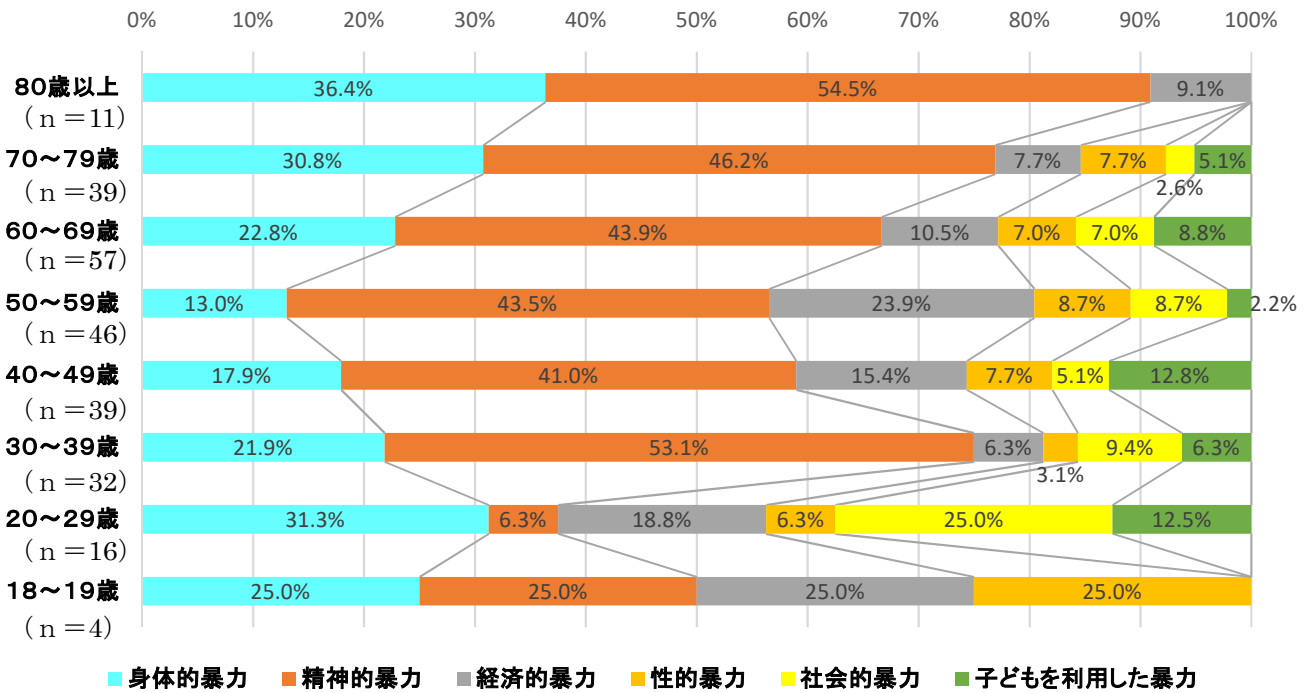
問 2 1 あなたがこれまでに、配偶者（事実婚や別居中、離別、死別含む）、恋人などから暴力を受けたことはありますか。□にレ点を記してください。（レ点はいくつでも）

暴力について、最も回答数が多いのは「精神的暴力を受けた」となっています。暴力を受けたことがあるという回答の男女比だと「女性（女性だと自認しています）」（203）、「男性（男性だと自認しています）」（36）、「その他」（5）となっている。

(図表 3-2-44) (n=244)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性 (女性だと自認しています)		男性 (男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
身体的暴力	55	22.5%	47	23.2%	7	19.4%	1	20.0%
精神的暴力	104	42.6%	83	40.9%	20	55.6%	1	20.0%
経済的暴力	33	13.5%	31	15.3%	2	5.6%	0	0.0%
性的暴力	17	7.0%	13	6.4%	3	8.3%	1	20.0%
社会的暴力	18	7.4%	17	8.4%	0	0.0%	1	20.0%
子どもを利用した暴力	17	7.0%	12	5.9%	4	11.1%	1	20.0%
合計	244	100%	203	100.1%	36	100%	5	100%



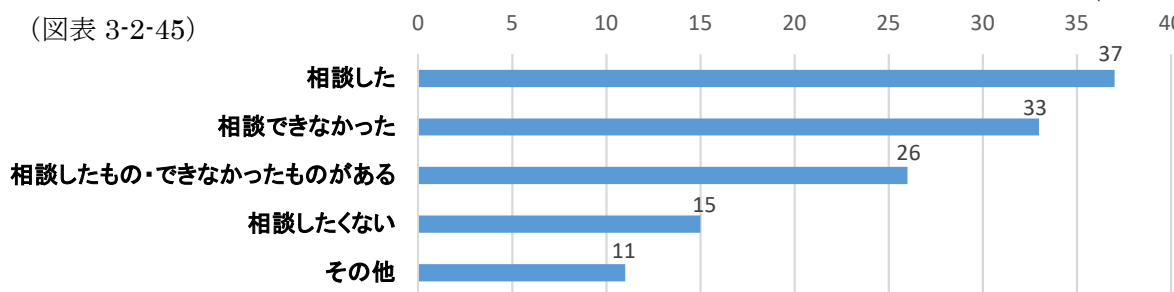
※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	18~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
身体的暴力	1	25.0%	5	31.3%	7	21.9%	7	17.9%	6	13.0%	13	22.8%	12	30.8%	4	36.4%
精神的暴力	1	25.0%	1	6.3%	17	53.1%	16	41.0%	20	43.5%	25	43.9%	18	46.2%	6	54.5%
経済的暴力	1	25.0%	3	18.8%	2	6.3%	6	15.4%	11	23.9%	6	10.5%	3	7.7%	1	9.1%
性的暴力	1	25.0%	1	6.3%	1	3.1%	3	7.7%	4	8.7%	4	7.0%	3	7.7%	0	0.0%
社会的暴力	0	0.0%	4	25.0%	3	9.4%	2	5.1%	4	8.7%	4	7.0%	1	2.6%	0	0.0%
子どもを利用した暴力	0	0.0%	2	12.5%	2	6.3%	5	12.8%	1	2.2%	5	8.8%	2	5.1%	0	0.0%
合計	4	100%	16	100.2%	32	100.1%	39	99.9%	46	100%	57	100%	39	100.1%	11	100%

問 2 2 あなたはこれまで、問 2 1 であげたような行為について、誰かに相談したりしましたか。  
□にレ点を記してください。

「相談した」の回答数が 37 に対し、「相談できなかった」「相談したもの・できなかったものがある」「相談したくない」の回答数は 74 となっている。

(n = 122)

(図表 3-2-45)



※小数点第 2 位を四捨五入しているため合計が 100%にならない場合がある	総計		女性 (女性だと自認しています)		男性 (男性だと自認しています)		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
相談した	37	30.3%	36	36%	1	4.8%	0	0%
相談できなかった	33	27.0%	26	26%	7	33.3%	0	0%
相談したもの・できなかったものがある	26	21.3%	19	19%	6	28.6%	1	100%
相談したくない	15	12.3%	11	11%	4	19.0%	0	0%
その他	11	9.0%	8	8%	3	14.3%	0	0%
合計	122	99.9%	100	100%	21	100%	1	100%

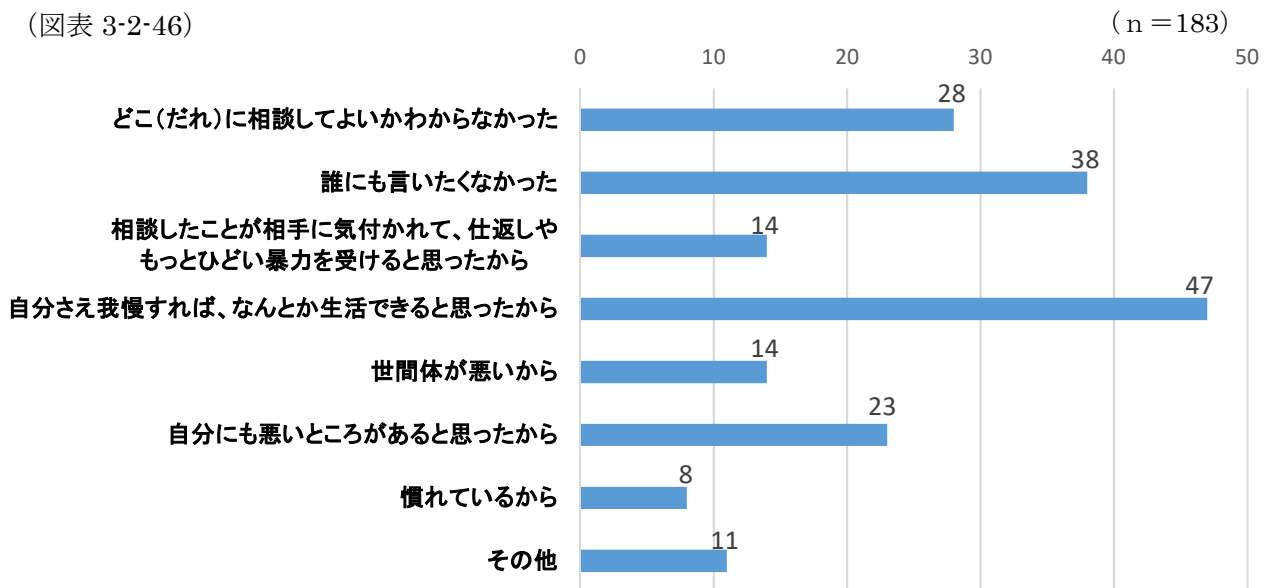
その他の意見欄

- ・配偶者からではないが、夫の家族から経済的暴力があった。(30代 女性)
- ・こんなことがあったと友人、子供にぐちる。(50代 女性)

問 2 3 「相談できなかった・相談したくない等」の理由にあてはまる口にレ点を記してください  
(レ点はいくつでも)

「相談できなかった・相談したくない等」と理由として回答数が多いのは「自分さえ我慢すれば、なんとか生活できると思ったから」(47)、次いで「誰にも言いたくなかった」(38)、「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった」(28)となっている。

(図表 3-2-46)



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	回答	割合
どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった	28	15.3%
誰にも言いたくなかった	38	20.8%
相談したことが相手に気付かれてもっとひどい暴力を受けると思ったから	14	7.6%
自分さえ我慢すれば、なんとか生活できると思ったから	47	25.7%
世間体が悪いから	14	7.6%
自分にも悪いところがあると思ったから	23	12.6%
慣れているから	8	4.4%
その他	11	6.0%
合計	183	100%

その他の意見欄

- ・ どうにもならないと思ったから (30代 女性)
- ・ 子どもが心配だったから (50代 女性)
- ・ 相談して周りに心配などかけるくらいなら自分が限界まで我慢すればいいと思った (20代 女性)
- ・ 気にしない! 気にしないですませる。 (70代 女性)
- ・ 離婚を決意したから (70代 女性)
- ・ 親に心配かけたくないため (70代 女性)
- ・ 病気になった。相談できる気力さえなかった。 (50代 女性)
- ・ 相談する人がいなかった。主人の身内には悪口になるので言えない。相談できなかった (60代 女性)
- ・ 周りの大切な人に迷惑をかけたくなかった為 (40代 女性)

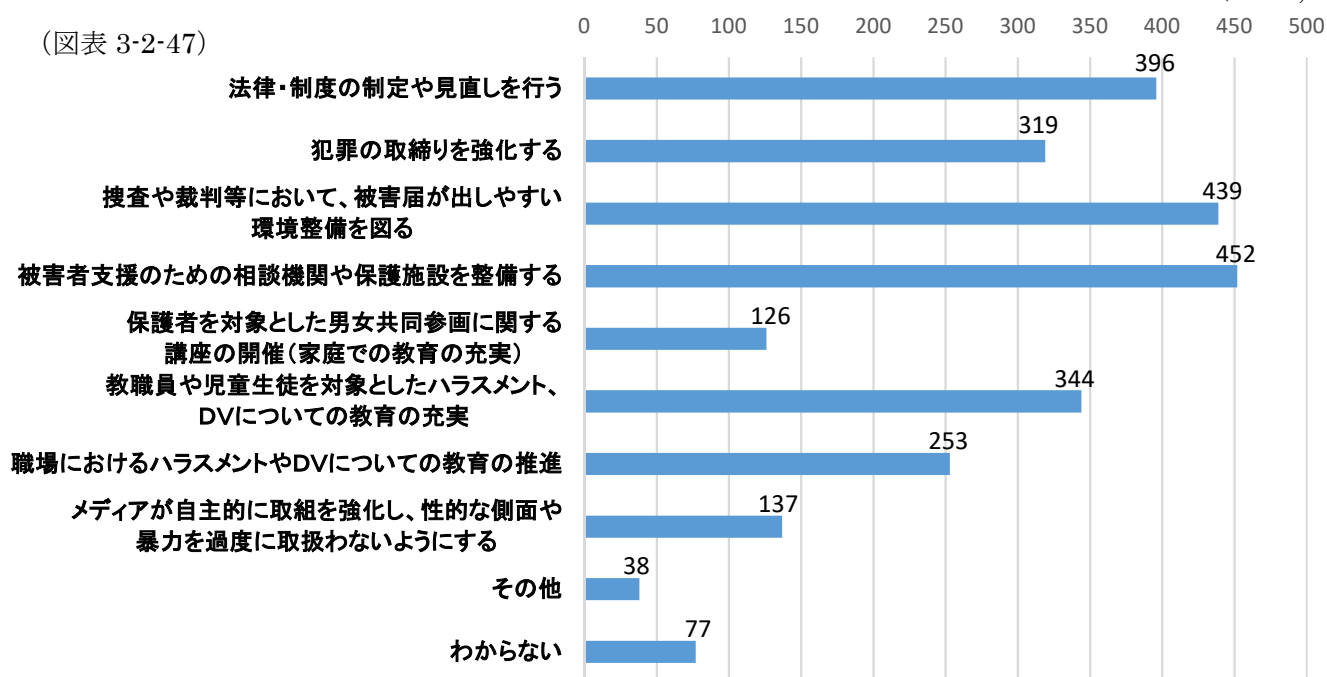
問24 あなたは、ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）等を防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる口にレ点を記してください。

（レ点はいくつでも）

最も回答数が多いのは「被害者支援のための相談機関や保護施設を整備する」（452）、次いで「捜査や裁判所において、被害届が出しやすい環境整備を図る」（439）、「法律・制度の制定や見直しを行う」（396）となっている。

（n=2,581）

（図表 3-2-47）



※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性（女性だと自認しています）		男性（男性だと自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
法律・制度の制定や見直しを行う	396	15.3%	226	14.6%	167	16.6%	3	13.0%
犯罪の取締りを強化する	319	12.4%	178	11.5%	138	13.7%	3	13.0%
捜査や裁判等において、被害届が出しやすい環境を図る	439	17.0%	269	17.3%	166	16.5%	4	17.4%
被害者支援のための相談機関や保護施設を整備する	452	17.5%	294	18.9%	154	15.3%	4	17.4%
保護者を対象とした男女共同参画に関する講座の開催	126	4.9%	75	4.8%	48	4.8%	3	13.0%
教職員や児童・生徒を対象としたハラスメント、DVについての教育	344	13.3%	215	13.8%	127	12.6%	2	8.7%
職場におけるハラスメントやDVについての教育の推進	253	9.8%	153	9.9%	99	9.9%	1	4.3%
メディアが自主的に取組を強化し、性的な側面や暴力を過度に取扱わないようにする	137	5.3%	74	4.8%	61	6.0%	2	8.7%
その他	38	1.5%	23	1.5%	14	1.4%	1	4.3%
わからない	77	3.0%	46	3.0%	31	3.1%	0	0.0%
合計	2581	100%	1553	100.1%	1005	99.9%	23	99.8%

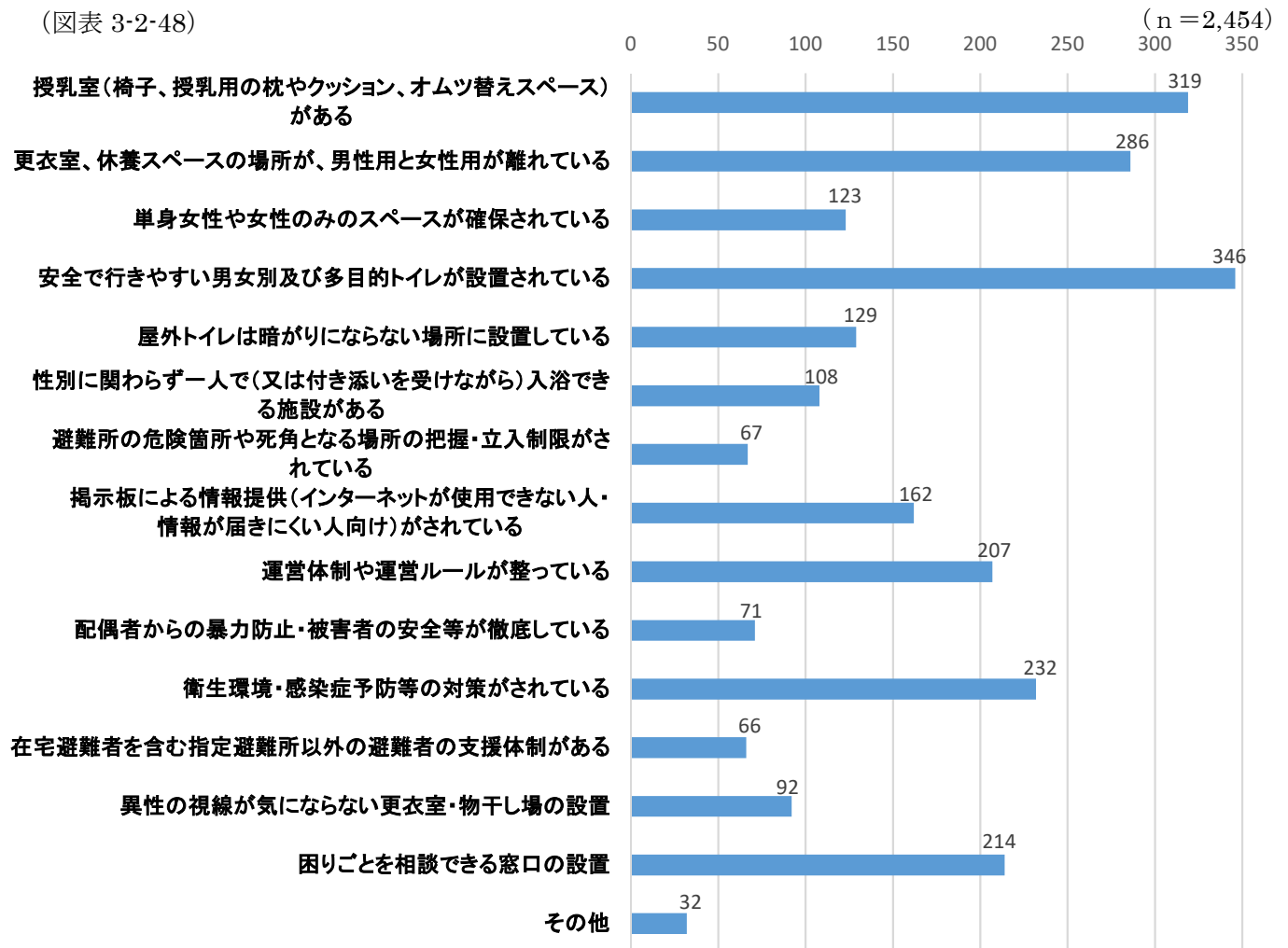
## その他の意見欄

- ・子供に対しての性教育、ハラスメントや DV の教育をもっともっと幼い段階から充実させて欲しい、恥ずかしがったり隠したりするものではない、コンビニなどの雑誌コーナー内のアダルトコーナー、テレビのドラマ内で性的な場面や暴力的な場面のあるものは深夜に放送して欲しい。(40代 女性)
- ・近隣の方からの相談所もつくり、保護できる形を作る。(10代 女性)
- ・夫婦が(育児、今後について)もっと対話すべき時間があると良いです。(40代 女性)
- ・アンガーマネジメントの認知と普及。(30代 男性)
- ・すべての市民への教育の拡充。男女それぞれに対する固定観念意識の変容の促進。(40代 女性)
- ・出来るだけ早めに 1. 2. 3. は進めてほしい。(60代 女性)
- ・ハラスメントをする人は自覚がないことが多い。職場で教育機会が定期的にあっても定期的に、具体的な内容でチェックさせ、まずは気づかせることが必要。また、気づいた上司が行動してくれる勇気…この教育と啓発。(30代 女性)
- ・加害者の更正プログラム再犯防止。(50代 女性)
- ・ハラスメント関係については、ストレスが引き金になるものが多いと思う。また、メディア等で取り上げられた内容で余計な知識を身に付けた者がおもしろがってというのが大半だと思う。(20代 男性)
- ・DV かどうなのかを判断できる、的確に対応できる専門家の教育。(50代 女性)
- ・私の場合、パワーハラで4年～5年受けました。部落の催し物のときだけですが、最終的に警察に訴えると本人に告げたところ謝りましたが、本当に悪かったという意識は感じられなかった。プライドの高い人は、知らず知らずのうちにパワーハラに行くと思う。もう一つはねたみからパワーハラになることも考えてます。(70代 男性)
- ・被害者が保護された場合や、住所移転した際に、被害者の情報が加害者に伝わらないようにするのが大事。(20代 男性)
- ・そもそも子育ての時が大事なのではないかと。感情をコントロールできる人間づくりを考えてもらえれば。(50代 女性)
- ・パワーハラスメント、モラルハラスメントされているときの対処法を伝える録音機や小型カメラの貸し出し。(40代 女性)
- ・未成年法の見直し責任能力の有無、被害者が不利になっているなど。(60代 男性)
- ・男女平等にならない限り防止はできない。下に見られている結果だから。(30代 女性)
- ・子供に対しての性教育、ハラスメントや DV の教育をもっともっと幼い段階から充実させて欲しい(40代 女性)
- ・近隣の方からの相談所もつくり、保護できる形を作る。(10代 女性)
- ・アンガーマネジメントの認知と普及。(30代 女性)

問 2 5 避難所の運営には、男女共同参画の視点に立った環境整備を行うことが重要であるといわれています。必要だと思われる取組みの□にレ点を記してください。(3つまで)

最も回答数が多いのは「安全で行きやすい男女別及び多目的トイレが設置されている」(346)、次いで「授乳室(椅子、授乳用の枕やクッション、オムツ替えスペース)がある」(319)、「更衣室、休養スペースの場所が、男性用と女性用が離れている」(286)となっている。

(図表 3-2-48)



その他の意見欄

- ・行ったことが無いので分からない。(60代 女性)
- ・障がい者用のスペース(40代 女性)
- ・今現在どのような避難場所が設置されているのか分からないのでどのような問題点があるのか分からない。(60代 女性)
- ・地域コミュニティの連携強化(50代 女性)
- ・1~14すべて(50代 女性)
- ・昭和の人間の目からすると今の若い人達めぐまれている(70代 女性)
- ・作ったとしていく人がどれだけいるのだろう(30代 男性)
- ・行政職員の明確な存在アピール(ベストを着るなど)(40代 女性)
- ・スフィア基準に準拠した避難所整備(40代 その他)

※小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合がある	総計		女性（女性だと自認しています）		男性（男性だと自認しています）		その他	
	回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
授乳室（椅子、授乳用の枕やクッション、オムツ替えスペース）がある	319	13.0%	200	13.2%	116	12.5%	3	25.0%
更衣室、休養スペースの場所が男性用と女性用が離れている	286	11.7%	174	11.5%	111	12.0%	1	8.3%
単身女性や女性のためのスペースが確保されている	123	5.0%	81	5.3%	42	4.5%	0	0.0%
安全で行きやすい男女別及び多目的トイレが設置されている	346	14.1%	210	13.9%	135	14.6%	1	8.3%
屋外トイレは暗がりにならない場所に設置されている	129	5.3%	95	6.3%	33	3.6%	1	8.3%
性別に関わらず一人で（又は付き添いを受けながら）入浴できる施設がある	108	4.4%	59	3.9%	47	5.1%	2	16.7%
避難場所の危険箇所や死角となる場所の把握・立入制限がされている	67	2.7%	41	2.7%	26	2.8%	0	0.0%
掲示板による情報提供（インターネットが使用できない人・情報が届きにくい人向け）がされている	162	6.6%	105	6.9%	57	6.2%	0	0.0%
運営体制や運営ルールが整っている	207	8.4%	122	8.0%	85	9.2%	0	0.0%
配偶者からの暴力防止・被害者の安全等が徹底している	71	2.9%	39	2.6%	32	3.5%	0	0.0%
衛生環境・感染症予防等の対策がされている	232	9.5%	136	9.0%	94	10.2%	2	16.7%
在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者の支援体制がある	66	2.7%	45	3.0%	21	2.3%	0	0.0%
異性の視線が気にならない更衣室・物干し場の設置	92	3.7%	58	3.8%	34	3.7%	0	0.0%
困りごとを相談できる窓口の設置	214	8.7%	133	8.8%	80	8.6%	1	8.3%
その他	32	1.3%	18	1.2%	13	1.4%	1	8.3%
合計	2454	100%	1516	100%	926	100%	12	100%



男女共同参画社会づくりに関する取組についてのご意見等をお聞かせください。

	意見欄	年代	性別
1	一番効果が出にくいかもしれないけれど、生きていくうえで一番大切なことかもしれないと思います。頑張ってください。	30代	女性
2	一人一人の能力を認める（出来る 出来ない）お互いやれることをやれば良い。	60代	女性
3	問17の言葉表を小さく作って皆さんの家に届けてほしい。分からないところがあるので表があると嬉しいですね。	60代	女性
4	自分が知らないことが多かったです。なかなか伝えることが無いので、この場を借りて…。今は年5日有給を取るのが義務化だと？この会社は有給日数管理されません（男女）。子どもの用事で休むこともないのに、たまに平日休み取りたい時、取りにくいのが不満です。なんで私ばかり…と思ったり。すみません。	40代	女性
5	今は何よりも先にコロナに対することを一番に対応してほしい。	30代	女性
6	男女共同参画社会はとても良いことだと思います。男性らしさとか、女性らしさとかも必要な時もありますが、自分らしく周囲の人達と（共存）毎日楽しく生きていければと思っています。	40代	女性
7	男女共同参画はいいことではあるが、主張する女性が多くなって男性が弱々しくなってきたように思うのは私だけでしょうか…。子どもの時から男尊女卑の中で育ってきたからそう思うのかもしれませんが。それでも家事をしながら定年まで働き、今でもボランティア活動を生きがいとしています。	70代	女性
8	ネットの社会 コロナ禍において他人との関わり方が難しい時代となっています。そんな中でどうやって生きていくのか答えが見つけれられるような社会になってほしいものです。すみません、伝えたいことがうまく表現できませんでした。	60代	女性
9	都城市に男女参画社会づくりで活動されていることの認識がありませんでした。啓発事業への参加方法もわかりません。多くの人に知ってもらうためにはもう少し身近なところでの広告があれば良いのかな、と考えました。今回のアンケートで知ることができたので、私も少し男女共同参画社会について考えてみようと思います。ありがとうございました。	30代	女性
10	男女平等といわれている社会ですが、男・女共に不利な部分はたくさんあると思う。少しずつ「男だから、女だから」という考えをする傾向がなくなっているが、生活しにくい世の中だと思うことがたくさんあります。	20代	女性

11	今年、相談員による電話相談・面接相談を利用しました。相談して気持ちが楽になりました。知識を得て決断することが出来ました（離婚）。今後も苦しんでいる女性のために頑張ってください。親切に対応していただきありがとうございました。	60代	女性
12	一般的には男性は女性よりも体力や力の強さがありますが職場学校等でお互いを思いやる気持ちを持って接するとそれぞれの得意とすることを、尊重し合い、精神的に安定した中で過ごせる。そしたら、伸び伸びと活躍しやすくなると思います。その為に、メディア、教育の場で小さいときから社会はあらゆる分野の人の支えによって成り立ってそれを、当たり前じゃない感じや気持ちを忘れずにと、繰り返し教えてもらったなら、思いやる気持ちがわいてきてそれぞれの人が活躍できるようになるのかもしれない。	10代	男性
13	格差はなくならないと思いますが、教育によって他人のいたわりは学習できると思います。長い期間かかりますが、こつこつと長くしていくことが一番の近道だと思います。	50代	女性
14	逆手をとるサギ師まがいのことをする人間の道具にならないように法整備する際には、しんちょうにするべき	50代	男性
15	年代だと思います。私達60代は家事は女性がする人が多いと思いますが今の若い人達はダンナも協力して家事も分担してやっている人が多いと思います。ナイス！	60代	女性
16	自分の意見が反映される事が貴重だと思いました。これからも頑張ってください。都城は住みやすい街です。ありがとう！	20代	女性
17	言葉は聞いたり見たりするも意味が良く分からない。	60代	女性
18	私達高齢者には必要ない気がします。若人たち向けの内容だと思います。(多数が…)	80代	女性
19	難しい問題だと思います。どちらが良いのではなく、平等に幸せに過ごせる世の中になって欲しいです。	20代	女性
20	男性だからとか女性だからといった概念をなくし、もっと女性も、選挙等、出場すべきだと思う。	50代	男性
21	小学校や中学校などの教育の場で、男女で比べたり、分けたりすることを少しずつでもなくしていき、幼い頃から男女平等な社会を目指している意味や大切さを伝えていく。これから育っていく子どもたちがこの大切さを知ることで社会進出の希望が持て、性別差別をされることなく自由に生きていける期待が高まる未来になるのではないかと考える。	10代	女性

22	モラハラに関する知識が無い人が多い。パワハラ、モラハラ、DV、家族だからとゆるされることではない事、子、配偶者は所有物ではない事を広く認識できる様になってもらえたらいい。シングルが恋愛をして、幸せになりやすい様に、社会を変えてほしい。お金、にげられるシェルターが無く、モラハラにたえるしかなかった…。	30代	女性
23	色々な取組みをされている事は、ある程度知っています。これから高齢化が増々進展していく中で、高齢者がどう社会と関わっていくのか、又、活用していくのか大切だと思います。その為の施策を進めて下さい。	70代	男性
24	男女共にお互いをリスペクトし「ありがとう」と言える社会になって欲しい～。	70代	男性
25	男性・女性の性別に関係なく、個々の能力・長所・得意分野・資格などが生かせる社会環境になってほしい。	40代	男性
26	コミュニティ文化課の皆さんは大変でしょうが都城市民が今後少々でも良くなる為の事ですから宜しくお願いします。	70代	男性
27	今はまだ難しいと思うが、男女という枠組みを越えて全ての人が公正平等に支え合うことができる社会を目指してほしい。それがいつか家庭環境や教育、職場等において精神面のみならず制度や数字に表れればと思う。	20代	男性
28	考え方は人それぞれ違う。自分が一番生きやすい、生活しやすいスタイルで だれにも比べる事のない自由な思いで暮らすのが良い。	60代	女性
29	避難所に敷物と情報提供としてテレビを設置して欲しい。	60代	女性
30	言葉は聞いたことはあっても意味を理解しようとする事はあまりなく、この機会がなければ考えることもなかったとおもいます。メディアの影響はすさまじいのでその中で理解をうながしたり、具体的にはどうしたらいいのかを伝えていくこともだいじなんじゃないかとおもいました。おつかれさまでした。	20代	女性
31	本アンケート結果と都城市としての今後の構想を広報誌等で知らせていただきたい。	60代	男性
32	都城市では「家庭で、地域で、職場で、学校でみんなが主役で、みんなが幸せな男女共同参画社会」の実現を目指している。新型コロナウイルス感染症対策の毎日の中、講演会やシンポジウム、フォーラム等の開催も難しい世の中ですが、インターネットを利用したり、公報であったり、このようなアンケートに協力したり、日々の生活の中でも取り組みや行動にうつして行けたらと思います。担当様感謝です。	50代	女性
33	1人暮らしなので安い年金で入れるグループホームを作ってほしいです。体が動かなく成った時の事を考えると心配です。	70代	女性

34	日本人は頭の固い人が中心になって結局その人の意見が通る事が多いと思う。今の時代になってはもう少し柔軟な考えを持って周りを見極め、自分自身の事、他人を理解出来る、活躍できる社会となってほしい。決定してもそれが実行にならないと意味がないと思う。	80代 以上	女性
35	産まれた時から、喜びに満ちて愛情深く育てられることが必要かと思います。自分の命、自分の心は自分で守るしかないと思いつつ、誰かの為になると思うからこそ仕事もできる。	60代	女性
36	男女平等、性差別をなくすのは大切だが、生まれながらにして性差があるのは当然（男の方が力強い、女の人しか産めない等）。それを踏まえた上で、男女の別でなく、個人個人の特性を生かせる社会を作れたらと思います。	50代	女性
37	子育てをしながら仕事をしないと生活が出来ない。税金が高く、生活費もかかるので余裕がない。扶養の上限を103万円よりアップして欲しい。	50代	女性
38	現在学生ですが、将来、結婚、出産、育児を周囲の目を気にすることなくできる社会づくりを是非してほしいです。	10代	女性
39	15頁から17頁は、次回調査特別紙がいいのでは。	80代 以上	男性
40	昭和の人間からすると男性が弱く成ったのか？女性が強くなったのか、現代の人達は女性に対してやさしいと思います	70代	女性
41	少しでも男性・女性共に、生きやすい、働きやすい環境になればいいなと思います。差別や偏見もなくなっていけば、もっと良い社会になると思います。あまりこういった事を勉強していなくて、詳しい事は分かりませんが、自分でも少しずつやれる事を見つけて、協力していきます。	20代	女性
42	今回言葉の説明が記されていたので、理解できましたが、日ごろから横文字の多い時代になったなあと痛感しています。無知すぎるのか、私の回りには男女共同参画という言葉すら知らない者が沢山いると思います。もっと身近に感じられるようお願いします。	70代	女性
43	法に違反すると判断される事項には毅然に徹底的に対処できる仕組み作りを行う。	40代	男性
44	若い世代にくらべ、40代以上の男性は女性を下に見る傾向があると思います。未婚に対しては「早く結婚したら」と言い、子どもがいて働いている女性が、子どもの体調不良で仕事を早退すると小言を言い、上司だから言えないが嫌な思いをしている人も多いのではないのでしょうか。性別に関係なく働きやすい、住みやすい社会になればいいなと思います。	30代	女性
45	市民がわかり易い啓発活動に努めて欲しい	50代	女性

46	このような取組が都城でされていることを初めて知りました。とても良い取組だと思います。	20代	女性
47	市の男女共同参画センターの内容等を、市の広報誌等で周知、報告すべきである。	70代	男性
48	体力的には男性です。女は女、男は男、私達の年代は、女性は内、男性は外…で仕事の分担が女性は家庭内が普通でしたが…今の時代は？やっぱり力仕事は男性、女性には家庭内の仕事があります。75歳のばあちゃんです。	70代	女性
49	障害者の方も社会で共同に働ける社会になれるよう努力してほしい。仕事できなくなって1年以上なり、まだ薬を飲んでいるので暖かい職場づくりが大事など思う。障害者・健常者関係なく一人一人の能力が発揮できる社会へ目指して、全国モデルになれるようにしてほしいです。	30代	女性
50	自分の性別は関係なく、自分のなりたい気持ちになれる社会がつけると良いと思う。	10代	男性
51	私達昭和生まれの人間と現代の人の考えは差があると思います。横文字も増えて時々どうゆう事だろうと言葉の意味さえ分からない事が有ります。アンケートの言葉の説明は切り取ってこれからの参考に致します。	80代 以上	女性
52	男性と女性では、やはりできることに制約があると思います。(体力的にも)それはそれで尊重しつつも男性と女性の役割分担もゆるやかに変化しているように見受けられます。節度ある意識改革を促進し、男女が力を合わせ健全な社会が構築されるよう望みます。	60代	男性
53	男女共同参画に関する言葉の認知度についてですが、最近はどうして何でも横文字で表現するのでしょうか？みんなに本当に理解してもらおうと思うなら、日本語で書くべきです。社会全体が横文字で表現したらカッコ良いと思っているのでしょうか。お年寄りを置き去りにしている表現だと思い悲しいです。	60代	女性
54	都城市にそのような条例があることを知りませんでした。	50代	女性
55	夫は自由気ままにしている(妻談)のに、妻ばかりが家事育児に忙しくしている事例が身近にあります。周囲からあれこれするのは家庭内への過干渉になるので、周囲がサポートできるような相談窓口があると良いと思います。また、それをどうにか改善しようと思わない妻側にも問題があると思うので、夫婦共々の意識改革や、空き時間ではなくて業務時間でも相談できる社会づくりが必要だと思います。	30代	男性
56	アンケート用紙が届くまで、このような取組が行われている事を知りませんでした。すみません。	50代	女性
57	男女の人権が尊重され、くらし豊かな社会の形成を望みます。	50代	女性

58	小さい頃から、もっと女の子に自分にはできるという自信を持たせる教育をする必要があると思う。未だに自分の世代だと、本当に日本女性には政治的能力とかがもともと無いのだろうか、残念に思っているところがある。高等教育を受けている女性の比率は格段に上がっているのに、何故日本のトップには女性がほとんどいないのか。半分は女性であるのに、やはり日本の状況は不自然すぎる。かつては安楽な場所だった専業主婦業も今の日本経済状態では望めなくなっている。もっと女の子にも自分は出来るとそう自信を持たせて自立を促し、その上で協力して生きていく男女のあり方を模索するべきだと思います。	60代	女性
59	特に保守的な地方になると、男女共同参画社会づくりが難しいものになっていると感じる。都心部にいると男女差を意識しない環境がまだ整備されていると感じる。子供から大人まで性別差、人権等について行政から（啓発）発信していただけることを希望します。	50代	女性
60	大人だけではなく、子どもたちに男女共同参画社会づくりについて教える機会がもっと増えるとよいのかなと思います。	30代	女性
61	男女平等と言われているが、これ以上女性に対する優遇が増えていくと、男性軽視につながりかねないと感じる。例えば、女性が男性を呼ぶ場合に肩をたたく際には「セクハラ」と認定されるか？これについては認定されないケースが多いと思う。逆だった場合、女性が少しでも嫌だと感じれば「セクハラ」となってしまうだろう。女性の地位向上を目指し、平等にするとの考えであれば、まずは法整備や女性の方が立場が弱いとの潜在意識を変えるべきではないだろうか。	20代	男性
62	改善はされてきているとは思いますが、都城市は上下関係が厳しく、男尊女卑の考え方が根強く残る地域としてみられる状況が今も残っている。若者を中心に、市全体で払拭していかなければならないと考えている。	60代	男性
63	一部の層の人には未だ男尊女卑の考えが根付いていると感じます。それを取り除くのは困難と思いますが、海外からも「男女平等である」とそう評価される様な国作りに尽力してください。	30代	男性
64	日本にはまだまだ旧来的な考えを持っている方が（特に高齢の方、政治に携わるトップの方々）たくさんおられます。その方々の固定観念を変えることは難しいと思います。定年制を取り入れ、若手のトップで取り組んで頂きたい。	50代	女性
65	すべての人に心が行き届く社会であってほしい。平等とは本当に難しいと思いますが、小さな家族の中から差別のない言葉があってほしいと思います。	70代	女性
66	男女共同参画社会づくりと時代と言ってもまだまだ感じております。昔と違って少しはよくなりつつありますが…	60代	女性

67	昔の考え方を尊重していくのではなく新しい考えをもっていく 男の方が偉いという意識をなくす 女性も活躍できるように職場のふんいきを整える。	10代	女性
68	制度・施策は十分であると思う。50代男性最後は当事者の意識・意志次第であると思う。	50代	男性
69	両親を見ていて、家庭のことの負担が偏っている状況でした。精神的に不安定になっている時の相談窓口があってほしいと思います。	10代	男性
70	全体的にアンケート内容がおかしいと思います。100%の意見はないと思いますが、アンケートにも記入しましたが、なやみながらの回答になりました。	50代	男性
71	今後男女共同参画社会どんどん普及する社会を目指し市民がお互い理解しあえる環境になっていけることを希望します。	50代	女性
72	女性が再就職などをめざすとき、再教育にかかる金銭的負担を軽減するために、NHK料金とか負担の軽減措置があるとよい。130万円を少しでも越えると一気に負担増となる。国民健康保険料金は「世帯収入以上」に負担しているので、女性自身の収入を増やす妨げになる。せめて軌道に乗るまでは女性一人分の収入に対応して料金を決めることはできないのか。「家族」を単位とした制度が多くて「個人」の事情に寄り添えていないのではと感じる。	60代	女性
73	現体制に対して意識付けを行うのは、やや難しい面があると思います。(特に管理職が昭和世代の男性の場合)。これからを担う子供たちへの教育に重点を置いて取り組むことで、柔軟な意識改革ができるのでは、と期待しています。日本の意識は30年経った現在でも(昭和終わり)根本の男女意識は大きく変化していないと思います。(特に組織の上層部)一方で、平成生まれはとても意識が高く理解も有り、冷静な対応ができていると思います。(一個人の感想です)。日本の政治家を参考にすると一番よく分かります。	30代	男性
74	男女というわく組みでなく、人間(個)としての教育が必要だと思います。家事育児は両親の協力が必要であり、相手の考えをよく聞く。そして理解して強調することが大事だと思います。相手を思いやる心があること。子供にその思いやりの心をどう育てるのが必要だと思います。大人の時点での教育はむずかしいと思いますので、学校生活の中での教育(保護者共々)が大切なのではないかと思います。	60代	女性
75	夫婦別姓を希望できる社会。結婚しても一人の人としてそのまま生活できる社会。	40代	女性

76	政治家が男女共同参画社会を作るべきだと教育していくために、まずは政治の世界で女性議員を増やすよう努力するがあると思う。いくら訴えても訴える側が実践できないとついでこないのではないのでしょうか。多くの回答がくることを願っています。ありがとうございました。	10代	女性
77	今現在の社会でも、差別がある環境があるので、その差別によって過ごしにくい人もいますので、性別、年齢関係なく平等になっていけたらと思います。この男女共同参画社会の取り組みは続けていくことによって変わっていくと思うので、いい取り組みだと改めて思いました。その差別によって不利な状況にいる人たちが相談しやすい環境だったりしたらその人たちの心も和らぐと思います。この取り組みをより多くの人に広めていったらいいと思います。	10代	女性
78	全国向けのニュースでは最近よく耳にするなど思っていました。都城でもこのような試みが為されていることは知りませんでした。素晴らしいものができることを期待しております。	50代	男性
79	日々小さなことは起こり得る。生活していく上でそれを立ち止まって顧みる余裕はなかなかない。自然に社会が変わっていかねば難しい部分もあるのでは？	50代	女性
80	男とか女とか共同とかパラドックスでしかない。ただ単に人としての知恵と心の持ちようを如何に教え、人の道を説く道徳を充実させることが大事と思う。おのずと男女の理を学ぶことだろう。役所的には見える形で表現しないと市民の理解を得ることができないので、ハード面充実する事でがんばってください。	50代	男性
81	アンケートの結果アンケートによる取り組みなど（メリット、デメリット）などの公表が必要ではないのでしょうか。目標がもう少しはっきりした方がわかりやすく思います。よりよい社会になりますように。	60代	女性
82	まだ意味を理解出来てない方が多いと思います。身近なところから（回覧板など）周知してほしい。大事なことなので（市政まかせ）指導して行って欲しいです。	60代	男性
83	個人個人の意見と行動を重視する	60代	女性
84	市役所や県や国が取り組みではなく、実績を見せる（数字を作るためではない実績）	50代	男性
85	心身健康であり、すぐにでも働きたいが、育児や介護による時間の都合で働けない多くの方は過去も現在も女性であり、制度はできているものの現実社会には生かされていない。一部の制度が整っても社会全体が連動できなければ真の意味での男女共同参画社会は実現しないと思う。	30代	女性



86	男女共同参画社会づくりに対して市民への活動内容の報告、周知が成されていないのではと思います。広報都城が一番の媒体だと思われませんが、目に留まった記憶がございません。市民の記憶に残る活動、施策の実施・結果の公表を求めます。これからの世代の方々の為に…	50代	男性
87	男尊女卑の風習が今なお根付く都城において、女性の地位向上と活躍の場が広がると思います。法律的なことも含め、小さい頃からの教育が大切ではないでしょうか。お年寄りに考えを改めるようにするにはなかなか難しいと思いますので。	50代	女性
88	問17の言葉についてほとんど知っていない自分に気づくことができ、色々調べて知ることができ、自分は現在の社会から取り残されている感覚を感じました。世の中はいつのまにかどんどん進んでいるんだと感じました。自分の世界がどんなに狭く、自分がどんだけ無知なんだと感ずることができました。これからは男女共同参画社会づくりが益々発展、よりよい世の中になることを願っています。	60代	女性
89	このアンケートのインターネットで回答のところにURL記入していただくとPCからアクセスしやすいと思います。市のページから入ろうとしても入り口が見つからなかったです。	30代	男性
90	男女平等を国がかかげた頃から議題として上がっている内容と男女共同参画社会づくりに関する取組は同類だと思う。結局いつになっても言葉だけで終わり解決しない。	40代	女性
91	仕組みが大事。この事に対し、進んで参加できる施策づくりを期待します。	60代	男性
92	家事代行サービスの充実をしてほしい。今の時代母親が色々できないのは古い。特に田舎はおくれている。昼寝すらできない。	30代	女性
93	全国平均をみても明らかに賃金が安すぎます。同じ仕事内容なのになぜこんなに差がつくのでしょうか。議員の方々の中には居眠りをされたり実績のない方もいらっしゃいます。業績にあわせた賃金の見直しを望みます。こういったところの不平等さで働く意欲がなくなるのも事実です。	30代	女性
94	若い方にアンケートをお願いされたいと思います。	70代	女性
95	時代の変化と共に今後男女が平等に暮らしていける方向へ、少しでも良くなることを願っています。DVなどについても、公にすることをしないで、話を聞いてあげるだけでも心の負担等が軽減するのではないでしょうか。よりよい社会になるために。	70代	女性
96	現状男は介護や育児休暇をとることができない。有休(男・女)できえ、取りづらい。特に中小企業は取るのが悪いみたいなかんじ。	60代	女性
97	都城市男女共同参画センターが都城市役所内に設置されていることを知りませんでした。反省。	60代	男性

98	<p>都城市に住む子育てを応援して下さろうという気持ちにいつも感謝しています。図書館や散歩の途中で我が子に「かわいいね」と声をかけてくださることは、このコロナ禍の中でとても励みになります。こどもの洋服を買いに行くと「男の子用」「女の子用」とはっきり区別してあってびっくりしたことがあります。女の子はピンク、男の子はブルー・・・自分たち親も知らぬ間に「女の子らしさ」「男の子らしさ」を植えつけているのかな・・・と思いました。長く続いた社会通念、習慣（こうあるべき）を変えるのは容易ではないと思いますが、私たち一人一人が「ちょっと違うんじゃない？」と声を挙げることで少しずつ変わっていったらいいなと思いました。アンケートに答えていくことで、自分自身どう思っているのか振り返ることができました。ありがとうございました。</p>	20代	女性
99	<p>P15からの説明は切り離してます。別紙であるとよかったと思いました。</p>	50代	女性
100	<p>男の人の意識が根本から変わらないと周りがかんげっても先は暗いと思う。女の子から生まれているのに女の子にえらそうにしている人、TVではよく聞くDVは理解できない。卵から生まれた男がDVやセクハラしてるんじゃないの？と怒りを感じる</p>	20代	女性
101	<p>共同参画の視点に立った避難所運営共同参画の視点に立った環境整備を行うことは重要である。生活も多様化し、情報も豊かになりました。問25 相談する場所コミュニティ文化課？どんな相談事が有ったのでしょうかプライバシーに関わることでしょうか。ありがとうこれからも感心事としてまいります。</p>	40代	男性
102	<p>ボランティアの男女を集めていろいろな話を聞いてもらう事が一番かな？と思います。</p>	50代	男性
103	<p>子供たちの見本になる大人が少なすぎる</p>	60代	男性
104	<p>なるべく多くの人の意見をきいてほしい</p>	70代	女性
105	<p>男女平等のさらなる認識及び教育</p>	60代	男性
106	<p>男女共同参画の社会においては、近年いろいろな現場等において教育されて、向上してきていると思いますが、まだまだだと思います。今後とも学校、社会その他の組織を通して教育が必要だと思います。今後ともよろしくお願いいたします。</p>	70代	男性
107	<p>男女共同参画委員の運営員は成人のみではなく15歳以上ぐらいの若者も参画させる試みをしてみてはどうだろうか</p>	80代 以上	男性
108	<p>一人親が子育てしやすく、偏見がない、安心できる社会になることを願っています。</p>	30代	女性
109	<p>やはり男の人がえらいとされる世の中だと思います。昔の方は特にそういう考えの人が多いようです。男だからとか女だからとか差別をなくしてほしいです。</p>	40代	女性

110	これからの共同参画の取組にこのアンケートが少しでも役立てば幸いです。	70代	男性
111	男女常に対等の立場であってほしい	80代 以上	男性
112	市役所などの公務員が実践などを見せてほしい	10代	男性
113	男女平等と言われていますが、まだまだ男女・女性ともに、男だから女だからと不平等に感じることがあります。職場の関係上子どもが病気をした時に連絡するのはほとんどが母親だと感じます。男性も少しずつ育児に参加しているのはわかりますが、完全に平等になるのは時間がかかると思います。日本は男女の差という部分で世界に遅れているのはとても感じています。それは男性が女性に対してということもありますが、女性が”それが当たり前”と根本的に考えているのも一つなのではと思います。女性だから男性だから LGBT だからではなく、一人に人間として、皆が輝ける社会になれば良いなと思います。他人事ではなく自分でできることも積極的に取り組んでいきたいです。ありがとうございました。	20代	女性
114	DV やモラハラなど講座をしたところで（加害者側）にはなかなか届きにくいと思います。（そういう方が講座に出向くとは考えにくい・・・）精神的なケアが行き届くと良いと思う。また、世間の風潮的に、世間体を気にしたりせず、満たされない日常を送らずにすむようになれば良いと思う。自分より人の為が美德とされすぎて、幸せを感じられずにクラス人が減れば男女問わず DV、モラハラなど減るのでは？と思う。	30代	女性
115	男女安心して暮らせる家があるといいと思います。みなさまの意見がよい方向に進むことを願います。	60代	女性
116	子供もいないし・目下一人暮らし。年齢的にも問いに戸惑う事が多い。もう少し早くにこういう調査をしてほしかった。今さらという気持ちと、今だからという気持ちとありました。	80代 以上	女性
117	田舎ならではの男性はこう有るべき、女性はこうあるべきが根強く残っている気がします市としてもっと力を入れるのであれば、もっと市民に分かりやすく知ってもらう努力が必要だと思いました。やっているだけでなくいかに市民に伝わっているかを大事に取り組んでいただけたら幸いです。	30代	女性
118	自分自身の意識改革がもっと必要だと思いました。男・女関係なくひとりの人間としていろいろ発揮できる社会になれば良いと思います。	50代	女性

119	時代の流れと共に、性別格差はなくなっていると思う。しかしながら、男女には其々の違った役割分担があり、解消出来ない部分も多くある。これこそが多様性の1つではないだろうか。その中で、男女参画社会という言葉があり続けること自体が、人間の中で“格差”を意識させ、ダイバーシティ(多様性)との両立を妨げる要因だと考える。	30代	男性
120	”男女”共同参画という言葉は、男女差別についての事のみであるように感じる。LGBTの方や障がいのある方は関係ないと感じている人も多そう。もっと男女共同参画の内容がわかるような、誰にでも当てはまるのだとわかるような言葉にならないかと思う。	20代	女性
121	女性目線に立って、何が足りなくて、不足しているのか？を良く聞いて見る	50代	男性
122	前職場で、職員の数が足りなくなるので妊娠を待って欲しいと言われました。更に「ハラスメントのつもりじゃないよ」と言われてしまい何も言えませんでした。結局授かりものなので、上司の言う通りにはなりませんでしたが、信頼していた上司ただだけにショックでした。職場の環境もありますが、社会全体で支え合い、意識の改革、本当に大切だと思います。	20代	女性
123	都城では高齢の男性が特に男尊女卑的な所がありまた高齢の女性が特にそれを当たり前だと捉えているそんな環境の中で子供は大人を手本にしている幼少期から性やジェンダーに対しての正しい教育をもっと充実させていかなければ何も変わらないと思う。世界の先進国からみても日本の性教育は大変遅れておりそもそも指導ができる大人が居ない地方では特に YouTube などのインターネットを使って教育をするなど工夫が必要であると感じる。性教育は恥ずかしがったり隠したりする事ではない子供を色々なものから守るために一人の人間として扱って欲しいと願います	40代	女性
124	男女の平等、LGBTQ への差別をなくすことは目的ではなく、それが出発点となるようにすることが、これからの世界を救うことにつながると感じている。男女共同社会作りの取り組みを頑張ってください。応援いたします。	70代	男性
125	自分自身がよくわかってないところが多いと感じています。地方は、都市部と比べてどうしても意識は低くなると思います。高齢者が多数を占めてるのもその要因かとおもいます。	50代	男性
126	平等よりも公平を望みます	20代	男性
127	海外では男女平等についての活動をよく見るが、自分の周りではそんなに進んで無いのかなと感じた。	20代	男性
128	生涯独身者に対する理解、支援の充実。	50代	女性
129	地道な意識啓発。	60代	男性

130	以前、病院で勤めていたのですが職場からのパワハラ、モラハラ、マタハラを受けていたのですが、どこにも相談できませんでした。きっとあの職場は直らないと思いますが、、職員からもイジメがありました。結果的に、辞めさせられてしまいました。こう言った時に相談できる場所があるといいなと思います。	30代	女性
131	男女だけでなく個々も(持病がある障害があるなどによって)平等ではない。職場では制度や権利を尊重するために他の従業員に負荷がかかることは間違っていると思う。家庭内においては民事不介入もあるので夫婦で役割分担していただくしかなく困っているなら相談窓口を活用してほしい。教育現場においては男女に関わらず一人で生きていけるスキルを身につける場であってほしい。	40代	女性
132	女性の給料が男性よりも低い会社を無くす。同じ、もしくはそれと同等レベルじゃないと平等とは言えない。女性限定の仕事や男性限定の仕事など限定を付けずに会社は人を募集した方がいいとおもう。家庭面では、女性は「女の子の日」が来るのでそのことをしっかりと理解する男性を増やすべき。そのため男性が家事をできるようになっておかなければならない。	10代	男性
133	自分達もそうですが、世間全般の方々が、より柔軟・素直に物事を考え、受け止める事がとても大事だと思います。	40代	女性
134	市民の意見が多く反映される働きを希望します	50代	女性
135	色々法律等ありますが、法律で解決するのではなく、一人一人の事情、ケースバイケースに合ったものを取り入れて社会づくりをしてほしいですね。又役所が頑張っても一人一人の育った環境が違い、市民の意識も違いますね。宮崎県民は、まわりを気にして1人ではなかなか前に進めず、個性が出せないこと非常に残念な県民性ですね。	70代	女性
136	兵庫県明石市の子育てに対する取り組みや同性カップル等に対する取り組みをニュースで見て、都城市もそのようになればもっと暮らしやすくなるなあと考えていたところ、このようなアンケートが届き、取り組みをしていっしょにやることがわかってよかったです。ありがとうございます。	40代	その他
137	みんなが生きやすい環境を作ってほしい。本気で市が取り組むなら、男女共同参画社会を作るなら、女性ばかりを取り上げ、棚に上げるのをやめてほしい。そして、これは国を変えるつもりでやらなければ絶対に叶わないと思うので、志高く頑張してほしい。女性の方に聞きます。女性ってそんなに弱者ですか？私は全然強いものであると思うのですが、違いますか？今の社会は何もかも過保護すぎませんか？家事や育児は仕事ですか？お金が発生しないとできないことですか？自分たちのことですよ？自らが招いている事ですよ？自分たちのことぐらい自分たちでしませんか？できない、したくない、切り捨てるしかなくなりませんか？	30代	男性

138	<p>私は男女平等ではない社会なので、結婚・出産はしませんがそういう決定をしたくなかったです。温かい家庭を持つのが夢でした。私のことはいいので今、子育てと夫と仕事に板挟みで苦しんでいる女性を助けてあげてください。子育ての苦しみには逃げ場がないのできっと子育てが辛い人の人生は地獄そのものだと思います。男女が自立した仕事に就けるべきと思うが、現在は、女性が低賃金で働かされながら、家事にもなわされ、十分な寝る間もない。なので、目指すべきは職場で男女に同じ機会があることが達成ではなく女性がゆっくり寝て、女性が（自分の）趣味の時間が持て、女性の言うことが通る、女性の生きるストレスを緩和できる社会である。（男女平等には早くなっしてほしいが「女性が家事・子育て」という考え方が改善されないうちに、女性にもっと職場で活躍しろというのは酷。絶対に許さない。それは女性は働いて尽くして死ぬ。と言っていると一緒。）男性の自己実現のために女性が生きているのではない。非正規雇用をなくす取り組みをお願いいたします。女性もみんな正規の公務員のような待遇になれば子育ても自立できます。そういう社会を目指す取り組みをしてください。社会を整えてから、（差別をなくしてから）活躍を推進すべき。政治や国レベルで意識改革していく必要があると思う。日本は「お母さん」に幻想をいだいているところがあると思う。超人じゃないのだから、そういう考えを撲滅していくことが大事だと思う。妻＝「お前のお母さんじゃねーよ」ということに尽きると思います。男女共同参画は「女性を労働力にするため」かつ男女を平等にすることで、子供を産みやすくして「子＝労働力を増やす」ことが目的なのかなというイメージがあります。そうではなくて、女性が楽になる今までの苦しみから解放される取り組みであってほしいと切に願います。</p>	30代	女性
-----	--	-----	----

## その他等の意見

その他意見欄で頂いたご意見のカテゴリー一覧

※調査結果には、類似している意見につきましては代表として一つを記載しています。

(問10) 女性の就業についてどのように思いますか	52件
(問11) 仕事の内容や待遇面で、男性が女性に比べ優遇されていると思うもの	11件
(問12) 仕事の内容や待遇面で、女性が男性に比べ優遇されていると思うもの	38件
(問13) すべての人が働きやすい環境を整えるために、何が必要ですか	22件
(問16) あなたは育児・介護休業制度を利用したことはありますか	42件
(問19) 一人ひとりの個性が生かせる社会づくりを推進するために、男女共同参画センターで取り組む必要があるのはどのようなことですか	16件
(問22) あなたはこれまでに問21であげたような行為について、誰かに相談したりしましたか。	5件
(問23) 「相談できなかった・相談したくない等」の理由にあてはまる□にレ点を記してください	13件
(問24) あなたは、ハラスメントやドメスティック・バイオレンス(DV)等を防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか	30件
(問25) 避難所の運営には、男女共同参画の視点に立った環境整備を行うことが重要であるといわれています。必要だと思われる取り組みの□にレ点を記してください	19件
合 計	248件

多くのご意見等をお寄せいただきありがとうございました。頂いたご意見を参考に、今後の取り組みに反映してまいりますので、これからも本市の男女共同参画社会づくりにご協力いただきますようお願いいたします。

### 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

都城市市民生活部コミュニティ文化課

男女参画・消費生活担当

TEL 0986-23-2121

FAX 0986-21-3034

E-mail : danjo@city.miyakonojo.miyazaki.jp

# 市民意識調査

日頃から、都城市政にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

本市では、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざして、都城市男女共同参画計画を策定し様々な取組を進めています。

この調査を通じて、市民の皆様のご意見をうかがい、その結果を今後の施策に活かしてまいります。調査の対象者の選定は、5月10日付けで市内にお住まいの18歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた3,000人の方をお願いしております。調査の過程や結果の公表にあたり、個人が特定されるようなことはございません。

ご多忙のところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

※「民法の一部を改正する法律」が2022年4月1日から施行されることにより、成年年齢が18歳に引き下げられます。

令和3年 6月

都城市長 池田 宜永

## 《 調査票のご記入にあたって 》

1. このアンケートの回答は、封筒の宛名ご本人がご回答ください。ご本人によるご回答が困難な場合、ご家族などのご協力により**6月29日（火）まで**にご回答ください。

2. ご回答方法については、この調査票又は市HPでの回答が可能です。

(1) 市HP（インターネット回答）でご回答いただく方は →



QRコード

※調査票は、破棄してください。

(2) 調査票でご回答いただく方は、調査票に選んだ番号を○印で囲む又は□にシ点を記してください。なお、「その他の回答欄」には、具体的内容をご記入ください。

**※ご記入いただきました調査票は、内容をお確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手及び記名等は不要）に入れ、ポストにご投函ください。**

3. 質問によってご回答いただく方が限られる場合がございますので、説明にしたがってご回答ください。

【アンケートの内容等についてのお問い合わせ先】

〒885-8555 都城市姫城町6-21 都城市役所  
市民生活部 コミュニティ文化課 男女参画・消費生活担当  
TEL : 0986-23-2121

QRコード





## アンケートにお答えいただく皆様へ

本市では、男女共同参画に関する市民の意識について、5年毎に比較検討していくためアンケートを実施しています。今後の取組に反映していきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、前回の市民意識調査以降の市の男女共同参画社会づくりの実現に向けた取組について以下のとおり簡単ではございますが、列挙しております。アンケート回答の参考としていただきますようお願いいたします。

### 【都城市の男女共同参画の動き（平成28年度～）】

#### 1. 平成28年度 都城市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査実施

都城市内に在住の20歳以上の方の中から無作為に選ばれた3,000人を対象として実施しました。男女共同参画センターの認知度や、男女共同参画についての意識調査を行い、1,052人からの回答をいただきました。

#### 2. 第3次都城市男女共同参画計画策定

平成28年度に実施したアンケートの調査結果を踏まえ、第3次都城市男女共同参画計画を策定し、DV対策基本計画と女性活躍推進計画を組入れました。計画の詳しい内容は都城市HPで「第3次都城市男女共同参画計画」と検索してください。

#### 3 女性活躍推進事業

女性活躍推進計画に基づき、女性活躍推進事業として、講演会、講座、女性の就労支援等を実施しました。

#### 4 総合相談事業

都城市男女共同参画センター（都城市役所2F）では、相談窓口を設置しています。電話相談（男性も可）、面接相談、専門家による専門相談を実施しています。令和2年度からは、みやざき若者サポートステーションと連携し、16歳から49歳までの方の就労に向けての不安や悩み相談等も行っています。

#### 5 その他に

第3次男女共同参画計画に基づき行った、各課の取組を紹介します。

- ・全国の小・中学校に比べて低かった男女混合名簿の活用推進を図った（学校教育課）
- ・令和元年度時点児童クラブの総開設数70箇所（保育課）
- ・講演会、出前講座、街頭啓発（mall mall、イオン）を実施
- ・令和3年度実施アンケートでは、性別に「自認」を記載しました。

※ 毎年度男女共同参画に関する市の取組実績や講座等の詳しい内容は都城市HPで閲覧できます。  
「くらし・手続き」>男女共同参画>行政の取り組み」で検索してください。

## 回答者について

あなた自身のことについてお伺いいたします。

問1 あなたの性別を教えてください。(戸籍上の性別に関わらずご自身が自認される性別でご回答ください)

- 1. 女性(女性だと自認しています)
- 2. 男性(男性だと自認しています)
- 3. その他

問2 年齢を教えてください。

- 1. 18～19歳
- 2. 20～29歳
- 3. 30～39歳
- 4. 40～49歳
- 5. 50～59歳
- 6. 60～69歳
- 7. 70～79歳
- 8. 80歳以上

問3 あなたのご職業は何ですか。

- 1. 常勤の勤め(正規の社員、職員、会社役員、従業員)
- 2. 非常勤の勤め(臨時職員、パート、アルバイト、嘱託)
- 3. 農業、林業等の自営業
- 4. 商業、工業、サービス業、その他の自営業
- 5. 無職(学生、その他の無職等)

問4 現在結婚していますか。

- 1. 結婚している
- 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている
- 3. 離別
- 4. 死別
- 5. 未婚

問5 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。

- 1. いる
- 2. いない

【男女の地位について】

問6 男女の地位について、あなたは次のA～Hにあげるような分野で、平等であると思いますか。

(〇は1つ)

	非常に平等	平等	平等でない	全く平等でない
A. 家庭生活	1	2	3	4
B. 職場	1	2	3	4
C. 学校教育の場	1	2	3	4
D. 地域社会（町内会、自治会など）	1	2	3	4
E. 政治の場	1	2	3	4
F. 社会制度	1	2	3	4
G. 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4
H. 社会全体として	1	2	3	4

**【家庭での夫婦の役割分担について】**

問 7 あなたのご家庭では、次のA～Gの項目について、主に誰が行っていますか。(現在該当が無くても過去のご経験や今後の予想としてお選びください)  
(〇は1つ)

	夫のみ	主に夫	主に妻	妻のみ	妻と夫
A. 家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5
B. 掃除、洗濯、炊事などの家事	1	2	3	4	5
C. 育児、子どものしつけなど	1	2	3	4	5
D. 病院などの付添いや介護	1	2	3	4	5
E. PTA や子ども会、部活など子供に関わる活動への参加	1	2	3	4	5
F. 公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5
G. 家庭内における最終的な決定	1	2	3	4	5

**【理想の家庭での夫婦の役割分担について】**

問 8 あなたは次の A～G の項目について、どのように分担するのが理想であると思いますか。  
(〇は1つ)

	夫のみ	主に夫	主に妻	妻のみ	妻と夫
A. 家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5
B. 掃除、洗濯、炊事などの家事	1	2	3	4	5
C. 育児、子どものしつけなど	1	2	3	4	5
D. 病院などの付添いや介護	1	2	3	4	5
E. PTA や子ども会、部活など子供に関わる活動への参加	1	2	3	4	5
F. 公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5
G. 家庭内の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5

【結婚・家庭・離婚について】

問9 結婚、家庭、離婚についてのあなたのご意見を、次のA～Eの項目についておたずねします。

(〇は1つ)

	非常に賛成	賛成	反対	非常に反対
A. 結婚は個人の自由であるから、結婚する、しないは、個人の意思に任せればいい	1	2	3	4
B. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4
C. 女性は結婚したら自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4
D. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4
E. 結婚生活の継続が難しい相当な理由があるときは、離婚してもよい	1	2	3	4

問10 女性の就業について、どのように思いますか。□にレ点を記してください。

(レ点は1つ)

- 1. 結婚するまでは仕事に就き、その後は専業主婦となるのがよい
- 2. 妊娠するまでは、仕事に就いたほうがよい
- 3. 出産後は仕事をやめ、子どもが成長したら再び仕事に就く方がよい
- 4. 家事や育児に支障のない時間帯で仕事に就くほうがよい
- 5. 出産しても育児休業制度等を利用し、フルタイムで仕事を続けるほうがよい
- 6. やりがいのある仕事に就いて経済的に自立するのがよい  
(結婚、出産、育児等を人生の目標とは考えない)
- 7. その他 ( )
- 8. わからない

【職場での男女の地位、待遇について】

問1 1 仕事の内容や待遇面で、男性が女性に比べ優遇されていると思うものに□にシ点を記してください。(2つまで)

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 賃金                                | <input type="checkbox"/> 2. 昇進、昇格       |
| <input type="checkbox"/> 3. 能力の評価基準                           | <input type="checkbox"/> 4. 仕事の質や量(期待値) |
| <input type="checkbox"/> 5. 幹部職員への登用                          | <input type="checkbox"/> 6. 教育・訓練を受ける機会 |
| <input type="checkbox"/> 7. 結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量(キャリアアップにおいて) |   |
| <input type="checkbox"/> 8. 定年まで勤務すること                        | <input type="checkbox"/> 9. 特にない・分からない  |
| <input type="checkbox"/> 10. その他( )                           |   |

問1 2 仕事の内容や待遇面で、女性が男性に比べ優遇されていると思うものに□にシ点を記してください。(2つまで)

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 賃金                                | <input type="checkbox"/> 2. 昇進、昇格       |
| <input type="checkbox"/> 3. 能力の評価基準                           | <input type="checkbox"/> 4. 仕事の質や量(期待値) |
| <input type="checkbox"/> 5. 幹部職員への登用                          | <input type="checkbox"/> 6. 教育・訓練を受ける機会 |
| <input type="checkbox"/> 7. 結婚や、子どもが生まれた後の仕事の質や量(キャリアアップにおいて) |   |
| <input type="checkbox"/> 8. 定年まで勤務すること                        | <input type="checkbox"/> 9. 特にない・分からない  |
| <input type="checkbox"/> 10. その他( )                           |   |



【学校教育の場における男女の地位について】

問14 次のA～Eの項目で、男女の地位の平等意識の育成にどのように影響すると思いますか。  
(○は1つ)

	非常に妨げる	妨げる	妨げない	分からない
A. 性別により固定化された進路・就職指導を行うこと(例:「男子は工学系、女子は看護系」)	1	2	3	4
B. 生徒会、団長、学級委員の選出を性別により固定化して行うこと(例:「団長は男子、副団長は女子」)	1	2	3	4
C. ランドセルや学習用品の、男女別の色分けを行うこと(例:「男子は黒、女子は赤」)	1	2	3	4
D. 教師の男女平等意識が足りないこと	1	2	3	4
E. 学校の女性管理職(校長、教頭)が少ないこと	1	2	3	4

【子どものしつけ・教育について】

問15 次のA～Cの項目について、子どものしつけや教育についてどのように思いますか。  
(○は1つ)

	非常に賛成	賛成	反対	非常に反対
A. 性別に関わりなく経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要	1	2	3	4
B. 性別に関わりなく炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせることが必要(家事代行サービスなどに抵抗感なく利用できるなどの意識づくりを含む)	1	2	3	4
C. 本人の意思に関係なく、男性は男らしく、女性は女らしく育てたほうが良い	1	2	3	4



【育児・介護休業について】

問16 あなたは育児・介護休業制度を利用したことがありますか。□にシ点を記してください。(シ点は1つ)

- 1. 育児・介護休業制度を利用したことがある
- 2. 育児・介護休業制度を利用したい
- 3. 夫婦で育児・介護休業制度を利用したことがある
- 4. 夫婦で育児・介護休業制度を利用したい
- 5. 育児・介護休業制度は知っているが、利用したことがない
- 6. 育児・介護休業制度は知っているが、利用したいと思わない
- 7. その他 ( )
- 8. わからない

【男女共同参画に関する言葉の認知度について】

問17 次のA～Nの言葉についてご存知ですか。

(〇は1つ)

	言葉・意味 ともに知っ ている	言葉のみ 知っている	聞いたこと はある	わからない
A. 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
B. 育児、介護休業法	1	2	3	4
C. 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
D. 都城市男女共同参画社会づくり条例	1	2	3	4
E. 都城市女性総合相談	1	2	3	4
F. ジェンダー（社会的性別）	1	2	3	4
G. 固定的性別役割分担（分業）意識	1	2	3	4
H. ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3	4
I. セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	1	2	3	4
J. 性と生殖に関する健康／権利（リプロダクティブ・ヘルス／ ライツ）	1	2	3	4
K. 女性のエンパワーメント	1	2	3	4
L. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3	4
M. アンペイド・ワーク（無償労働）	1	2	3	4
N. 性的少数者（LGBT）	1	2	3	4
O. ダイバーシティ（多様性）	1	2	3	4
P. アンコンシャス・バイアス	1	2	3	4
Q. アサーション	1	2	3	4
R. ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
S. SDGs（持続可能な開発目標）	1	2	3	4

※言葉の説明については、P16・P17に掲載しています。



【ハラスメントについて】

問20 あなたは職場や学校、地域等で、ハラスメント（嫌がらせ、いじめ）を経験したことがありますか。□にシ点を記してください。（シ点はいくつでも）

- 1. セクシャル・ハラスメント（性的な嫌がらせ）
- 2. パワー・ハラスメント（権力や地位による嫌がらせ）
- 3. モラル・ハラスメント（無視、にらむ、いやみを言う、馬鹿にされる、不機嫌に振舞うなど）
- 4. マタニティ・ハラスメント（妊娠、出産、子育てなどをきっかけに嫌がらせや不利益扱いを受けること）
- 5. パタニティ・ハラスメント（育児のための制度を利用とする男性職員が嫌がらせや不利益扱いを受けること）
- 6. SOGI（ソジ）ハラスメント（性的指向・性自認に関連して差別的な言動や嘲笑、いじめや暴力などの精神的・肉体的な嫌がらせや不利益扱いを受けること）
- 7. 特になし・わからない

【配偶者からの暴力について】

問21 あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居中、離別、死別を含む）、恋人などからの暴力を受けたことはありますか。□にシ点を記してください。（シ点はいくつでも）

- 1. 身体的暴力を受けた
- 2. 精神的暴力を受けた（無視、言葉で脅す等）
- 3. 経済的暴力を受けた（働かせない、お金の用途を確認、生活費を渡さない等）
- 4. 性的暴力を受けた
- 5. 社会的暴力を受けた（親や友人等の付き合いの制限、電話・メール・行動などチェックされる等）
- 6. 子どもを利用した暴力を受けた（子どもの前で暴力を受ける、「子どもに危害を与える」と脅される等）
- 7. 特になし（問24へ進んでください）

問22 あなたはこれまで、問21であげたような行為について、誰かに相談したりしましたか。□にシ点を記してください。（シ点は1つ）

- 1. 相談した（問24へ進んでください）
- 2. 相談できなかった
- 3. 相談したもの・できなかったものがある
- 4. 相談したくない
- 5. その他（ ）

(問 22 で 2～5 を選択した方のみ)

問 23 「相談できなかった・相談したくない等」の理由にあてはまる口にシ点を記してください。  
(シ点はいくつでも)

- 1. どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった
- 2. 誰にも言いたくなかった
- 3. 相談したことが相手に気付かれて、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
- 4. 自分さえ我慢すれば、なんとか生活できると思ったから
- 5. 世間体が悪いから
- 6. 自分にも悪いところがあると思ったから
- 7. 慣れているから
- 8. その他( )

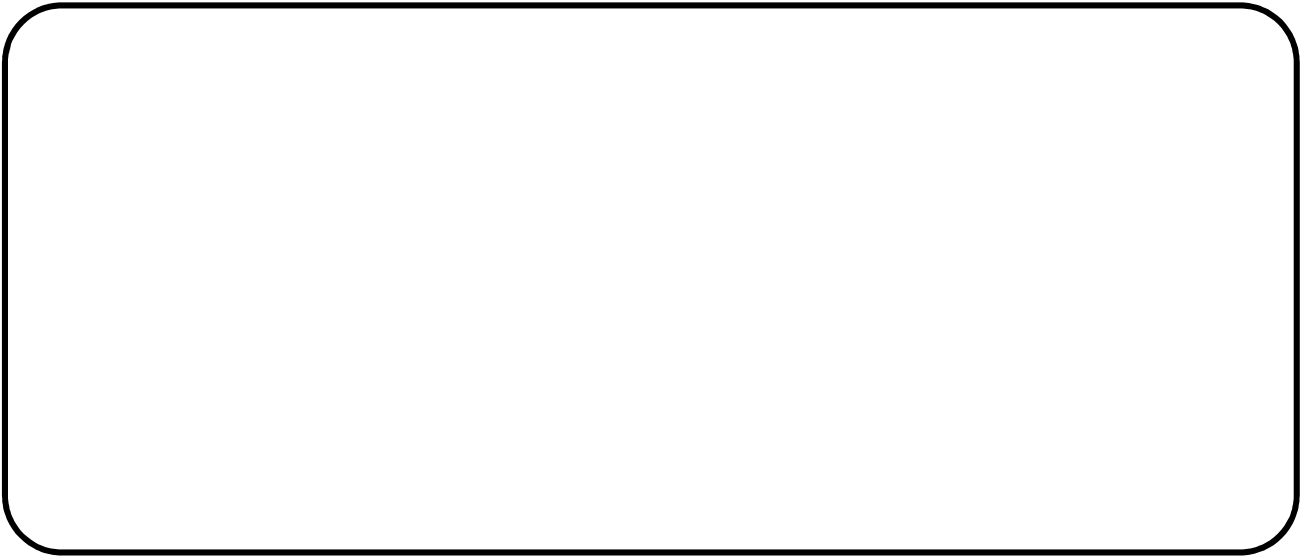
【被害防止対策について】

問 24 あなたは、ハラスメントやドメスティック・バイオレンス(DV)等を防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる口にシ点を記してください。  
(シ点はいくつでも)

- 1. 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2. 犯罪の取締りを強化する
- 3. 捜査や裁判等において、被害届が出しやすい環境整備を図る
- 4. 被害者支援のための相談機関や保護施設を整備する
- 5. 保護者を対象とした男女共同参画に関する講座の開催(家庭での教育の充実)
- 6. 教職員や児童・生徒を対象としたハラスメント、DVについての教育の充実
- 7. 職場におけるハラスメントやDVについての教育の推進
- 8. メディアが自主的に取組を強化し、性的な側面や暴力を過度に取扱わないようにする
- 9. その他( )
- 10. わからない



男女共同参画社会づくりに関する取組についてのご意見等をおきかせください。



ご協力ありがとうございました。

## アンケート内にある言葉を説明しています

男女共同参画社会	性別に関わり無く、全ての人があらゆる分野で活躍できる社会
社会通念・慣習	社会に通用している物の見方や生活する上での昔からのならわし
家事代行サービス	食事を作る、掃除、洗濯などの家の仕事を代わりに行うサービス
再雇用制度	一度辞めた人を再度、雇う制度
育児休業	こどもを育てるために、とることができる休み
介護休業	家族の介護をするために、とることができる休み
テレワーク	通信の技術をつかい、時間や場所の制限なく働くこと
フレックスタイム制	出社や退社の時間を働く人自身が決めて働くことができる制度
P T A	こどもの家族と先生の会
病中、病後児童	病気や、病気が治ったばかりの子ども
在宅福祉	家で受けられる福祉サービス
福祉施設	福祉サービスを提供するための場所
工学系	科学や数学の知識をもとに、役立つ技術を開発する学問
看護系	病気やけがをした人の治療を手伝う人
育児休暇	こどもを育てる為にとる休暇
自認	自分自身が認めていること
世間体	周囲の人に対する見え方や外見
授乳室	母親が子どもに母乳などを与える部屋
更衣室	着替えをする部屋
死角	人から見えない場所



## 問 17 の言葉について説明しています

### だんじょきょうどうさんかくしゃかいきほんほう 男女共同参画社会基本法

男女の人権が尊重され、かつ、社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現するため、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として定められた法律です。

### いくじ かいごきゅうぎょうほう 育児・介護休業法

育児又は家族の介護を行う労働者の職業生活と家庭生活との両立が図られることを目的として定められた法律です。

### だんじょこ しょうきかいきんとうほう 男女雇用機会均等法

募集・採用、配置・昇進について、性別による差別の禁止を定めた法律です。

### みやこのじょうしだんじょきょうどうさんかくしゃかい じょうれい 都 城市男女共同参画社会づくり条例

男女共同参画社会の形成を促進するために、市の基本理念を定め、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として定められた条例です。

### みやこのじょうしじょせいそうごうそうだん 都 城市女性総合相談

女性が抱える様々な相談内容を傾聴し、相談者の問題解決のための情報・知識を提供するとともに、自らが問題解決できるような助言、アドバイスをすることを目的として、平成 17 年 5 月から開設しました。

### しゃかいてきせいべつ ジェンダー(社会的性別)

「男らしさ 女らしさ」といった、社会の文化や時代などによって求められる、それぞれの性にふさわしいとされる振る舞いやあり方により区別される場合の性別を指して「ジェンダー(社会的性別)」といいます。

### こていてきせいべつやくわりぶんたん ぶんぎょう いしき 固定的性別役割分担(分業)意識

男性は労働力として家庭の外へ、女性は家事等を担うため家庭内へ、という固定化された男女の性別による役割分担のことです。

### ドメスティック・バイオレンス

配偶者や恋人など親しい関係にあるパートナーからの暴力をいいます。暴力には、身体的暴力ばかりでなく、精神的暴力、経済的暴力等も含まれます。

### セクシュアル・ハラスメント

相手方の意に反した性的な性質の言動のことで、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさの流布、わいせつな写真の掲示など様々な態様のものが含まれます。

## せい せいしよく かんするけんこう・けんり 性と生殖に関する健康/権利

性と生殖に関する健康とは、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなど、生涯を通じて身体的、精神的、社会的に良好な状態であることをいいます。また、性と生殖に関する権利とは、子どもを産むかどうか、いつ何人生むかについて選択できる自由を含む性と生殖に関する健康を享受することが出来る権利をいいます。

## じよせい 女性のエンパワーメント

女性一人ひとりが、法的、経済的、政治的力や自己決定能力などの力をつけていくことで、お互いに連帯し、政策・方針決定の場や意志決定過程へ参画していくことを指しています。

## せつきよくてきかいぜん そ ち ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

社会的・経済的な格差が現実存在する場合、少数の性の側が置かれた状況を考慮して積極的に機会を提供することにより、実質的な「機会の平等」を目指すものです。

## むしやうろうどう アンペイド・ワーク(無償労働)

無償労働、すなわち家事・育児・介護や地域社会におけるボランティア活動などのように、賃金や報酬が支払われない働き方や活動をいいます。

## せいてきしょうすうしゃ 性的少数者

身体上の性別と心の性が異なり、身体上の性別に対し違和感を持つ性同一性障害の方や、性的な意識の対象(性的指向)が同性又は両性に向かう方、先天的に身体上の性別が不明瞭な方などをいいます。

## たようせい ダイバーシティ(多様性)

性別や国籍、年齢などの多様性が活かされた働き方を推進する考え方のことをいいます。

## アンコンシャス・バイアス

自分自身が気付いていないものの見方や捉え方のゆがみ・偏りのことをいいます。

## アサーション

お互いの価値観を尊重しながら対等な関係を築くコミュニケーションのことをいいます。

## ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活と調和のことをいいます。

## エスディーゼーズ じぞくかのう かいはずもくひょう SDGs(持続可能な開発目標)

2015年国際サミットで採択され、2016年から2030年の15年間に達成する為に掲げられた世界共通の17の目標のことをいいます。

都城市市民生活部コミュニティ文化課  
男女参画・消費生活担当

TEL 0986-23-2121

FAX 0986-21-3034

E-mail [danjo@city.miyakonojo.miyazaki.jp](mailto:danjo@city.miyakonojo.miyazaki.jp)